

以テ創立ヲ許可セラレタリ然ルニ該會社ハ幾クモ無ク其營業ノ中麻布ニ屬スル部分ヲ廢シ專ラ銀行事務ヲ營ミテリ爾後蘇國各銀行中最モ勢力アリテ最モ富裕ナル一銀行トナレリ然レニ未タ蘇國ノ銀行事務ヘ新ナル顯象ヲ現ハスヲナカリキ夫ノ融通手形法ノ大ニ厭フヘク又惡ムヘク商業ノ變動ヲ惹キ起ス所ノ先驅トモ謂ツヘキモノハ即チ此手形ナルヲノ世ニ昭著トナリタルハ蓋此時限ニ在リトス蘇國各銀行ハ此際最モ有益ナル經驗ヲ得タルモノト見ヘ各自相警メテ紙幣ノ發行額ヲ減少セリ此事ヤ大ニ多數ノ投機者及ヒ冒險者ヲ畏怖驚愕セシメタリ唯ニ之ヲ畏怖驚愕セシメタルノミナラズ大ニ之ヲ憤怒セシメタリ左ニアダムスミス氏ノ論說ヲ引用セン

アダムスミス氏曰(前略)此際各銀行カ其紙幣ノ發行ヲ警メ手形ノ割引ヲ減少セルニ由リ首トシテ其苦痛ヲ受ケタルモノ

ハ實ニ彼輩投機者及ヒ冒險者ナルニ彼輩ハ直ニ之ヲ稱シテ蘇國一般ノ危難ナリト云ヒ而テ蘇國一般ノ危難ヲ致シタルハ全ク各銀行ノ無智ナル、怯懦ナル、及ヒ其行爲ノ不良ナル彼ノ身ヲ公益ノ事業ニ委テ孜々之ニ尽力レテ曾テ怠ルコトナク蘇國ヲ美麗ニシ、蘇國ヲ改良シ、蘇國ヲ富裕ナラシメントスル輩ニ寛大豊厚ナル補助ヲ與ヘサルコト之レ由レルナリト稱セリ且彼輩ハ以爲ク銀行タルモノハ其借用人ヘ成ルヘク長期ノ貸附ヲ爲シ且ツ成ルヘク借用人ノ望ニ應シ多額ノ金圓ヲ貸附ル義務アルモノナリト然ルニ各銀行ハ此時ニ於テ從前ヨリ已ニ過度ノ貸附ヲ爲シタル者ニ對シ卒ニ多額ノ貸附ヲ爲スヲ拒ミ各自ノ信用ヲ保チ兼テ全國一般ノ信用ヲ保持シ得ルノ方法ヲノミ之レ探レリ

此危難ノ際ニ於テ之ヲ救濟セントスルノ目的ヲ以テ一銀行

ノ蘇國ニ創立スルアリ此銀行ノ目的タルヤ甚ク寛大好ミス
 ベシト雖其業務ヲ執ル甚ク危険ナルヲ免レヌ而テ其救済セ
 ントスル危難ノ性質ト原因トニ至テハ蓋恐クハ之ヲ了解セ
 サリシナラシ、サテ該銀行カ信用貸ヲ許シ若クハ爲換手形ヲ
 割引スルニ於テ大ニ他ニ優リテ寛大極メタリ且爲換手形
 ノ割引ニ關シテハ實有手形振出スモノト融通手形ノ融通
 ナ目的トシテトノ間ニ區別ヲ設ケズ皆一様ニ之ヲ割引シタ
 ルカ如シ且相當ノ抵當アレハ資本ヲ擧ケテ之ヲ土地改良ノ
 如キ成效ヲ永遠ニ期スヘキ事業ニ使用セシテ主義トシテ
 ノ如キ公益ノ事業ヲ改良獎勵スルハ實ニ該銀行ヲ組織シタ
 ル一大主眼ナリト明言セリ右ノ如ク該銀行ハ信用貸并ニ爲
 換手形ノ割引ヲ爲スト頗ル寛大ナルヲ以テ多額ノ紙幣ヲ發
 行シタルヤ疑ヒ無シ然ルニ其紙幣ノ大半ハ蘇國ノ流通上ニ

必要ナル金額ニ超過シ容易ニ之ヲ運用スルヲ能ハサルヨリ
 其發行スルヤ忽チ金銀ニ引換ヘンカ爲メニ銀行ニ返入セリ
 而テ銀行ノ金庫ハ曾テ充實シタルヲ無カリキ抑該銀行ニ於
 テ兩度ニ募リタル資本金ハ合計拾六万磅ナレハ其拂込ミタ
 ル高ハ僅ニ其八割ナリシ且此金額ハ月賦ヲ以テ數回ニ拂ヒ
 込ムヘキモノナリ然ニ株主ノ内多クハ第一回ノ拂込ミヲ爲
 スト同時ニ該銀行ト信用貸ノ約束ヲ結ビ而テ該銀行ノ取締
 役ニ於テモ其株主ニ對スルハ猶他ノ得意先ニ對スルト同
 ニ之ヲ厚待セサルヘカラスト覺悟シ多クハ第一回ノ拂込ミ
 ナ爲スニ當リ信用貸ノ勘定ヲ開キ次回以後ノ入金ハ直ニ之
 ナ借用スルヲ得セシメタリ故ニ此株金ノ拂込ミハ恰モ右手
 ニリ受入レテ之ヲ左手ヨリ拂ヒ出シタルニ異ナラズ且該銀
 行ノ金櫃ヲシテ始メヨリ充實ナラシメタルニセヨ其紙幣ノ

發行過度ナルヲ以テ夫ノ手形ヲ倫敦へ宛テ、振出し而テ其満期トナルニ及ヘテ手數料ト利息トヲ添ヘ更ニ同地へ向ケ他ノ手形ヲ振出しテ之ヲ仕拂フノ危道ニ由ルコアラザレバ固ヨリ其充實ヲ望ム能ハサリシ況ヤ其金權始メヨリ甚ク空乏ナリシヲ以テ該銀行ハ其營業ヲ開始シテ未タ數月ナラサルニ早ク已ニ此危道ニ依ラサルヲ得サルニ至レリト云フ而テ該銀行株主ノ財産ハ其價格數百萬磅ニ下ラズレテ其財産ハ銀行ノ諸約束ヲ履行スルノ保証トスルノ約アリ斯ク數百萬磅ノ財産ヲ以テ其保証ト爲シタルカ爲メニ該銀行ハ其行爲ノ寛大ニ過キタルニモ拘ラス其營業ヲシテ二ヶ年以上ニ繼續スルヲ得セシメタリ、サテ該銀行ニ於テ正金ノ引換ヲ停止スルニ當リテヤ其紙幣ノ流通上ニ存スルモノ凡二十萬磅アリキ而テ此等ノ紙幣ハ其發行アルヤ忽チ返還セラレ、

以テ永ク之ヲ流通上ニ保タンカ爲メニ銀行ハ常ニ倫敦へ宛テ、爲換手形ヲ振出すノ一方ニ據リタリシカ其金額ト員數トハ次第ニ増加シ正金引換ヲ停止シタル時ニ至リテハ其額六十萬磅以上ニ昇レリサレバ該銀行ハ僅ニ二ヶ年余ノ營業ノ間ニ五分ノ利息ニテ八十萬磅以上ノ金額ヲ貸出シタルナリ此内、銀行紙幣ニテ流通スル二十萬磅ニ付テハ取扱入費ノ外他ニ費用ヲ要スルコト無キヲ以テ五分ノ利息ハ亦以テ相當ノ利益ト見做スヘキモ倫敦へ宛テ、振出しタル六十萬磅以上ノ爲換手形ニ付テハ常ニ利息ト手數料トニテ八分以上ヲ仕拂ヒタルヲ以テ該銀行ハ其營業ノ四分ノ三以上ニ付テハ三分余ノ損失ヲ爲シタルナリ

蓋此銀行ノ所爲ハ始メ之ヲ創立シ及ヒ之ヲ管理シタル人々ノ目的トハ全ク反對ノ結果ヲ生シタルモノ、如シ蓋彼發企

者ノ目的トセシモノハ即當時蘇國ノ各地ニ起リタル事業ニシテ彼輩ノ自稱シテ公益ナリトスルモノヲ維持シ同時ニ銀行ノ業務ヲ已レ一手ニ引受ケ蘇國ノ各銀行ヲ壓倒シ就中手形ノ割引ニ關涉シテ多少ノ困苦ヲ與ヘタルニエデシボローノ各銀行ヲ顛覆セントスルニ在リタリ成程此銀行ハ此目的ヲ立テタルモノ、爲メニ一時ノ救援ヲ與ヘ且他ノ方法ニ據リタラシヨリハ凡ニ二ケ年余モ其目的ヲ實行シタルヤ疑ヒ無レトス然レモ之レカ爲メニ其人々チシテ一層ノ負債ヲ増サレメタリサレバ一タヒ失敗ヲ取リシキハ自身等ハ勿論其債主ヘモ二層ノ困苦ヲ蒙ラレメタリ故ニ此銀行ノ行爲ハ率口各自ノ危難ト蘇國ノ不幸ヲ減セスレテ實ハ之ヲ増シタリト云フヘシ若シ彼輩チシテ其實際ニ爲シタルヨリハ二ケ年以前ニ早ク其店舗ヲ閉鎖セシメナバ彼輩各自ノ爲メニモ債主ノ

爲メニモ又蘇國ノ爲メニモ大ナル幸福ナリシナラシ然レモ該銀行カ其發企者ヘ與ヘタル一時ノ救援ハ以テ他ノ蘇國各銀行ノ爲メニハ眞實永遠ノ救援トナリタリ何トナレバ他ノ各銀行ニテ手形ノ割引ニ關涉スルニ當リ手形仲買人ハ爭テ援ケテ此新銀行ニ求メ而テ此新銀行ハ快ク之ヲ引受ケ毫モ其割引ヲ憚ラサリシヲ以テ他ノ各銀行ハ巨多ノ損失ヲ蒙リ若クハ幾分ノ信用ヲ墮スル無クシテ容易ク彼輩手形賣買人ト其關係ヲ絶ツル能ハサル苦域ヲ脱スルニ於テ極メテ易々タルヲ得タレバナリ之ヲ要スルニ該銀行ノ行爲ハ蘇國一般ノ危難ヲ救ハントシテ反テ一層ノ危難ヲ増シ加之其壓倒セシト企テタル抗敵者ヲ大困難ノ中ヨリ援ヒ出シタルナリ抑該銀行創立ノ初ニ當リ或人ハ以爲ク該銀行何程急劇ニ其金櫃ヲ空乏ナラシムルモ若シ其發行紙幣ヲ借り受ケタル人

々ノ抵當ヲ他ニ流用セハ容易ク募集金ヲ爲シテ其金櫃ヲ充
 實スルヲ得ヘシト然ルニ經驗上此募集ノ事ハ大ニ其豫期セ
 シモノニ反違シタルガ如シ而テ最初ヨリ不充分ナリシ金櫃
 ハ忽チ其空乏ヲ告ケタルハ之ヲ充實セシニハ倫孰ヘ手形ヲ
 振出シ一時ノ窘窮ヲ纏繞シ其手形満期トナルニ及ヘハ利息
 ト手数料トヲ添ヘ更ニ同地ヘ他ノ手形ヲ振出シテ之ヲ仕拂
 フノ危道ニ出ツルノ外ハ他ニ一方便アラサリシ然ルニ該銀
 行ハ此方便ニ由リ何時ナリニ其必要ナル募集金ヲ爲スヲ得
 タリト雖此事務ノ爲メニハ利益ヲ得ズシテ反テ其都度損失
 ヲ受テサルヲ得サリキサレハ該銀行ノ失敗ハ手形ノ振出及
 再振出ノ如キ多費ヲ要スルノ方法ノ如ク迅速ナラサルニモ
 結局商業會社トシテハ自滅セサルヲ得サルナリ且ツヤ
 該銀行ハ紙幣ヲ發行シタリト雖モ素ヨリ蘇國必要ノ金額ニ

超過シ之ヲ運用スルヲ能ハサルヲ以テ之ヲ發行スルヤ忽チ
 正金ニ交換セシカ爲メニ返却セラレ而テ其返却ニ應ヒシカ
 爲メニ余義ナク常ニ借入金ヲ爲シタルヲ以テ其發行紙幣ニ
 付テハ毫モ利益セシテ無シ只ニ利益セサルノミナラス代理
 人ヲ使雇シテ貸金ヲ爲サントスルモノヲ求メ其人々ト約條
 ヲ結ハシメ又ハ約條證書等ヲ發行スル如キ借入金ヲ爲スニ
 必要ナル諸費ハ悉ク銀行ノ負擔スル所ナルヲ以テ結局其資
 産上ノ損失タルヲ免レシ此方法ヲ以テ其金櫃ヲ充實セント
 スルハ譬ヘハ一箇ノ池ヲ有スルモノアラシニ其池ハ水ノ流
 出スルノミニシテ曾テ注入スルヲ無シ然ルニ其人ハ傲然ト
 シテ若干ノ人ヲ使雇シ數里ノ外ニアル井戸ヨリ桶ニテ水ヲ
 運ハシメハ以テ此池ニ水ヲ漲溢セシムルニ足レリト主張ス
 ト何ゾ擇ハシヤ

假ニ此事務ヲシテ惟ニ實行スヘキモノナルノミナラズ商業
 會社タル銀行ニ取リ利益アル事務ナリトスルモ一國ヨリ之
 ナ觀ルルハ毫末ノ利益無キノミナラス爲メニ非常ノ損害ヲ
 蒙ラサルヲ得ス抑此事務ハ毫モ貸金資本ノ分量ヲ増殖スル
 一能ハズ僅ニ此銀行ヲシテ全國ノ爲メニ一大貸附局ヲラシ
 ムルノミ何トナレバ何人ニ限ラズ借金ヲ要スル者ハ已ニ該
 銀行ヘ其余裕資本ヲ貸出シタル一箇人ニ就テ之ヲ借ルコトヲ
 得スシテ此貸附局ニ就テ之ヲ要求セサルヘカラス試ニ思ヘ
 爰ニ五百名ノ人ニ向テ貸附ヲ爲ス一大銀行アランニ其借主
 過半ノ者ノ身上ニ付テハ該銀行取締役之ヲ詳知セサルヘキ
 カ故ニ之ヲ夫ノ一箇人ニシテ貸附ヲ爲スモノ、其借主ノ身
 分ヲ知り、其職業ヲ知り、及ヒ其性質ノ善良ナルヲ熟知スルモ
 ノ比スレバ其借主ヲ撰ムニ於テ大ニ差異無キ能ハズ今爰

ニ述ヘタルカ如キ銀行ノ借主ハ多クハ是法外ナル事業ニ資
 本ヲ使用センガ爲メニ融通手形ヲ振出し若クハ再振出す試
 ムルカ如キ投機者流ニアラサルハ無ク而テ其爲サントスル
 所ノ事業多クハ成就スルコト無シ好シ幸ニシテ成就スルコト
 ルモ以テ充分ノ利益ヲ生シ其嘗テ費ヤシタル費用ヲ償フ能
 ハサルベケレバ其事業ハ終ニ初メ費ヤシタル資本ニ比準セ
 ル力ヲ生スルコト能ハサルヘシ之ニ反シ一箇人ノ借主ニシテ
 確實堅固ナルモノハ其借入資本ニ相應セル事業ニ之ヲ放入
 スルカ故ニ假ヒ其事業ハ稍廣大ナクアルモ其利益ヲ生
 スルハ疑ヒナク利益ヲ生スルコト疑ヒナキハ其費ヤシタル
 資本ヲ償フノミナラズ終ニハ其費ヤシタル資本勞力ヨリハ
 多分ノ力ヲ其事業ヨリ生スルニ至ルヘキナリ之ニ由リ之ヲ
 視レバ前ニ述ヘタル事務ノ結果ハ毫モ蘇國ノ貸金資本ヲ増

殖スルヲナク徒ニ確實ニシテ利益アル事業ニ使用セル資本
 大部分ヲ採リテ之ヲ危険ニシテ且不利益ナル事業ニ移轉
 セシムルニ過キサルノミ云々
 右ノ如クアダムスミス氏カ縷々論辨シタル銀行ハ即夫有名ナ
 ル「エーア銀行」ニシテ同時代ニ成立セル各銀行ノ行爲貪吝ナル
 カ爲メニ發シタリト宣言セル危難ヲ救護セシカ爲メニ設立シ
 タルモノナリ此銀行ハハミルトン侯其他巨萬ノ不動産ヲ所有
 スル多數ノ財主ヨリ組織セル一會社ノ變シテ銀行トナリタル
 モノニシテ其資本並ニ株主ノ財産ハ皆確實鞏固ナルヲ以テ何
 程巨額ノ紙幣ヲ發行スルニ決テ其下落ヲ憂ルコトナシト云ヘル
 謬説ヲ持シタルモノナリ此説ヤ正シクジョーンロー氏ノ貨幣説
 ニシテ此銀行ハ乃チ此謬説ノ適例ト云フベキモノナリ余カ蘇
 國銀行ニ歸シテ曩ニ引用シタル小冊子ニモ此説ノ迷誤ナルヲ

示シ正理ヲ擧ケテ巧ニ之ヲ論セリ曰ク「銀行ノ資本ハ何程タル
 ニ拘ラズ其流通シ得ル所ノ紙幣ハ其國ノ正貨ト適當ノ割合ヲ
 保ツモノナリ而テ其之ヲ測リ知ルハ唯實地ノ經驗ニ由ルノミ
 ト此一言ハ以テジョン・ロー氏ノ説ヲ破リテ遺ス所無キモノナ
 リ何トナレハ彼カ根據トスル所ノモノハ銀行紙幣ハ唯財産ヲ
 代表スルノミ故ニ財産ノアラン限リハ其價ヲ下落セシムルコ
 ト無クシテ之ヲ増發スルヲ得ヘシト云フニ在リ(此説ノ正理ニ反
 スルハ彼「アツシナ」ノ歴史ニ於テ歴々之ヲ見ルヘシ)之ニ反シ
 銀行紙幣ナルモノハアル物品ヲ代表スルニアラズシテ全ク一
 ノ獨立体ナリトス而テ他ノ獨立体ト同ク其國ノ正貨トアル割
 合ヲ保ツニ由テ僅ニ其價格ヲ保有スルノミアダムスミス氏モ
 銀行事務ハ一國ノ資本ヲ増加スルコト無シト云ヒタルニ由レバ
 氏モ亦此一點ニ於テハ誤謬ナキヲ免レズ蓋經濟學ニ於テ此一

事程大ナル誤謬ハ之レ無カルヘシ何ントナレハ銀行事務ナルモノハ資本ヲ増殖スルノ迅速ナル殆ド危殆ヲ感スル程ノモノナリ且銀行ノ信約ハ約束手形ニモセヨ又ハ小切手法ニモセヨ共ニ貨幣ト同一ノ効用ヲ爲シ若シ銀行信約ノ増加急劇ニ過クルキハ一國正貨ノ價格ヲ下落セシムルヲ以テ何レノ點ニ於テモ其發行シタル高丈ケハ資本ノ増加ニ異ナルヲ無ケレバナリ「エーア銀行」及ヒ「ジョン・ロー氏」ノ誤謬ハ資本ナルモノハ銀行事務ニ由テ増加スルヲ無シト云フニハ在ラズシテ其増加ニ自○然○ノ○制○限○アルヲ知ラズ而テ其制限ハ紙幣ト金銀價ト併價ヲ保ツヲ以テ之ヲ測知スヘキ者ナルヲ知ラサルニ坐セリサテ此不幸ナル會社即「エーア銀行」ハ其營業ヲ始メタル僅ニ二週日ニシテ其資本ヲ空虛ニセリト云フ而テ其誤リタル行爲ヨリ透ニ投機ノ業ヲ透起セリ則該銀行及ヒ投機者流ノ始メタル融通

手形ノ方法ハ後來「ウエストロン」銀行及ヒ千八百五十七年ニ於テ多數ノ冒險者流カ行爲ノ模範トハナリタリ(融通手形法ハ此時ニ始リ今日ニ至ルマテ商業上恐慌ノ原因タラサルハナシ)一千七百十一年及ヒ七十二年ノ輸出ハ從來未ダ曾テ其例ヲ觀ス後來一千七百八十七年マテハ再ヒ同額ニ登リタルヲ無キ高點ニ達シタリ斯ク蘇國ノ商業ハ繁昌ノ虛相ヲ呈スト雖其實只一時ノ膨張ニシテ憂フヘキ有様ナルカ故ニ若シ一小針ヲ以テ之ヲ刺セバ之ヲシテ潰裂四出又如何ニスル能ハサラシムルニ足リシナリ一千七百七十二年六月十日ニ於テ倫敦ノ一大銀行「ニールス」會社ノ社員某ハ深ク投機ノ商業ニ關係シタルヨリ三十万磅ヲ掠メテ遁逃シタリ某ハ「フォルデー」スト稱セル蘇格蘭人ナルヲ以テ蘇國人トハ商業上巨多ノ關係アリタリサレバ此等ノ蘇國人ハ倫敦代理店出敗ノ爲メニ一時ニ壓倒セラレ卒ニ商業上

一般ノ恐慌ヲ發シタリ此時エーア銀行ノ支店ハエデンボロ
 及ヒダムフリーニ在リシヲ以テエデンボロノ支店ハ同年同
 月十七日ニ於テ強討ヲ受ケ同月二十五日ニ至テ巨多ノ投機者
 ト共ニ正金ノ引換ヲ停止セリ此時「エーア銀行」發行紙幣ノ流通
 スルモノ八十万磅ニ上レリ此時蘇國ハ其基礎ニリ動搖セラレ
 「タリエン」會社ノ破産以來之ニ似タル危難ニ遭遇シタルヲ無ク
 後來「ウエスト」銀行ノ鎖店シタル時マテハ又其例ヲ觀ルヲナ
 ク他ノ各銀行モ皆多ク此余波ニ動搖セラレテ多少信用ヲ損セ
 サルハ無シ幸ニ此災厄ヲ免レテ殘存セルモノハ僅ニ三箇ノ公
 立銀行ト三箇ノ私立銀行アリシノミ抑此災厄ハ即一ノ蘇國人
 之レカ源ヲ開キタルヲ以テ倫敦ノ各新聞紙ハ口ヲ極メテ之ヲ
 誹リ如何ナル弊害ニテモ一時皆之ヲ蘇國人ニ歸セサルハナカ
 リキ

或ル一新聞記者ハ曰ク「融通手形法ナルモノハ此時始テ世ニ興
 リタルナリ」ト一千七百七十二年七月八日發兌ノ「ポブリック」アト
 ヴアイセル新聞紙ニ掲載セル或ル一書翰ニ曰ク「銀行會社ハ王國
 ノ各地ニ勃興シ而テ爲換手形ハ確實ノ取扱無ク「スウイブ」リ
 クト稱スル新法ニ由テ次第ニ増加セリ」ト然レモ「エダム」スミス
 氏ハ此ヨリ以前早シ既ニ之ヲ論シタルヲアリ氏ハ各銀行者ガ
 投機者ノ望ニ應シ其要求スル丈ケノ手形ノ割引ヲ拒ミタルヲ
 ニ付キ論テ曰ク「或ル商人ハ一時其目的ヲ達スルヲ得ルノ一手
 段ニ依頼セリ而テ其手段ハ入費ノ多キニモセヨ銀行ヲ其力
 ノアラン限リハ信約ヲ發行セシムルノ効アリ此手段トハ他ナ
 シ世人ノ飽マテモ知了セル夫ノ手形ノ振出及ヒ其再振出ナル
 惡法是ナリ此惡法ハ不幸ナル商人ノ今ニモ破産セントスルニ
 臨ミ往々之ニ由テ一時ヲ瀾縫シタルモノナリ此方法ニ由リ貨

幣ヲ募ルハ早トニ英國ニ行ハレタリ而テ近年戰爭ノ際商業ニ利益多クシテ爲メニ過度ノ商業ヲ誘起セシトニ當リ此方法ハ盛ンニ英國ニ行ハレタリト云フ、サテ此方法英國ヨリ蘇國ニ傳播シタリシカ該國商業ノ微々タルト其資本ノ僅少ナルニ比ブレハ其大ニ行ハレタルハ夙カニ英國ノ上ニ出テタリ蓋此手形ヲ振出スヲ及其再振出ヲ爲ス事ハ如何ナル商人ニテモ皆能ク之ヲ熟知シ今更ニ之ヲ記スルハ寧ロ無益ノ勞ナルヘシ云々然ルニ千八百五十八年ニ於テダブリンノ各私立銀行ニ撰擧セラレ其惣代トナリシラトーチ氏ヨリ下院ノ委員ニ提出シタル貴重ノ證據書類ニ據レハ曰ク「融通手形ナルモノハ一ノ新原素ヨリ興リタルモノニシテ千八百四十四年ノ銀行條例發行ノ時ニ當リテハ未タ全ク世ニ發セサリシモノナリ其元素トハ他ナシ當時合本銀行ノ手許ニ預金ト稱シ利息ヲ仕拂フ所ノ巨額ノ

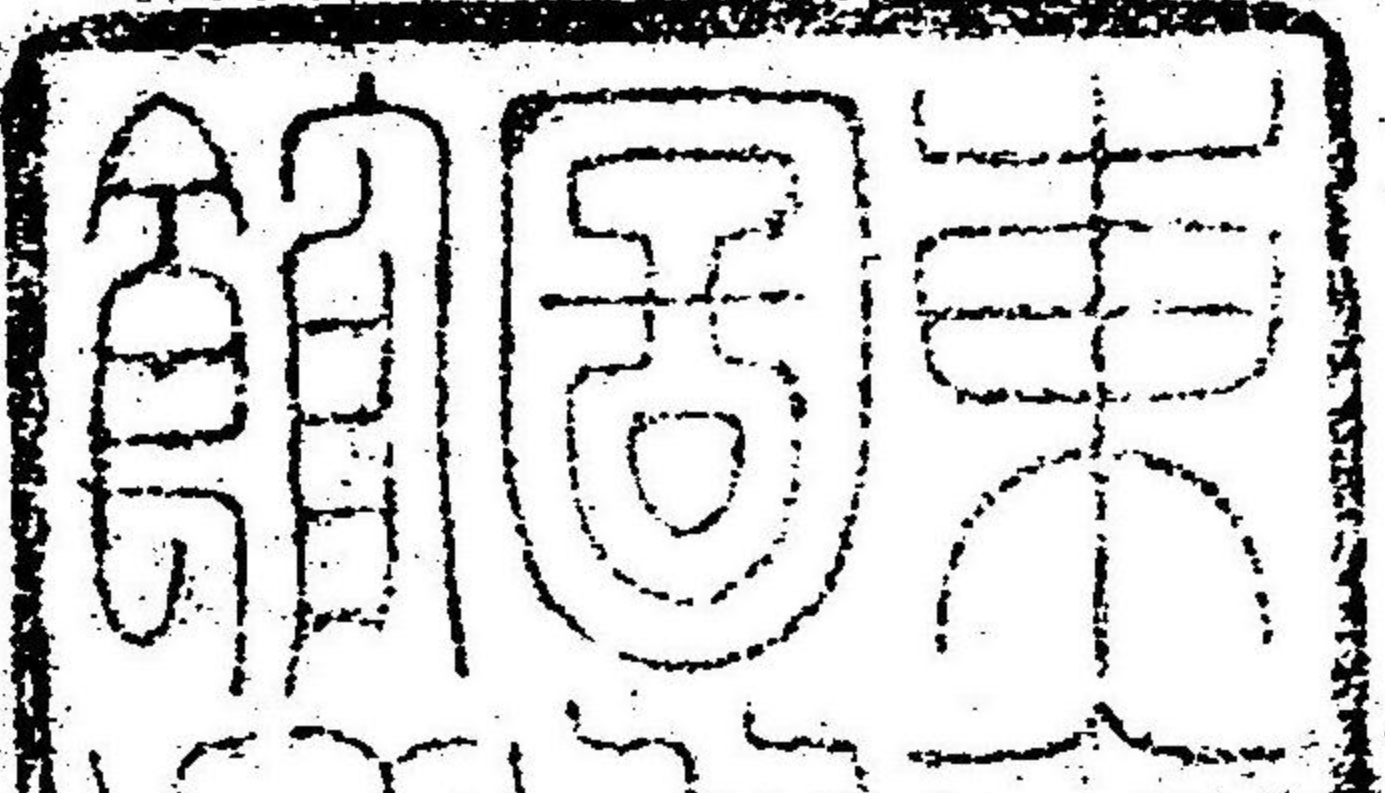
金圓即此レナリ云々

余ハ又此時代ニ於テ主張セラレタル一ノ事實ヲ述フルアラン此事タルヤ蘇國近年ノ恐慌ニ際シテ再發レタルモノナリトス抑蘇國ノ特許銀行即蘇格蘭銀行「ロイヤル、バンク」及ヒ大英麻布製造會社ノ三箇ハ蘇國ニ於テ概シテ之ヲ有限責任ノ銀行ナリトス加之一千八百二十六年上下兩院ノ報告書ニ於テハ明ニ之ヲ有限責任ノ銀行ナリト記載セラレタリ然ルニ輒近ニ至リ右三箇ノ内後者二銀行ノ責任ハ一ノ疑問トナレリ英蘭銀行ノ取締役ホッデソノ氏カ下院ノ委員ニ提出シタル尋問書第三千五百七十五項ニ曰「余カ信スル所ニ據レバ有限責任ヲ以テ蘇國ニ成立スル銀行ハ唯蘇格蘭銀行ノミナリ彼蘇國ノ「ロイヤル、バンク」及大英麻布製造會社ガ其責任ノ有限ナルニ付テハ大ニ疑ヒ無キ能ハズ又余カ信スル所ニ據レバ蘇格蘭銀行ハ完全ナル特許

狀ヲ所有スルコト恰モ我英蘭銀行ニ異ナル事ナシ他ノ二銀行ハ
 假令アル二三ノ特權ニ關スル特許狀ヲ所有スルニセヨ其特權
 ノ内ニ責任ハ有限タルヘキ事ノ含ミタルヤ否ヤニ付テハ大ニ
 疑ナキ能ハズ云々ケレト氏曰ク夫ノ三銀行ノ有限責任ナル
 コトハ蘇國一般ニ記憶スル所ナリ唯蘇國ニ於テ記憶スルノミナ
 ラズ英國ニ於テモ又彼銀行ノ得意先ニ於テモ亦皆然ラサルハ
 ナシ然ルニ近年ニ至リ此說ハ大ニ其勢力ヲ失ヒタリ而テ余ノ
 知ル所ニ據レバ方今上院ノ說ハ全ク彼三銀行ノ責任ヲ有限ニ
 アラズトスルモノ、如シ云々然ルニ一千七百七十二年六月廿
 二日ノ「パブリック、アトグアイセル」新聞ニハ蘇格蘭銀行ノ株主ハ該
 銀行ノ負債ヲ全償スルノ責任アル事而テ彼輩株主ノ財產ハ數
 百萬磅ノ價アルコト并ニ英蘭銀行ガ蘇格蘭銀行ヲ救援スルニ於
 テ毫モ躊躇セサルハ全ク此一點ニ在ルコトヲ論セル稍信據スル

ニ足ルヘキ人ノ一書ヲ掲載セリ若シ此說ニシテ果テ信ナラシ
 メバ普通ノ思考ニ反スル一大奇事ト云ハサルヲ得ズ要スルニ
 此等銀行ニ關スル責任論ノ實際ニ勢力ヲ有スルマテニハ尙多
 少ノ歲月ヲ要スルナルヘシ
 一千七百七十四年發行第三十二號ノ條例ニヨリ蘇格蘭銀行ハ
 其資本一倍ノ増加ヲ許可セラレ株主ノ所有スルヲ得ル株金ノ
 極度ヲ四十株マテニ増スコトヲ許サレタリ該銀行ハ此年ヨリ支
 店ヲ設クルコトニ着手シタリシカ其支店ハ後來蘇國ノ銀行事務
 上ヘ著キ効果ヲ顯シタリ一千七百八十四年第十二號ノ條例ニ
 ヨリ其資本金ハ増シテ三十萬磅トセラレ且同時ニ株主ノ所有
 スル株金ニ關スル制限ハ尽ク削除セラレタリ一千七百九十二
 年第二十五號ノ條例ニヨリ又其資本金ハ六十萬磅ニ一千七百
 九十四年第十九號ノ條例ニヨリ一百万磅ニ一千八百〇四年第

二十三號ノ條例ニヨリ一百五十万磅ニ増加セラレ此内一百万
磅ハ實際拂込マシメラレタリ此資本額ヲ以テ今尙繼續セリ



銀行論第六章 續

有テ商業上非常ノ恐慌ハ一千七百九十三年ニシテ此般モ
 亦蘇國へ波及セリ當時有名ナル記者ノ説ニ從へハ此恐慌ハ地
 方銀行ノ非常ニ増加シタルト革命戦争ノ始リタルトニ起因セ
 フサテ此恐慌ハグラスゴーニ最劇烈ニシテ該府ニ於テ
 富豪ノ聞へアル商社及ヒ製造家ノ破産スルモノ殆ント踵ヲ接
 シ就中三大舊家ノ一「グラスゴー、アイムス銀行」ノ如キハ三月十
 四日ヲ以テ其正金引換ヲ停止シ加旃英國ニ於テモ地方銀行四
 分ノ三ハ亦大ニ衝動セラレタリ然ルニ此際英蘭銀行ハ各銀行
 ノ請求アルニモ拘ラス斷乎トシテ之ヲ謝絶シ敢テ救援ヲ爲ス
 一無カリシカバソルフランシス、バリーリング氏及ヒ地金銀調査
 委員ノ報告ハ深ク之ヲ批難シタリ蓋シ該銀行カ此偏倚ナル針
 路ヲ取リテ動カサルノ時ニ當リテハ大小ノ別ナク一般ノ破産

次第ニ逼迫スルモノ、如クナリシ時ニソルシヨ、シンクレー
 ア氏ハ一千六百九十七年ニ於テモンテীগ氏カ出納司手形ノ
 發行ヲ以テ一般ノ信用ヲ將ニ覆ラントスルニ維持シタル先例
 ナ回想シ此危急ノ際ニ當リテハ亦タ之ニ類シタル處置ナカル
 ヘカラスト思惟シタルニ恰モ好シビット氏ヨリ此目的ヲ達スル
 ノ方策ヲ發議セシテ依賴セラレタルヲ以テ氏ハ四月十六日
 ニ其方案ヲ發議シ而テ下院ハ直ニ委員ヲ選任シテ之ヲ審査セ
 シメタリ之ヲ頃クシテ「蘇國ローヤル、バンク」ノ取締役某ハ同地
 ヨリ最驚クヘキ一報ヲ携テ來着セリ其報ニ曰ク各公立銀行ハ
 自家ノ安全ヲ顧慮スルニ於テハ一切商家若クハ地方銀行ヲ維
 持スルニ必要ナル金融ヲ與フルヲ能ハス曰ク是故ヲ以テ公立
 銀行ハ一日モ速ニ政府ノ救援ヲ受ルニアラサレハ一般ノ危態
 言クニ忍ブ可ラサルモノアラシク平素ニ於テハ十分確實ナ

ル夥多ノ商社モ今ヤ一時ノ救援ヲ得ルニアラサレハ忽チ破産
 セサルヲ得ス」ト又グラスゴヨリ出テタル國會議員マクドウ
 ール氏ハ信用全ク破壊シタルカ爲メニ同地ノ商社及ヒ製造家
 ハ都テ非常ナル苦難ノ中ニ彷徨セリ而シテ此苦難ヲ致シタル
 ハ職トシテグラスゴ、ペースレー及ヒグリノクノ各銀行カ
 正金引換ノ爲メニ頻リニ其發行紙幣ヲ注入セラレタルヲ以テ
 終ニ割引ヲ謝絶シタルニ此レ由レルナリト陳述セリ然レモ幸
 ニシテ今回ノ恐慌ハ政府ニ於テ出納司ノ小手形ヲ發行スル
 ヲ許可シタルトソルジヨ、シンクレーア氏カ此手形ノ發行ア
 ランコヲ豫期シテ手早く貨幣ヲグラスゴニ回送シタルトニ
 由テ大ニ其毒焰ヲ緩ムルヲ得タリ
 今此恐慌ノ極メテ猛烈ナリシ景況ヲ知ラントスルニハソルウ
 ルリヤム、フホーブス氏カ自家ノ履歷ヲ述ヘタル趣味アル記録ニ

優レル者ナシ氏ハ其記録ノ第八十葉ニ於テ証書預金種アリニ
 ハ當座勘定稱スル者ニシテ利息都府領スル者ナリ然レテ預切ノ
 金ナリテ其商人等ノ即時大ナル要セハハ者ナリ而シテ主
 此輩ノ其業上ノ貸付現金ハシテ成ルナリハハ利ハハ者ナリ
 手許ノ勤勞ヲ出タル小貯金ニシテ銀行者ノ引當座ノ金付ハハ
 預主ノ謀ヲシテ蓋シテ預主ハ何モテ引當座ノ金付ハハ者ナリ
 務モホフナラシメ、建築ノ主ハ或ハ商業ヲ始メテ引當座ノ金
 雖アルニシテ、住宅ノ建築ノ主ハ或ハ商業ヲ始メテ引當座ノ金
 シアルニシテ、住宅ノ建築ノ主ハ或ハ商業ヲ始メテ引當座ノ金
 テレデ、即チ以テ取リ証ノチ述フルニ當リ左ノ如ク言ヘリ曰
 ク

「平時ニ於テハ拂戻シ高ト預リ高ト曾テ大差アルコトナシ
 一千七百九十二年十二月ニ於テ拂戻シ高ノ預リ高ニ超過シ
 タルコト
 一千七百九十三年一月ニ於テ同上
 一〇、六七〇
 一六、九一六

同年	二月ニ於テ同上	一一、五六一
同年	三月ニ於テ同上	五二、九六一
同年	四月ニ於テ同上	一〇五、〇七五
同年	五月二十三日マテ同上	六六、五四一
合計		二六三、七二四

當坐預金モ右ニ準シテ殆ト同様ニ減少シタリト
 英蘭銀行カ正金引換ヲ停止シタルノ新報三月一日特使ニテエ
 テンポロー府ニ達スルヤ劇烈ノ強討忽チ各銀行ニ向テ始マリ
 タリ此ニ於テ各公立銀行ノ支配人ハ如何シテ可ナルヤヲ協議
 センカ爲メ一切ノ儀容ヲ棄テ、ソルウヰルリヤム、フホーブス氏ノ
 家ニ集會シタリ然レモ他ニ施スヘキノ術ヲキテ以テ結局英蘭
 銀行ニ倣フテ正金ノ引換ヲ停止スヘシト決議セリ府知事モ亦
 重ナル府民ヲ召集シテ一ノ會議ヲ開キ此會議ニハ「コールト、オ

フ、セツシヨシ、即チ高等民事裁判所ノ所長ロル、ノレシデントエキスチヅケル「裁判所
 上登録ノ判事長、大檢事及ヒエデ、ンボローノ「シエリフ」地方裁
 裁判所ロル、チーフ、ロル、ロル、フ、ア、ド、カ、オ、ケ、イ、ト而シテ種々討議ヲ爲シタルノ後終ニ各銀行ノ信用ヲ支
 持シ其發行紙幣ハ正金ト倣シテ差支ヘナク受取ルヘシト一決
 シタリ此決議ノ趣キハ新聞紙ヲ以テ世ニ公ニシ王國ノ重ナル
 都府ヘハ特使ヲ發シテ之ヲ通達セリ
 各銀行ニ於テ正金引換ノ停止ヲ爲スヤ之レカ爲メ忽チ視ルニ
 忍ヒサル混雜及ヒ騒擾ヲ惹起シタリ其舖頭ニハ紙幣ヲ齎シテ
 之ヲ金銀ニ交換センコトヲ熱望スル者羈々群ヲ爲シ就中下等社
 會ノ小貨幣ヲ需ムルコト最モ猛烈ナリキサレハ各銀行ニ於テハ
 一磅紙幣ヲ或ハ二分シ或ハ四分シテ一時其需メニ應スルノ手
 段ヲ採リ政府ニ於テハ造幣局ニテ刻印シタル西班牙弗ヲ四「シ
 ルリ」ンク「六」ペンスノ價格ニテ發行シ且新タニ「一」ギニ「一」シ
 ルリ

貨幣「シ」ニ當ルノ四分ノ一ニ當ル小貨幣ヲ鑄造シ又急ニ一條例ヲ
 制定シテ從來紙幣ヲ發行シタル各銀行ヘ若干ノ時日ヲ限り五
 「シ」ルリ「シ」紙幣ノ發行ヲ許可シタリ此ニ於テ此恐慌ハ漸ク消
 散シ信用ハ忽チ回復シ而シテ紙幣ハ各銀行ニ於テ之ヲ正金ニ
 引換ユルコトヲ拒ミタルニモ拘ラス從前ノ如ク毫モ滯滞ナク授
 受セラレ加之稍ヤ奇トスヘキ者ハ假ヒ各銀行ハ一切國會條例
 ニ由テ保護ヲ蒙ルコトナキニ人民ハ會テ其紙幣ヲ出シ之ニ逼テ
 正金ヲ仕拂ハシメント企テタルコトナク又之ニ對シテ一ノ訴訟
 モ起サレタルコトナク而シテ幾モナク事務ハ前日ヨリ一層繁昌
 ニ進ミタリ
 次ニ記載スヘキ事件即チ政治上ノ事トシテ世人ノ注目スル處
 下ナリタル者ハ一千八百十年ニ商業銀行ノ設立是ナリ此設立
 ハ恰モ保守党政治ノ旺盛ヲ極メタル時ニシテ當時各銀行ハ其

政署ヲ其營業上ニ實施スト主張セラレタルカ故ニ此ニ於テ改進黨ハ一ノ反對銀行ヲ設立センコトヲ決定セリ此即商業銀行ト呼ハレテ後來ニ至リ舊設ノ銀行ヲ壓スル程ノ聲名ヲ得タルモノナリ其資本ノ既ニ拂込マレタル高ハ六十万磅ニシテ近年其取締役ヨリ株主ニ向テ保証シタル處ニ據レハ此資本金ニハ全ク手ヲ觸ル、コト無ク而シテ之ニ加フルニ準備金トシテ利益金ヨリ積立テタルモノ別ニ四十万磅アリ此銀行ハ其後特許狀ヲ得タリシカ其株主ノ責任ハ特ニ無限ト公告シタリ

一千八百十八年ニ於テ在留ノ外國人ハ蘇格蘭銀行ノ株式ヲ購買セハ直ニ内國人ト爲サル、ノ特例アルヲ以テ外人ニシテ往々之ヲ奇貨トスルノ弊アルカ故ニ其舊條例中此ニ關スルケ條ハ特ニ刪除セラレタリ

英國ニ於テ銀行失敗ノ陸續踵キ至リタル者ハ職トシテ英蘭銀

行ノ專商權ニ此レ由ルト雖モ當時ニ於テハ地方銀行ノ一磅紙幣ヲ發行シタル結果ナリトセラレタルヲ以テ一千八百二十六年ノ内閣ハ英國ニ於テ右ノ紙幣ヲ停止スルト同時ニ愛、蘇兩國ニ於テモ亦之ヲ廢停センコトヲ欲シタリ然ルニ此事ヤ蘇國ニ於テ一大紛議ヲ醸シタルカ故ニ政府ハ上下兩院ヨリ委員ヲ發シテ其事實ヲ調査スルコトヲ許可シタルニ其結果ハ大ニ蘇國ノ銀行法ニ利アリシヲ以テ政府ニ於テハ最早此上ニ干渉ヲ爲サ、リキ上院ノ報告ニ曰ク「蘇國ニ關シテ特ニ注目スヘキ者ハ一千七百六十六年ヨリ一千七百九十七年マテノ間即チ英國ニ於テハ法律上小紙幣ノ發行ヲ許サレサルノ時ニ當リ蘇國ノ通貨中五磅以下ノ仕拂ニ用ヒラレタル部分ハ悉ク一磅又ハ一磅一「シリリング」ノ小紙幣ニテアリシ然ルニ英蘇兩國ノ通貨ニ此差異アリシモ曾テ不便ノ發リタルコトナシ今此事實ヨリ之ヲ推セハ

兩國ノ通貨一様ナルハ如何程願フヘキヲタリニ必シモ然カル
 ナ要スルニハアラサルカ如シ且又証據及ヒ文書ノ証明スル處
 ニ據ルニ蘇國ノ各銀行ハ特許會社ナルト合本會社ナルト又ハ
 私立會社ナルトヲ問ハス一百余年間我々委員カ銀行歴史ニ其
 例ヲシト信スル處ノ確實ヲ表シタリ又蘇國ノ各銀行ハ英蘭銀
 行又ハ愛耳蘭銀行カ一時正金ノ仕拂ヲ免カレタルカ如キ條例
 外ノ保護ヲ受ケスシテ一千七百九十七年ヨリ一千八百十二年
 ニ至ルマテ各自ニ維持シ來リタリ又蘇國ニ於テハ輒近發シタ
 ル通貨ノ混雜ニ際シテモ正金ノ請求ハ寥寥甚稀レナリキ又蘇
 國ノ各銀行ハ其設立以來鎖店ノ不幸ニ陷ヒリタルモノ僅ニ二
 三ニ過クルヲナシ右時限ノ間各銀行發行紙幣ノ大部分ハ全ク
 一磅又ハ一磅一「シルリング」ニ超ヘサル小紙幣ヨリ成リシカ故
 ニ蘇國ノ各銀行ノミニニ關シテハ斯ノ如キ小紙幣ノ發行ハ至大

ノ確實ト併行シテ相悖ルヲ無シト論決スヘキ充分ノ理由アリ
 而シテ其銀行ニシテ目今ノ方法ニテ管理セラル、間ハ從來成
 立セル確實ニ加フルニ尙一層ノ確實ヲ以テセントスルノ目的
 ニテアル改正ヲ施行セントスルモ之レカ充分ノ道理ナキヲ奈
 何セン云々下院ノ報告モ亦蘇國ノ銀行ニ向テ法律上ノ干涉ヲ
 爲スヲニ反對セリ
 一千八百四十五年マテハ蘇國ノ銀行事務上ニ何等ノ干涉アラ
 サリシカ此年ソルロベルト、ピール氏ハ差シタル抵抗ナク英蘭
 銀行特許條例并合ニ本銀行條例ヲ通過シ得タルヲ以テ蘇國及
 ヒ愛爾蘭ノ銀行ヲモ亦等シク規制センヲ決意セリ此條例即
 一千八百四十五年第三十八號條例ノ重ナルケ條ハ左ノ如シ
 第一 一千八百四十四年發行第三十二號ノ條例ニヨリ何人
 タリモ一千八百四十四年五月六日以後合衆王國ニ於テ紙

幣ヲ發行スルヲ得サリキ又何人ニ限ラス一千八百四十四年五月六日ヨリ翌一千八百四十五年五月一日マテノ間蘇國ニ於テ法律上紙幣ヲ發行シタルモノハ其會社ノ名號及ヒ紙幣發行ノ場所ヲ印稅及ヒ租稅委員ニ證明スヘキ事

第二 印稅及ヒ租稅委員ハ一千八百四十五年五月一日前一年間ノ該銀行紙幣平均流通高ヲ調査スヘキ事

第三 該銀行ハ四週間ノ平均高印稅及ヒ租稅委員ニ由テ前條ノ如ク証明セラレタル者ニ超ユ可ラサル高ト其四週間該銀行ノ蓄藏セル正金ノ平均高ニ等シキ高トヲ流通セシムルヲ得但シ正金ノ四分ノ三ハ金貨幣タルヘク其四分ノ一ハ銀貨幣タルヘキ事

第四 該銀行若シ法律上許可セラレタル高ヲ超テ紙幣ヲ發行スルキハ其過利高ハ沒収スヘキ事

第五 二行若クハ二行以上相合併スルキハ其各銀行ニテ發行スヘキ物額ト其合併シタル銀行ニテ蓄藏セル正金高ト同額ノ紙幣ヲ發行スルヲ得ヘキ事

第六 英蘭銀行發行ノ紙幣ハ蘇國ニ於テ合法貨幣タルヲ得サル事

讀者ハ右ノ箇條ヲ見テ英國ノ銀行ト蘇國ノ銀行トニ課セラレタル制限ニハ二三ノ著キ差異アルヲ發見スルナルヘシ何ソトナレハ前者ハ全ク其紙幣ノ發行額ヲ限ラル、ト雖モ後者ハ許可セラレタル高ノ餘ニ同額ノ正金ヲ有スレハ何程ナリモ之ヲ發行スルヲ得ルカ故ナリ加之後者ニ限リテハ幾箇ノ銀行合併スルモ各自ノ發行額ヲ合セテ之ヲ發行スルヲ得ルニ英國ニ於テハ合併銀行ノ社員六名ノ上ニ出ルキハ全ク其紙幣發行ノ權ヲ失フモノナリ銀行社員ノ員數ニ關スル此不都合ナル制限ハ

蘇國ニ於テ何等ノ効力ヲモ有スルコトナシ
 尋テ一千八百五十七年ハ夫「エーア」銀行事件以來其例ヲ見サル
 一大災害アリテ著キ年ナリ其災害トハ他ナシニ箇ノ大合本銀
 行即「ウエストルン」銀行「ト」シチー、オフ、グラスゴー銀行」ノ正金引換
 テ停止シタルコト此レナリ寔ニ「シチー、オフ、グラスゴー銀行」ハ再
 ヒ其營業ヲ始メタルノミナラス其業務ノ實況ヲ調査シタルニ
 八十万磅以上ノ資本ノ内損失ニ歸シタルモノハ僅ニ凡七万磅
 ナリシヲ發見シタリ斯ク巨額ノ拂込資本ハ全ク無難ナリシヲ
 以テ該銀行ハ停止ノ後幾モ無ク其營業ヲ再始シ而シテ吾人ハ
 此困難ヲ經過シタルノ後其營業ハ前日ヨリ一層善良ナル原則
 ニ從テ行ハル、ナルヘシト信スルナリ然ルニ「ウエストルン」銀
 行」ハ其拂込資本一百五十万磅ヲ全ク損耗シタルノミナラス此
 外ニモ亦殆ト同額ノ損失アリト知ラレタリ而シテ此銀行ハ一

千八百三十二年ノ設立ニ係ルヲ以テ畢竟二十四ケ年ノ間ニ三
 百万磅ヲ損耗シタリシナリ蓋シ「エーア」銀行ハ二年半ニシテ四
 十万磅ヲ失フタルヲ以テ若シ此二者ヲ比較セハ後者ノ災害ハ
 割合ニ於テ前者ヨリ一層激烈ナリシナリ然ルニ「ウエストルン
 銀行」ノ破産スルヤ世人ハ蘇國銀行事務ノ一般ノ方法ニ向テ最
 劇烈ナル攻撃ヲ試ミタリシカ吾人ヨリ之ヲ看レハ此攻撃ハ全
 ク其當ヲ失ヘル者トス何ントナレハ一千八百五十八年ニ於テ
 下院ノ委員ヘ提供セラレタル証據ニ由レハ該銀行ハ其設立以
 來他ノ各銀行ト全ク背反セル進路ヲ採テ其營業ニ從事セリト
 明ニ証明セラレタルカ故ナリ
 抑「ウエストルン」銀行」ハ一千八百三十二年ヲ以テ其營業ヲ創始
 シ其翌年ニハ二十万九千一百七十磅ノ拂込資本ヲ有シ此資本
 ハ年々増加セラレテ一千八百四十九年ニハ終ニ一百七十九万

二千八百五十磅ニ達シ而シテ此高ニテ一千八百五十二年マテ引續キタリシカ此年ニ至リ其株主ノ中ニ或ハ破産スル者アリ或ハ負債ヲ償還シ得サル者アリテ數多ノ株券該銀行ノ手ニ歸シタルニ此等ハ皆其資本ノ内ヨリ消却セラレタルヲ以テ其資本ハ減シテ一百五十万磅トナリ而シテ此高ニテ其鎖店ニ至ルマテ繼續セリ蓋シ該銀行ハ其營業創始ノ時ヨリ蘇國各銀行ノ普通ニ採取シタル方法ニ據ルヲ無カリシ何ントナレハ一千八百五十八年ノ調査委員ヘ証人ヨリ説明シタルモノニ據レハ蘇國銀行法ノ最緊要ナル容貌ハ其銀行ノ手許カ若クハ公債証書ニテ倫敦ニ充分ノ準備金ヲ置クヘキ筈ナルニ該ウエストルン銀行ハ其家産ヲ取テ重ニ地方ノ融通ニ投シ而シテ倫敦ニハ極メテ不充分ノ準備金ヲ置キタルカ故ニ之カ爲メ一千八百三十四年ニ於テ其倫敦代理店ロイド會社ハ其發行レタル銀行手形

ヲ拒却スルニ至レリ此ニ於テ他ノ蘇國各銀行モ亦該銀行發行ノ紙幣ヲ受取ルヲ拒ミ且之ニ向テ其錯辨ヲ責論シタルカ如シ一千八百三十三年十月三十日該銀行ノ取締役ハ右ノ責論ニ答ヘテ自今此ノ如キ事件ノ再ヒ發スルヲ防クニ足ルヘキ充分ノ金額ヲ採テ之ヲ容易ニ賣買セラルヘキ抵當品ニ放下スヘシト決定シタル旨ヲ他ノ各銀行ニ通知シ且來ル一月ニ於テ此改革ニ着手シ遅クモ四月マテニハ之ヲ完了スヘク加フルニ將來充分ノ資金ヲ其督下ニ有センカ爲メ其割引ヲ減少シ而シテ永ク此主義ヲ變セサルヘシト約束セリ斯ク將來ニ於テ行ヲ改ムヘキ約束アルヤ三箇ノ特許銀行ハ該銀行ヲシテ直ニ此等ノ抵當品ヲ購買スルヲ得セシメンカ爲ニ之ニ十萬磅ヲ貸與シタリ然ルニ「ウエストルン銀行」ノ取締役ハ忽チ其約束ヲ破リ而シテ復前轍ヲ再始セリ尋テ一千八百三十八年ニ至リ該銀行ハ特

許狀ノ下付アラシク商務局ニ請願セシニ此時他ノ蘇國各銀行ハ該銀行ニ逆ヒ相聯合シテ一ノ陳情書ヲ呈シ若シ吾々銀行ニ於テ渠銀行ノ請願ヲ不問ニ付シ之ヲ默許スルコトアラハ吾々ハ社會ニ對シ義務ヲ尽サ、ルノミナラス吾々各自ノ組織者主株ヲ云ニ對シテモ亦義務ヲ尽サ、ルナリト云ヘリ其書面ニ曰ク抑去五十年間英國各銀行ノ内ニ時々激動發リ而シテ之カ爲メニ鎖店ヲ致シタル者百ヲ以テ算フルノ多キニ達シタリシカ蘇國ニ於テハ各銀行概チ平穩ノ姿ヲ保チ其間三四行ノ鎖店無キニアラサリシモ其性質ノ瑣々タリシハ諸公ノ明知セラル、事實ナリトス而シテ其斯ノ如キヲ致ス所以ノモノハ何ソヤ一ハ蘇國各銀行ニ於テ運用スル資本ノ多額ナルト一ハ採用セラレタル管理法ニ因ラスンハアラサルナリ若シ夫レ資本ノミハ既ニ近頃英國ニ於テ經驗セラレタルカ如ク

營業ノ區域ヲ擴張スルニ由テ唯ニ禍害ヲ増スコトアリ之ト同ク株主ノ數夥多ナルハ社會ノ爲メニ結局ノ損失ヲ防クヘキ一ノ保護トナルヲ以テ自ラ信用ヲ増スコトアルカ爲メ亦其會社ノ害ヲ爲スノ力ヲ増スコトアリ然ルニ蘇國銀行法ノ防衛トスル所ノモノハ何時ヲ問ハス如何ナル事情アルニモ拘ハラズ即座ニ貨幣ニ變換スルヲ得ヘキ公債証書ハ資本ト預金トノ多分ヲ放下シテ之ヲ貯藏スルノ終始變ラサル慣例ヲ採用シタルニ在リ蓋シ資本ト預金トノ多分ヲ採テ之ヲ公債証書ニ放下スルハ利息ノ割合寡少ナルト困難ノ時ニ於テ之ヲ發賣スレハ多少ノ損失アルトノ故ヲ以テ此事タル固ヨリ損耗ヲ免ル、能ハスト雖モ尙ホ蘇國各銀行ノ爲メニハ充分ナル保險トナリ而シテ之ヲシテ大困難ノ時期ヲ無難ニ經過スルヲ得セシメタリ

然ハ則蘇國各銀行ノ支配人ハ其英國ト密接ノ關係アルニモ
 拘ラス之ヲシテ此等ノ災害ヲ免カレシメタル方法ヲ宜シク
 等閑視セサルヘシトスルハ敢テ理ナキコアラサルナリ而レ
 テ他所ニ於テ銀行ノ理論上ニ疑議ノ存スルヤ蘇國ニ於テ行
 ハレタル方法ハ誠ニ良ク其目的ヲ達セルヲ以テ決シテ之ヲ
 攪破スヘカラスト云ハ、此時ニ於テハ蓋シ十分ナラン
 「ウエストルン銀行」ハ一千八百三十二年ニ創立セラレ而シテ
 爾來此銀行カ公然探テ動作シタル所ノ主義ハ常坐ノ約束ニ
 應スルニ必要ナル現金ノミヲ殘シ其余資本及ヒ資産ヲ成ル
 ヘク丈ク割引ト貸付トニ使用スルニ在リキ
 此事ヤ公債証書ニ放銀スルヨリハ優ニ利益アルヲ以テ苟モ
 投機者流又ハ經驗ナキ輩ハ常ニ其利益ニ誘惑セラレテ此方
 針ヲ探ラントスルノ傾向アリ而シテ若シ其結果ヲシテ獨リ

此輩ノミニ止マラシメハ素ヨリ論スルニ足ラサルノ小事ナ
 リト雖モ銀行事務ニ限リテハ不幸ニモ然ル能ハサルヲ奈何
 セン抑銀行事務ハ信用ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ一朝規
 律ナキ銀行ノ失敗スルコトアレハ其余響ハ組織全ク異ナリタ
 ル他ノ銀行ニ波及セザルヲ得ス然ルニ右ノ如キ會社ハ繁榮
 ノ時ニ於テ大膽ニ其事務ヲ擴張シ而シテ斯ノ如キ時ニ限リ
 商業手形ノ容易ニ割引セラル、ヲ視テ遂ニ之レヲ割引スル
 ハ最完全ニシテ且ツ交換シ易キ放銀ナリト斷定スルニ至ル
 ナリ
 謹慎着實ナル銀行ハ右ニ述ヘタル豫望ノ全ク虛妄ナルヲ知
 ルヲ以テ此無智ナル擴張ノ結果ニ當ラシカ爲メ已テ得ス各
 自ノ準備ヲ増シ而シテ一旦困難ノ發スルニ及ソテハ破裂ノ
 災ヲ避ケンカ爲メニ其競争者ヲ幫助スルカ然ラサレハ貯藏

ノ公債証書ヲ廉買シテ苛重ノ損失ヲ致サ、ルヲ得サルナリ」
 「ウエストルン銀行」ハ此主義ニ據テ動作スルヲ以テ其倫敦代
 理店「ジョン、ロイド」會社ノ如キ有名ナル商社ハ大ニ驚愕シ而
 シテ一千八百三十四年ニ於テ該銀行ノ發行手形ヲ拒却シタ
 ルマテニ其倫敦ニ於ケル商務ヲ紊乱セシメタリ是ニ於テ蘇
 格蘭銀行「ロイヤルバンク」及ヒ大英麻布會社ノ三行ハ之ヲ傍
 觀スルヲ能ハサルヨリ已ヲ得ス多額ノ貸付ヲ爲シテ該銀行
 ノ危急ヲ援ケタリ今商况極メテ靜謐ナルノ時ニ當リ右ノ如
 キ事情ノ發シタルハ畢竟其行爲ノ大ニ危險ナルヲ表明セル
 ナ以テエヂンポローノ各銀行ハ「ウエストルン銀行」ニ迫リ爾
 來一層良善ナル管理法ヲ採取スヘク且不時ノ要求ニ應スル
 ニ足ルヘキ充分ノ金額ヲ採テ之ヲ公債証書ニ放下スヘシト
 要求セリ該銀行ノ取締役ハ種々討議ノ末遂ニ一千八百卅四

年十月三十日ノ決議ニヨリ明ニ以上ノ要求ヲ承諾シタリ然
 レモ之ヲシテ直チニ資金ヲ得ルヲ能ハサラシムルマテニ既
 ニ其資産ヲ使用シ尽シタルヲ以テエヂンポローノ各銀行ハ
 其目的ヲ執行セシメシメカ爲メ之ニ十萬磅ヲ貸與セリ爾後暫
 時ノ間「ウエストルン銀行」ハ此結約ヲ履行シタルナルヘシト
 雖モ再ヒ利益ニ誘惑セラレテ忽チ其謹慎ノ念ヲ失ヒ而シテ
 今ヤ全ク其約束ヲ破リタリ
 凡何ナル銀行ニテモ其資本ヲ擧ケテ之ヲ右ニ述ヘタルカ如
 キ方法ニテ運用スルヲ得ル者ハ其競争者ニ比スルニ迥ニ大
 ナル利益ヲ分配スルヲ得或ハ迥ニ都合ヨキ約束ニテ其業ヲ
 營ムヲ得ルハ固ヨリ當ニ然ルヘキナリ而シテ吾々ハ復再ヒ
 言ハントス曰ク若シ其結果ヲシテ唯々競争銀行ノ割賦金ヲ
 増加シ或ハ減少スルニ止マラシメハ固ヨリ鎖々タル一小事

ノ公債証書ヲ廉買シテ苛重ノ損失ヲ致サ、ルヲ得サルナリ」
 「ウエストルン銀行」ハ此主義ニ據テ動作スルヲ以テ其倫敦代
 理店「ジョン、ロイド」會社ノ如キ有名ナル商社ハ大ニ驚愕シ而
 シテ一千八百三十四年ニ於テ該銀行ノ發行手形ヲ拒却シタ
 ルマテニ其倫敦ニ於ケル商務ヲ紊乱セシメタリ是ニ於テ蘇
 格蘭銀行「ロイヤルバンク」及ヒ大英麻布會社ノ三行ハ之ヲ傍
 觀スルヲ能ハサルヨリ已ヲ得ス多額ノ貸付ヲ爲シテ該銀行
 ノ危急ヲ援ケタリ今商况極メテ靜謐ナルノ時ニ當リ右ノ如
 キ事情ノ發シタルハ畢竟其行爲ノ大ニ危險ナルヲ表明セル
 ナ以テ「エヂンポロ」ノ各銀行ハ「ウエストルン銀行」ニ迫リ爾
 來一層良善ナル管理法ヲ採取スヘク且不時ノ要求ニ應スル
 ニ足ルヘキ充分ノ金額ヲ採テ之ヲ公債証書ニ放下スヘシト
 要求セリ該銀行ノ取締役ハ種々討議ノ末遂ニ一千八百卅四

年十月三十日ノ決議ニヨリ明ニ以上ノ要求ヲ承諾シタリ然
 レモ之ヲシテ直チニ資金ヲ得ルヲ能ハサラシムルマテニ既
 ニ其資産ヲ使用シ尽シタルヲ以テ「エヂンポロ」ノ各銀行ハ
 其目的ヲ執行セシメンカ爲メ之ニ十萬磅ヲ貸與セリ爾後暫
 時ノ間「ウエストルン銀行」ハ此結約ヲ履行シタルナルヘシト
 雖モ再ヒ利益ニ誘惑セラレテ忽チ其謹慎ノ念ヲ失ヒ而シテ
 今ヤ全ク其約束ヲ破リタリ
 凡何ナル銀行ニテモ其資本ヲ擧ケテ之ヲ右ニ述ヘタルカ如
 キ方法ニテ運用スルヲ得ル者ハ其競争者ニ比スルニ迥ニ大
 ナル利益ヲ分配スルヲ得或ハ迥ニ都合ヨキ約束ニテ其業ヲ
 營ムヲ得ルハ固ヨリ當ニ然ルヘキナリ而シテ吾々ハ復再ヒ
 言ハントス曰ク若シ其結果ヲシテ唯々競争銀行ノ割賦金ヲ
 増加シ或ハ減少スルニ止マラシメハ固ヨリ鎖々タル一小事

ニ過キスト雖モ其結果タル蘇國各銀行ノ成立ヲ殆フスルノ
 ミナラス併セテ社會大部分ノ家産ヲモ危險ナラシムルヲ奈
 何セン故ニ若シ斯ノ如キ事件ヲ經過シタルニモ拘ラス尙該
 銀行ノ請求ニ任シテ之ニ特許狀ヲ下付セラル、キハ是蘇國
 銀行法ニ悖反セル一種ノ新タニシテ且有害ナル主義ヲ公認
 翼賛セラレ、ナリト信スルナリ
 蓋シ今日ノ問題ハ政府ニ於テ各銀行ニ新タル管束ヲ爲スヘ
 キヤ否ヤニハアラス一旦約束ヲ守ルヘシト盟ヒナカラ今其
 行爲ニ於テ之ニ背反シ而テ此等ノ有様ノ下ニ在テ特許狀ヲ
 請願スル所ノ一會社ニ特例殊典ヲ許與セラル、カ如キトア
 ラハ自ラ舊法ノ破壊ヲ獎勵セサルヤ否ヤニアリト
 此陳情書ニハ蘇格蘭銀行、大英麻布會社、商業及ヒ國立ノ諸銀行
 調印シタリ而シテ其特許狀ハ切ニ請願セラレタルニモ拘ラス

決シテ許與セラル、コナカリキ
 倫敦ニ於テ斯ク小額ノ準備ヲ設クルノ方法ハ果シテ右ノ書面
 ニ預言シタルカ如キ結果ヲ發生シタリサレハ一千八百四十七
 年ニ於テ「ウエストルン銀行」ハ既ニ困難ノ淵ニ陥リ而シテ同年
 十一月及ヒ十二月ニ於テ英蘭銀行ヨリ三十万磅ノ幫助ヲ受ケ
 タリ然レハ翌年三月之ヲ償還セリ此レヨリ後一千八百五十二
 年其管理法ニ一ノ改革行ハレタル時マテ該銀行ハ稍謹慎持重
 ノ進路ヲ採リシカ尙ホ其爲ス所ハ全ク蘇國各銀行普通ノ行爲
 ニ反對セリト吾人ノ信スヘキモノナリキ何ソヤ其再割引ヲ爲
 シタルト即チ此ナリ左ノ一表ハ一千八百四十七年ヨリ一千八
 百五十二年マテ割引并ニ再割引ノ金額ヲ示スモノナリ

年 度

割引金額

再割引金額

一千八百四十七年

一五、七二一、四三八

六五六、〇七七

一千八百四十八年、
 一千八百四十九年、
 一千八百五十年、
 一千八百五十一年、
 一千八百五十二年、

此時ニ當リ「ウエストルン銀行」ハ期限過手形三十五万六千磅ヲ有
 スルノ外ニ亦一項十二万磅ニ達シタル頗ル巨額ノ不融通資本
 ナ有セリ而シテ該銀行ハ此資本ヲ保護センカ爲メ保險會社ニ
 依頼シテ其負債主ノ生命ニ保險ヲ付シ之レカ保險料トシテ其
 鎖店ヲ爲スマテニ三万三千五百十二磅ノ金額ヲ仕拂フタリキ
 抑此十二万磅ノ金額ハスガースト云ヘル者ヨリ振出シタル手
 形ノ拒却セラレタル内ニ加ヘラルヘキナルヲ以テ該銀行ニ於テ
 ハ素ヨリ拒却手形ノ内ニ加ヘラルヘキナルヲ以テ該銀行ニ於テ
 ハ之ヲ善良ナル資産ノ如ク見セラルヘキナルヲ以テ該銀行ニ於テ
 受命ニ保シタル信カ保險料トシテ其鎖店マテニ三万五千五百
 十主引テテ

一二、〇八八、六四三
 一〇、五二二、〇二二
 一二、〇四八、六六九
 一三、三三二、七五三
 一三、五二五、三三二
 三七四、七〇七
 二四九、九五七
 二九〇、八一三
 五八八、二四七
 四〇七、二四三

二磅ヲ仕拂フレミシグ氏曰ク然ルニ此時ニ於テヌラ渠銀行ハ
 フタルナリト造出シタル許多ノ人民ヲ有シ而シテ常ニ之ト取引
 融通手形ヲ造出シタル許多ノ人民ヲ有シ而シテ常ニ之ト取引
 ナ爲セリト故ニ氏ノ言フ處ニ據レハ此年ニ於テ該銀行ハ業已
 ニ満足スヘキ景況ニハアラサリナリ
 一千八百五十二年ニ至リ新規ノ管理法初メテ行ハレタリ今再
 割引ノ行爲ハ何程マテニ増加シタルカヲ示サンカ爲メ左ニ一
 表ヲ掲出セン

年 度	割引金額	再割引金額
一千八百五十三年	一四、九八七、七四〇	一、六八二、三二〇
一千八百五十四年	一八、五九六、七〇四	三、八五六、二九二
一千八百五十五年	一九、八三五、七八一	四、九六九、六六九
一千八百五十六年	二〇、四一〇、八八四	五、四〇七、三六三
一千八百五十七年 十一月九日マテ	二〇、六九一、四一五	四、八八一、三二一

是ニ由テ之ヲ觀レハ此最危險ナル行爲ハ以上數年ノ間ニ非常ニ増加シタルヤ明カナリ然リ而シテ何レノ會社ニテモ大ニ此行爲ニ依頼スル者ハ其成立テシテ常ニ其手形ノ買主ノ意向、任意、若クハ其身ニ發ルコトアル一切ノ事件ニ任セシムル者ナリ然ルニ該銀行ニテ行ヒタル不都合ハ唯ニ是ノミニ止ラス其他種々ノ困難アルカ上ニ尙ホ四箇ノ勘定アリ而シテ後日ノ災害ハ實ニ之ニ基因セルナリ今爰ニ一千八百五十二年及ヒ一千八百五十七年ニ於ケル其勘定ノ有様ヲ示サン

會社名號	割引金額	貸越勘定
マクドナルド會社	一〇七、一一六	、、、、
メンチース會社	八三、七七九	三、五二三
ワルネース會社	一八、一四四	、、、、
パチソン會社	八九、六七八	一、一五四

合計 二九八、七二七 四、六七七

右ノ如ク此四會社ハ一千八百五十二年ニ於テ該銀行ニ對シ三十万三千三百九十四磅ノ義務ヲ負ヘリ又一千八百五十七年ニ於テ同會社ノ勘定ハ左ノ如シ

會社名號	割引	貸越勘定	期限過手形
マクドナルド會社	四〇八、七一六	五、六三六	八、五二六
メンチース會社	三七六、七九九	六七、六三五	九三、一二九
ワルネース會社	二二七、四六四	、、、、	、、、、
パチソン會社	三三六、九九六	六七、二五三	一一、五七一
合計	一、三四九、九七五	一四〇、五二四	一一三、二二六

サレハ此四會社ノミニテモ其破産ノ時ニ當リ通計一百六十万三千七百二十五磅ノ巨額ナリキ又此四會社ノ爲メニ割引セラレタル手形ノ性質ヲ示サンニ「マクドナルド會社ヨリ振出シタ

ル手形ノ流通高ハ其破産ノ際四十万二千七百十六磅ニシテ其内三十九万八千三百四十九磅ハ満期ニ及ヒテ拒却セラレメシテ
 ティース會社」ヨリ振出シタル手形ノ流通高ハ其破産ノ際三十七万六千六百九十九磅ニシテ其内二十六万九千七百二十六磅ハ満期ニ及ヒテ拒却セラレ「ワルレィス會社」ノ手形ハ其流通高二十万六千七百四十一磅ニシテ其内二十万九千五百三十四磅ハ拒却セラレ「パチソ」會社」ノ手形ハ其流通高三十三万六千九百九十六磅ニシテ其内十五万七千四百四十九磅ハ拒却セラレタル者ナリキ

「ウエストルン銀行」ノ取締役ハ一千八百五十七年六月ノ株主總會後幾モナク他ノ人ニ其帖簿ヲ檢査センコトヲ請求セリ此ニ於テ此人ハ先ツ其帖簿ノ檢閲ヲ了リ次ニ前記四會社トノ取引ヲ合セ該銀行ノ日々ノ業務ニハ欠クル所ナシト許シタルノ後終ニ

帖簿上善良ノ者ノ如ク記載セラレタル五十七万三千磅ノ金額ハ其實不良ノ滯貸ナルヲ以テ縱ヒ二十四万六千磅ニ達セル積立金ヲ扣除スルモ尙其資本金ニ三十二万七千磅ノ損失アルコトヲ發見シ加フルニ該銀行ノ株券七千六百二十六枚ヲ所持セル數名ノ株主ニ貸付タル金額モ亦九十八万八千四百八十七磅ノ巨額ニ達シタルコトヲ發見セリ是ヨリ先キ該銀行ノ取締役ヨリ一時其管理ヲ委托セラレタル「フレンミング」氏ハ同年九月ニ於テ嚴ニ此莫大ナル諸勘定ノ性質ヲ調査スルコトニ着手セリ然ルニ同月七日ニ至リテ「ワルレィス會社」ハ終ニ融通手形ニテ該銀行ト取引セシコトニ承伏セシカバ氏ハ「マクドナルド會社」モ亦必ス同一事ヲ爲シタルナルヘシト察知セリ他ナシ右ノ二會社ハ共ニ同名ノ者ニ宛テ、其手形ヲ振出シタルヲ以テナリ此ニ於テ氏ハ愈々銳意シテ其調査ヲ遂ケタルニ果シテ「マクドナルド會

社「ハ」百二十四名ノ引受人ニ宛テ、其手形ヲ振出シ而シテ該銀行ニ於テハ唯其三十七名ノミヲ探究シタルノミナラス此内二十一名ニ關スル報告ハ極メテ不良ノ者ナリシヲ發見セリ然ルニ該會社ノ手形引受人ハ尙此外ニ六七名アリシカ此輩ハ皆ナ些少ノ手數料ヲ得テ振出人ノ爲メニ手形ノ引受ヲ爲ス一チ一ノ商賣トセシ者ナリキ寔ニ該會社ハ倫敦ニ於テ一人ヲ僱使シ而シテ之ヲシテ該社ノ爲メニ融通手形ノ引受ヲ爲サシメタルモノ、如シ此諸勘定ノ真相右ノ如ク確知セラレタルヤ否ヤ該銀行ノ營業ヲ停止スルノ外ニ一ノ手段アラサリシサテ首トシテ世人ノ知ル所トナリタル「メンテリス」及ヒ「マクドナルド」兩會社ノ破産ハ十月十日ヲ以テ株引取引所ノ上ニ恐慌ヲ惹起シ而シテ株式ノ價格忍テ下落ヲ致シヨリ是レ畢竟該銀行ノ資本ハ此兩會社ヲシテ多年ノ間其業ヲ營ムヲ得セシムルニ舉

欠

MISSING

價格篇

総説

余輩ハ前篇ニ於テ富ニ貨幣、勤勞、信約ノ三種アルヲ述キ且ツ此等ノ富ノ相互ノ交換ヨリ六種ノ貿易ヲ生ズルヲ述ベタリキ此ノ六種ノ貿易ハ實ニ今日ニ謂フ所ノ經濟學ヲ組成スルモノナリ。余輩ハ亦タ其富ノ價格ハ即チ其富ト交易サレタル富ナルヲ論ジタリキ故ニ斯ノ六種ノ交易及ビ之ヨリ傍出スル所ノ諸般ノ事件ヲ查察スルニアラザレバ未ダ以テ經濟學ノ論議ヲ完了セリト云フヲ得ス然レモ本書ニ於テハ特ニ六種中ノ二種即チ信約ト貨幣トノ交易及ビ信約ト信約トノ交易ヲ論究スレバ則チ足レリトス蓋シ銀行事務ハ全ク右二種ノ取引ヨリ組成サル、モノナレバナリ余輩ハ今マ先ヅ三種ノ交易及ビ六種ノ交易ニ凡テ適用シ得ベキ價格ノ通理ヲ講究セザルベカラズ

價格ノ通理ヲ十分ニ解得スルニハ左ノ三事ヲ明カニスルヲ要ス

第一 價格ノ定義

第二 價格ノ原因

第三 價格ノ通法

余輩ハ順テ逐フテ右ノ三事ヲ考察シ以テ後篇諸論ノ根據ヲ確定セザルベカラズ余輩ハ本書ニ於テハ成ルベク辯難爭議ヲ避ケン[○]ヲ希フト雖モ今日尙ホ信約ノ眞理ヲ遮蔽スル所ノ謬說ニ遭フニ及ンデハ之ヲ駁撃セザラント欲スルモ得ベカラズ讀者焉レテ諒セヨ

價格ノ定義ヲ論ズ

價格ノ原義ニ據レバ價格ハ一個ハ心願ナリ價格ハ敬重或ハ尊崇ノ義ナリ例ヘハ甚ダ價ヒアル朋友ト云フガ如キ是レナリ然

レモ斯ル價格ハ之ヲ經濟現象ノ一ナリト云フヲ得ズ價格ノ經濟現象トナルニハ人目ヲ以テ視ルベキ形体ヲ具ヘザルベカラザル[○]猶ホ才能ノ經濟現象トナルニハ其作用ヲ交易上ニ呈ハサザルベカラザルガ如シ故ニ價格ハ某人ガ己ノ所有物ヲ他ノ所有物ト交易セントスルニ當リ他ノ所有物ニ對スル己レノ心願敬重價格ヲ表示スルニアラザレバ經濟學ノ範圍内ニ入ルベキ價格トハナル能ハザルナリ
夫レ然リ而シテ何人ト雖モ己レノ欲スル所ノ物ヲ他ヨリ得ルニハ亦タ他ノ欲スル所ノ物ヲ己ヨリ與ヘザルベカラサルガ故ニ交易ノ起ルニハ必ラズ二個ノ心願ノ同在一致スルヲ要スル[○]明カナリ若シ某人アリテ禁酒國ニ輸入スルコト葡萄酒ヲ以テセバ其葡萄酒ハ斯ル社會ニ一毫ノ價格ヲ有スル能ハザルベシ又タ煙草ハ之ヲ嗜マザル人民ノ住居スル國ニ在テハ價格少シ

價格ノ通理ヲ十分ニ解得スルニハ左ノ三事ヲ明カニスルヲ要ス

第一 價格ノ定義

第二 價格ノ原因

第三 價格ノ通法

余輩ハ順チ逐フテ右ノ三事ヲ考察シ以テ後篇諸論ノ根據ヲ確定セザルベカラズ余輩ハ本書ニ於テハ成ルベク辯難爭議ヲ避ケンコトヲ希フト雖モ今日尙ホ信約ノ眞理ヲ遮蔽スル所ノ謬説ニ遭フニ及ソテハ之ヲ駁撃セザラント欲スルモ得ベカラズ讀者焉レヲ諒セヨ

價格ノ定義ヲ論ズ

價格ノ原義ニ據レバ價格ハ一個ハ心願ナリ、價格ハ敬重或ハ尊崇ノ義ナリ例ヘハ甚ダ價ヒアル朋友ト云フガ如キ是レナリ然

レモ斯ル價格ハ之ヲ經濟現象ノ一ナリト云フヲ得ズ價格ノ經濟現象トナルニハ人目ヲ以テ視ルベキ形体ヲ具ヘザルベカラザルコト猶ホ才能ノ經濟現象トナルニハ其作用ヲ交易上ニ呈ハサルベカラザルガ如シ故ニ價格ハ某人ガ己ノ所有物ヲ他ノ所有物ト交易セントスルニ當リ他ノ所有物ニ對スル己レノ心願、敬重、價格ヲ表示スルニアラザレバ經濟學ノ範圍内ニ入ルベキ價格トハナル能ハザルナリ

夫レ然リ而シテ何人ト雖モ己レノ欲スル所ノ物ヲ他ヨリ得ルニハ亦タ他ノ欲スル所ノ物ヲ己ヨリ與ヘザルベカラサルガ故ニ交易ノ起ルニハ必ラズ二個ノ心願ノ同在一致スルヲ要スルコト明カナリ若シ某人アリテ禁酒國ニ輸入スルニ葡萄酒ヲ以テセバ其葡萄酒ハ斯ル社會ニ一毫ノ價格ヲ有スル能ハザルベシ又タ煙草ハ之ヲ嗜マザル人民ノ住居スル國ニ在テハ價格少シ

モ無カルベシ故ニ物品ノ價格ハ單ニ之ヲ販賣スル人ニ因テ成立セズシテ之ヲ購買スル者ト之ヲ販賣スル者ト相待テ始メテ成立スルモノナリ故ニ人アリ其所有ノ物品ヲ賣ラントスル思念甚々急ナルモ之ヲ買フ者ナケレバ其物品ハ價格ヲ生ズルヲ得ズ故ニ某交易ノ起ルアリトセバ其交易ハ甲乙互ニ他ノ物品ヲ欲望スルニ因テノミ行ハル、モノナリ

是故ニ二個人アリテ互ニ其產物ヲ交易センコトヲ承諾スルキハ甲乙ノ產物ハ各々其所有主ガ他ノ產物ヲ得ントスル情願ヲ測ル尺度ト視做スヲ得ベシ故ニ此ノ二個ノ產物ハ相互ニ其所有主ガ他ノ產物ニ對スル欲望ノ緩急ヲ測度スルナリ而シテ甲乙二人互ニ其交易スベキ產物ノ分量ヲ約諾スルキハ之ヲ稱シテ甲乙產物ノ價格相均シト云フ詳説スレハ甲產物ヲ稱シテ乙產物ノ價格ト云ヒ乙產物ヲ稱シテ甲產物ノ價格ト云フナリ所謂

ル經濟學ノ價格トハ之ヲ外ニシテ他ニナキナリ

彼ノフシヨクレト派ノ説ニ價格ハ甲乙產物ノ間ニ起ル所ノ交易ノ關係ニ成ルト云ヒ或ハ甲產物ノ分量ト乙產物ノ分量トノ間ニ行ハル、交易ノ關係ニ成ルト云ヒシハ正ニ余輩ノ説ト符合セリ

故ニ價格ハ割合ナリ均數ナリ價格ハ猶ホ距離ノゴトシ必ラス兩端ナカルベカラズ某物ノ價格ハ常ニ其外ニ存在スル他物ナリ未ダ其物ノ他物ト交易サレ能フヤ否ヤヲ知ラズシテ此物ノ價格幾何ナルヤハ決シテ之ヲ豫言スルヲ得ザルナリ故ニ各物ノ價格ハ其レト交易サレタル貨物ニ存ズルコト固ヨリナリ相ヒ對スル物品ノ價格ヲ述ベズシテ或ル物品ニ價格アリト言フベカラザルハ恰モ相對スル場所ヲ述ベズシテ或ル都府ニ距離アリト言フベカラザルガ如シ余輩ハ單ニ倫敦距ルト言ヒ能ハザ

ルガ如ク亦タ單ニ物品價ヒスト言ヒ能ハザルナリ或ル場所ノ各所ニ對スル距離ノ一樣ナラザルガ如ク亦タ或ル物品ノ各物品ト交易サル、分量モ一樣ナルヲ得ザルナリ

例ヘハ甲物ヲ金拾圓ナリト假定セヨ之レニ對スル乙物ハ彼ノ富ノ三種中時計ノ如キ有形物ナルモ教育ノ如キ無形物ナルモ舞踊音曲ノ如キ歡樂ナルモ銀行手形ノ如キ爲換手形、公債證書ノ如キ無形品ナルモ荷モ拾圓金ト交易サル、以上ハ即チ皆ナ拾圓金ノ價格アルモノナリ故ニ此等ノ物品ハ亦タ相互ニ同價格ナラザルベカラズ何ントナレバ一物ニ同シキ諸物ハ相互ニ同シケレバナリ

然リ而シテ三種ノ富ノ孰レチ甲物トスルモ之レニ對スル乙物トノ關係ハ毫モ異ナルヲナシ故ニ或ル富ハ其レニ對スル諸般ノ富ト價格ヲ均フスルナリ

從來富、價格、生殖勤勞、及ビ其他種々ノ經濟學上ノ要件ニ付キ多クノ誤謬ヲ生ゼシ所以ノ者ハ或ル富ノ價格ハ之レト交易サレタル他ノ富ナルヲ固ク且ツ明ニ心ニ記憶セザルニ因ルノミアリストトト曰ク其價格ノ貨幣ヲ以テ量リ得ベキモノハ咸ナ富ナリト「エリキシアス」(書名)ノ著者ハ此ノ富ノ定義ニ基キ科學ノ教授ニ依テ生計ヲ營ム人ニハ教授ノ富タルハ恰モ金銀ノ能ク生計品ヲ購フガ故ニ富タルト其理ヲ全フスルヲ證明セリ又タ羅馬ノ法律家ハ富ノ根本ヲ交易ノ能力ニ存ストナシ權利ノ轉移スベキ者ハ能ク賣買サル、ガ故ニ權利ヲ以テ富ノ題目中ニ置キタリキ

商買ノ庫中ニ在ル貨物ノ價格ハ其得意ノ囊中ニ在ル貨幣ナリ公衆ノ囊中ニ在ル貨幣ノ價格ハ彼等ノ購買スベキ各種ノ產物或ハ勤勞ナリ學士ノ講義ノ價格ハ學生ノ彼レニ拂フ所ノ謝金

ナリ内科醫、外科醫及ピ訟師ノ才能ノ價格ハ彼等ガ獲ル所ノ利益ナリ故ニ無形產物ハ之ヲ登記スル能ハズ亦タ之ヲ計算スル能ハザルナリ理由トシテ無形產物ヲ經濟學ノ區域外ニ放逐スルマルザス氏ノ説ハ全ク經濟學ニ適用スベカラザルノミナラズ決シテ一日モ存立スベカラザルナリ何ントナレバ余輩ガ訟師、醫師、機關手、建築家等ニ拂フ所ノ貨幣ハ即チ彼等ノ所得トナレハ彼等ノ勤勞(即チ無形物)ノ價格ハ他ノ無形產物ノ如ク容易ニ計算シ得ベケレバナリ

契約即チ權理ノ價格ハ其權理ニ據テ要求サレ得ル所ノ物ナリ五磅手形ノ價格ハ金五磅ナリ郵便切手ノ價格ハ書狀ノ遞送ナリ或ル人ノ頭髮ヲ截理スベキ契約ノ價格ハ頭髮ノ截理ナリ鐵道切符ノ價格ハ旅行ナリ動物園切符ノ價格ハ動物園ノ縱覽ナリ木戸札ノ價格ハ觀劇ナリ

設ヘバ調髮料ヲ一「シルリング」ナリト假定シ余ハ調髮ヲ望ムト假定セヨ此時ニ當リ余ハ一「シルリング」ヲ有スルモ又タハ調髮師ノ調髮切符ヲ有スルモ余ニ於テ何ノ異ナル所アラシク然ラバ則チ此場合ニ於テ一「シルリング」ト調髮切符トハ我レニ在テ同價格ナルコト豈ニ明カカラズヤ

設ヘバ余ハ一「シルリング」ヲ價ヒスル麵包一個ヲ需要スト假定セヨ余ハ余カ囊中ニ在ル一「シルリング」ヲ以テ麵包ヲ購フモ又タハ麵包商ヨリ得タル契約證ヲ以テ之レニ易フルモ余ニ於テ何ノ異ナル所カアル然ラバ此場合ニ於テ一「シルリング」ト契約トハ余ニ在テ全ク同價格ニアラズヤ

設ヘバ余ハ動物ヲ觀シト欲スルト假定セヨ余ハ貨幣ヲ拂フテ之ヲ觀ルモ又タハ縱覽證ヲ出シテ之ヲ觀ルモ余ニ於テ異ナル所ナシ然ラバ此場合ニ於テ貨幣ト縱覽證トハ余ニ在テ同價格

ニアラズヤ
 以上ノ諸例ヲ約言センニ余ハ某產物若クハ某勤勞ヲ需要スト
 假定セヨ此時ニ當リ余ハ我囊中ニ貨幣ヲ有スルモ其產物若ク
 ハ其勤勞ヲ余ニ與フベキ契約證ヲ有スルモ余ニ於テ毫モ異ナ
 ル所ナカルベシ然ラバ此ノ二個ノ場合ニ於テ貨幣ト契約トハ
 余ニ在テ同價格ニアラズヤ
 但シ各商人ハ唯タ或ル特殊ノ產物ヲ與フベキ契約ヲ爲スニ過
 キザレバ此產物ハ契約ヲ爲セシ人ニ向テノミ要求スルヲ得ル
 ガ故ニ其契約ノ價格ハ特殊ノ價格ナルヲ論ヲ待タズ
 今夫レ貨幣ハ如何ナル者ヲ蓋シ貨幣ハ何レノ時ヲ問ハズ何レ
 ノ產物勤勞ヲ論ゼズ吾人ノ欲スル物ヲ其欲スル時ニ得ベキ普
 通ノ權理即チ權力ニ外ナラザルベシ故ニ各種ノ證約ハ特殊ノ
 權理ニシテ貨幣ハ普通ノ權理ナルヲ亦タ明カナラズヤ

是故ニ特殊ノ權理ハ貨幣ト其性質ヲ同フシ唯ダ彼レハ此レヨ
 リモ稍々其効能ノ隘キニ過キザルヲ明カナラズヤ而シテ特殊
 ノ權理ノ富タルハ貨幣ノ富タルト其理由ヲ同フスルヲ亦タ明
 カナラズヤ而シテ貨幣ハ凡テノ產物及ヒ勤勞ヲ要求スベキ普
 通權理ヲ蓄積貯藏シタル者タルヲ將タ亦タ明カナラズヤ若シ
 一人アリテ其欲スル所ノ凡テノ產物勤勞ヲ與ヘラルベキ契約
 ナ信用アル者ヨリ得ルハ其人ノ富有ナルヲ恰モ凡テノ產物
 勤勞ヲ購得スベキ貨幣ヲ有スル者ト同シキヲ昭々タリ乃チ知
 ル余輩ハ富或ハ貨幣ノ中ニ權理ヲ入ル、羅馬律ノ正理ニ適ス
 ルヲナ
 右ノ理由ニヨリ特殊ノ權理ハ他ノ有形產物ノ如ク價格ヲ有ス
 ルヲ以テ此等ノ權理ハ亦タ他ノ有形產物ノ如ク賣買スルヲ得
 ベシ即チ某量ノ麪包ヲ要求スル權理ハ調髪ヲ要求スル權理ト

交易スルヲ得ベク亦々前編ニ述ベタルイホニヤ人ノ油手形ハ其レト同價格ノ茶及ビ他ノ產物ヲ拂フベキ契約ト交易スルヲ得ベシ

又々三ヶ月後ニ拂ハルベキ某額ノ貨幣ヲ要求スル權理ハ直ニ貨幣ヲ要求スル權理ト交易スルヲ得ベシ凡テ此等ノ權理ハ其富タルヲ毫モ有形產物ト異ナルヲナシ此等ノ權理ハ實ニ我國財産ノ大部ヲ占メ我盛大ナル商業ノ要品ナリ

價格ハ素ト二個ノ富ノ相交易サルベキ割合ナルガ故ニ甲富ニ對スル乙富ノ價格ハ乙富ガ購ヒ能フ所ノ甲富ノ分量ノ大小ニ隨テ増減シ甲富ノ價格ハ甲富ガ購ヒ能フ所ノ乙富ノ大小ニ隨テ増減スルヲ明カナリ故ニ其原因ヨリ甲乙二富ノ割合ニ變動ヲ生ズルキハ甲乙二富ノ價格モ亦々變動セザルヲ得ズ然ラバ甲物品ノ價格變ゼザルニ乙物品ノ價格變シタリト云フハ恰モ

停車場ト列車トノ距離變ゼザルニ列車ト停車場トノ距離増シタリト云フガ如キ誤謬タルヲ知ルベク且ツ又々相對スル他物ノ變動或ハ靜止ヲ述ベズシテ單ニ某物其價格ヲ變動セリト云ヒ或ハ單ニ某物其價格ヲ靜止スト云フハ猶ホ標準ヲ定メズシテ距離ノ遠近ヲ語ルガ如キ誤謬タルヲ知ルベシ

故ニ何物ト雖モ他ノ一般諸物ノ價格靜止スルニアラザレバ其價格亦々靜止スル能ハズ是レ某物ノ價格ハ或ル物ニ對シテ變ゼザルモ而カモ或ル物ニ對シテ變ズルキハ所謂某物ノ價格モ亦々變ズベケレバナリ

夫レ然リ而シテ某物ノ價格ハ即チ之レト交易サレタル他ノ物ナルガ故ニ交易サレザル物ノ價格ヲ有スル能ハザルハ固ヨリ判然タリ他人ノ需要セザル物ハ其性質ノ如何ニ拘ハラズ其所有主ニ價格ナキヲ猶ホ所有主ガ大砂漠ノ中央ニ在ルキノ如ク

ナルベシ貨幣ノ價格ナキヲ信ズルハ衆人ノ最モ難シトスル所ナリ然レモスミス氏ハ自ラ曰ク若シ金貨ニシテ他物ト交易サレザルモハ其價格ナキヲ破産銀行ヘ宛テタル手形ト異ナルヲナシトセイ氏モ曰ハク諸般ノ物品ハ交易ニ依テ始メテ價格ヲ生ズト此等ノ言タル正ニ凡テノ古代ノ學者及ビフィシヨクレト派ノ説ト符合スルモノナリ

今一例ヲ舉ゲンニ今日存命中ナル某記者ハ西班牙僻郷ノ一ニ在ルノ家屋ノ壯麗ヲ記スニ當リ下ノ言ヲ爲セリ曰ク斯ル地方ニ在ル家屋並ニ寶什ハ殆ンド無價ニ屬ス是レ家屋アリト雖モ之ヲ儼ルモノナク寶什アリト雖トモ之ヲ買フモノナケレバナリト

右ノ一例ハ甚ダ簡單ナリト雖モ亦タ以テ價格ノ素ト割合ニシテ其存在ニ必ラズニ物ヲ要スルヲ見ルニ足ルヘシ然ルニ世

ノ經濟學者ハ一方ニ於テハ某物ノ價格ハ其物ノ外ニ存スルヲ認メナガラ他ノ一方ニ於テ此ノ原義及ビ其ノ結果ヲ固記スルヲ稀レニシテ知ラス識ラズ價格ハ全ク物品固有ノ性質ナリト思惟シ價格ト物品ノ別物タルヲ忘却スルヨリ時トシテハ價格ヲ性質ナリト云ヒ時トシテハ價格ヲ割合ナリト云ヒ遂ニ價格ノ理ヲシテ混乱錯雜セシムルニ至リシナリ

此ニ尙ホ一事ノ考察ヲ要スルモノアリ何ツヤ曰ク價格ト物價トノ差別是レナリ夫レ價格ハ甲物品ト乙物品ト交易サル、所ノ割合ナリ物價ハ某物品ノ單ニ貨幣若クハ信約ニ對スル所ノ價格ナリ故ニ貨幣若クハ信約ノ分量非常ニ増加スルモ凡テ他ノ諸物價騰貴スベシ而カモ此諸物ノ相互ニ交易スル價格ハ尙ホ依然トシテ變ゼザルベシ例ヘバ一個ノ麪包一磅ノ製茶共ニ是レマデ六「ペンス」ナリシガ貨幣或ハ信約ノ非常ナル増加ニ

遭フテ共ニ「シリング」ニ騰貴セリトセヨ然カルモ尙ホ一磅ノ製茶ハ舊ノ如ク一個ノ麪包ト交易セラルベシ物價ニ一般ノ騰貴或ハ一般ノ下落アルハ之レガ爲メナリ然レニ價格ニハ一般ノ騰貴及ビ一般ノ下落ナルモノアルヲ得ズ一般諸物ノ一般諸物ニ對シテ騰貴シ若クハ下落スル能ハサルハ十二頭ノ獵犬皆ナ獨リ先ンズル能ハザルガ如ク又タ百株ノ樹木皆ナ獨リ秀ヅル能ハザルガ如シ(以上ミル氏ノ比喩ヲ借ル)一般諸物ハ能ク相共ニ騰貴スベシト假定スルハ是レ何ツ社會ノ各人ヲシテ各々其隣人ヨリモ善ナラシメントスルベトノ想像ニ異ナランヤ

固有價格ナル語ノ謬妄ヲ論ズ

余輩ハ嘗テ大ニ經濟學ヲ混乱セシメシ所ノ一原因タル固有價格ト云ヘル語ヲ查察セザルベカラズセイ氏ガ經濟學上ノ通語ヲシテ其思想ヲ制束セザラシムルノ甚ダ困難ナルヲ説キシハ善ク其肯綮ニ當レリト謂フベシ蓋シ經濟學上ニ用ヒ來レル通語ノ有害ナルモノ頗ル多シト雖モ其ノ害ノ甚シキハ余輩ガ今マ查察セント欲スル所ノ通語ニ若クモノナシ故ニ此通語ヲシテ其述ヲ絶タシムルハ經濟學改良ノ第一歩ナリトス殊ニ信約ノ全旨ヲ明ニスルニハ必ラズヤ此通語ノ謬妄ヲ看破セザルベカラズ

古代ノ學者ハ皆ナ某物ノ價格ハ其物ト交易サレ得ベキ他ノ物ナルヲ明知シ未ダ嘗テ固有價格ト云ヘル語ヲ用ヒザリシナリ然レニ彼等ハ亦タ未ダ嘗テ經濟上ノ書典ヲ著ハセシコアラ

ザリキ近代始メテ世人ノ意ヲ富ノ趣旨ニ注クニ至リ久シク富ハ唯ダ金銀アルノミトノ説ヲ持シタリキ是レ他ノ諸物ハ到底皆ヲ消糜打毀セラルレドモ金銀ハ獨リ然ラザルニ因ルナリ其後チ世人ノ金銀唯富ト云ヘル説ノ妄謬タルヲ發見スルニ及ビ某物ヲシテ富トナラシムル者ハ其物固有ノ性質ナルヲ認メシヨリ此ニ始メテ固有價格ナル名稱ヲ生ゼレナリ余輩ハ何レノ地又タ何レノ時ヨリ此名稱ノ起リレヤヲ知ル能ハズト雖モ既ニ千六百九十六年ノ古ニ在テ彼ノ有名ナルバルボン氏ハ交易ヨリ起ル所ノ價格ト物品固有ノ性質トヲ混同スルノ誤謬タルヲ示セリ同氏云ハク此議論ヲ紛雜スル者ハ價格ト功用トノ混淆ヨリ甚シキハ莫シ價格ハ物品ノ代價タルニ過ギズ價格ノ一定不變ナル能ハザルハ恰モ物品ノ代價ノ凡テノ時凡テノ所ニ於テ同一ナルヲ得ザルガ如シ故ニ余輩ハ固有價格ナル

者ノ決シテ成立ツベカラザルヲ知ルナリ然リト雖モ物品ハ皆ナ固有ノ功用ヲ有セリ此功用ハ何レノ所ニ在テモ同一ナラザルハ莫シ例ヘバ磁石ニ鉄ヲ吸引スル力アルガ如ク藥草ニ下瀉水利ノ効アルガ如キ是レナリ磁石藥草ノ功用大ナルニモ拘ハラズ此等物品ノ豊充セル地方ニ於テハ其價格甚ダ小ナルノミナラス時トシテハ全ク無價ナルヲアリ彼ノ紅色「子ツトル」(木名)ハ血ヲ止ムルノ効著シト雖モ其豊饒ナルガ爲メニ毫モ價格ヲ有セズ彼ノ香料ノ如キモ我國ニ在テハ價格頗ル大ナリト雖モ其產地ニ於テハ價ナキナリ而カモ香料ハ其所在ヲ易フルガ爲メニ其固有ノ功用ヲ増減スルニアラスト且ツ曰ク凡ソ物品ハ皆ナ自ラ價格ヲ有セザルガ故ニ物品ニ需用ヲ生シ之ニ價格ヲ與フルモノハ唯ダ夫レ興論ト流行トノミト

右ノ如クバルボン氏ハ今日ニ至ルマテ尙ホ經濟學ノ害毒タル

者即チ人ヲレテ固有ノ性質ト外部ノ關係トヲ混同セシムル所
 ノ固有價格ナル語ニ着眼シタリ余輩ハ信約ノ理ヲ紛雜且曖昧
 ナラシムル者ハ實ニ此語ニ在ルヲ知ルナリ
 「フィシヨクレーツ」派ノ未ダ起ラザル前ニ彼ノ商則(商則トハ金銀
 唯富ト云ヘル主義ヲ奉ズル所ノ經濟論ナリ)ヲ駁撃セシ最モ卓
 越ナル學者ハ近代經濟學ノ曉ノ明星ト稱セラレタルボイスガ
 イレベルト氏ナリトス同氏ハ其千六百九十七年ノ出版ニ係ル
 「ラヂ、ール、ド、ラ、フランス」(書名)及ビ千七百七年ノ出版ニ係ル
 「フアクタム、ド、ラ、フランス」(同上)等ノ諸書ヲ著ハシ以テ夫ノ有名
 ナルツルゴー氏ガ僅カニ三十余年間維持セシ所ノ凡テノ定説
 ヲ辨護セリボイスガイレベルト氏ノ言ニ曰ク世界開闢ノ始メ
 ヨリ自然ノ數ト上帝ノ命トニ因リテ富ナリト定メラレタル者
 ハ生活ノ必需品ノ十分ナル享有ニ外ナラズ而シテ此等ノ必要

品ハ氣候ノ侵冒ヲ防ク所ノ衣食ニ過ギザルガ故ニ富ナル者ハ
 殆ント農作ト牧畜トノ二業ヨリ成立スルモノナリト同氏ハ亦
 タ金銀モ衣食ノ如キ必需品ト交易スル能ハザルキハ金銀ヲ富
 ナリト思惟スルノ妄謬タルヲ示スコ當リ左ノ言ヲ爲セリ曰
 ク富ト思惟セラルベキモノハ唯タ衣ト食トノミト
 其後ニ至リ商則ヲ駁論セシ數多ノ學者ハ大概子皆チ富ノ義ヲ
 釋シテ土地及ビ勤勞ノ年々ノ產出物ナリト云ヘリ例ヘバカ
 チロンハ曰ク土地ハ凡テノ富ノ由テ生ズル所ノ源泉ナリ更言
 スレバ富トハ必需品、便利品、奢侈品等ノ概稱ナリ而シテ勤勞ハ
 之ヲ得ル第一ノ方便ニシテ工業ハ第二ノ方便ナリトツルゴ
 ーベリーベッカリヤ及ビ凡ソ當時ノ經濟記者ハ皆チ富ハ勤勞ニ依
 テ土地ヨリ獲ラレタル必需品、有用品、娛樂品ヨリ成立スル者ナ
 リト爲サマルハナシ斯ノ如ク物品ノ有用ナル性質ヲ有スルガ

故ニ之ヲ富ナリト視做ス所ノ釋義ハ自ラ經濟記者ヲシテ固有價格ナル語ヲ用ヒシムルニ至レリ此等ノ記者ハ亦タ交易力ノ富ニ關係スルヲ説カザリシニアラズト雖モ而カモ之ヲ以テ富ノ唯一ノ原因ナリトゼズ唯ダ其第二即チ從屬ノ原因ナリトセシテ古代ノ諸學者ニ同シ

是ヲ以テ當時ノ經濟學者ハ單ニ價格アル實物即チ勞力ノ產物ノミニニ着眼シ而シテ勞力ノ結果ニアラズレテ價格ヲ有スル物ノ數多アルヲ全ク妄却セリ故ニ彼等ハ物品ハ之ヲ產出スル勞力ニ割合ハシテ交易サルベキモノナリト思惟シ隨テ物品ノ價格ハ之ヲ產出スルニ用ヒラレタル勞力ノ分量ニ原因スルモノナリト思惟シ隨テ物品ニ賦與セラレタル勞力ノ分量ヲ標準トシテ其物品ノ價格ヲ測ルニ至リ隨テ價格ヲ呼ンデ固有ノモノト云フニ至リ遂ニ數多ノ有名ナル學者ヲシテ價格ハ勞力

ニ依テ物品ニ賦與サレタル固有ノ性質ナリト思惟セシムルニ至リシナリ此ノ不當ナル名稱即チ固有價格ナル語ハ余輩ガ屢々諸ノ經濟書中ニ見ル所ナリ然レモ考スルハ一方ニ於テハ價格ヲ解釋シテ物ノ外ニ存ズル者ナリト云ヒ他ノ一方ニ於テハ絶エズ固有價格ナル語ヲ用ユルノ全ク自家撞着ノ説タルヲ知ルニ足ルベシ

且ツヤ貨幣ハ固有價格ヲ有スレドモ銀行手形爲換手形ハ唯ダ價格ノ代表物タルニ過ギズトノ説ハ一般ノ經濟書中ニ相望メリ

貨幣ハ勞力ノ產物タルヲ毫モ疑フベキニアラズ然レモアダム・スミス氏ノ云ヒシガ如ク貨幣モ他物ト交易スル能ハザルハ何等ノ價格ヲ有スルヲ得ザルベシ故ニスミス氏モ到底交易力ヲ以テ價格ノ原因トナスニ至レリセイ氏モ亦タ貨幣ノ價格ハ

之ヲ以テ購フベキ物品ニ存スト云ヘリ果シテ然ラハ焉ンツ貨幣ノ價格ヲ固有ノモノナリト云フヲ得ンヤ又ダ物品ニシテ之レト交易サルベキ他ノ物品ヲ物品其者ノ中ニ有セザル以上ハ焉ンツ物品ハ固有ノ價格ヲ有スト云フヲ得ンヤ一片ノ貨幣ハ之ヲ以テ購ヒ得ベキ商品及ビ凡テノ物品チ一片貨幣其者ノ中ニ有スル乎貨幣ハ能ク穀物、家屋、牛馬、車駕、書籍等ト交易スベシ而シテ此等ノ諸物ハ各々皆ナ貨幣ニ對シテ貨幣ノ價格トナルナリ然レニ此等諸物ノ何レガ貨幣ノ固有價格ナル乎

貨幣ノ固有價格ヲ有セザルヤ其レ斯ノ如ク明カナリ然レニ貨幣ハ一般ノ價格ヲ有ス何ントナレバ全國ヲ通シテ一般ニ他ノ諸物ト交易シ得ベケレバナリ然レニ貨幣ヲ野蠻種屬ノ中ニ置ケ貨幣ハ何レノ處ニモ價格ヲ有スルヲ得ザルベシ

凡ソ一國內ノ人民ハ常ニ其國ノ貨幣ヲ受領スルヲ肯ンズルガ

故ニ貨幣ハ一般且ツ永久ノ價格ヲ有スレドモ未ダ嘗テ固有ノ價格ナルモノヲ有セザルナリ

要求次第支拂フベキ銀行手形ノ貨幣ト同一ノ價格ヲ有スルハ各經濟學者ノ承認スル所ナリ是レ何ソガ故ニ然ル乎曰ハク他ナシスル手形ハ貨幣ト交易シ得ルニ因ルノミ信任アル銀行宛ノ爲換手形ハ價格ヲ有ス是レ此手形ハ一定ノ時期ニ於テ貨幣ト交易サル、ガ故ナリ銀行手形、爲換手形ノ價格ヲ有スル理ハ貨幣ノ價格ヲ有スル理ト異ナルヲナシ即チ彼レモ此レモ他ノ物品ト交易サル得ルガ故ニ價格ヲ有スルナリ貨幣ハ他物ト交易サル得ルキハ價格ヲ有シ否ラザルキハ價格ヲ有セズ銀行手形爲換手形モ他物ト交易サル得ルキハ價格ヲ有シ然ラザレバ價格ヲ有スル能ハズ

是ヲ以テ余輩ハ貨幣及ビ凡テノ信約ノ價格ハ精神ニ於テ其性

質ヲ同シ唯ダ其交易力ノ度ヲ異ニスルヲ知ル一片ノ信約ハ即チ一箇ノ商品若クハ或ル他ノ交易品ナルヲ貨幣又タハ貨物ト毫モ異ナル所ナシ

固有價格ナル語ハ世人往々此語ニ撞着矛盾ノ意義アルヲ忘却スルマデニ一般普通ノ用語トナレリ然レモ吾人若シ之レト同一ノ意義ヲ有スル語ヲ想像スルキハ忽チ固有價格ナル語ノ不經ナルヲ見シ一例ヲ舉ゲンニ固有ノ距離若クハ固有ノ割合ナル語ハ世人ノ未ダ嘗テ聞カザル所ニシテ此等ノ語ノ不經ナルハ何人モ直ニ認ムル所ナルベシ固有價格ナル語ノ不經ナルモ以上ノ語ノ不經ナルト異ナルヲナシ貨幣ハ有形物ニシテ且ツ土地、勞力ノ結果ナルガ故ニ固有價格ヲ有スト云ヒ手形、紙幣ハ價格ノ代表物タルニ過ギズト云フハ木尺ハ固有ノ距離ナリ一「ヤルド」距リタル二点ノ間ノ空處ハ距離ノ代表タルニ過ギズ

ト云フノ妄謬ト何ヲ以テ異ナルアラシヤ

余輩ハ嘗テスミス及ビリカルド二氏ガ價格ノ理ニ就テ陷リテハ非常ノ撞着ヲ表明シタリキ然レモ此ニハ他ノ卓越ナル經濟記者ガ自ラ其說ニ反セシ一例ヲ舉ゲンセニナル氏曰ク余輩ハ既ニ余輩ガ價格ナル語ヲ用ユルキハ其通俗ノ意義即チ價格ハ交易ニ於テ物品ヲ受授サレシムル所ノ物品ノ性質ナリトシテ之ヲ用ユルヲ示シタリト同氏又タ曰ク此釋義ニ據レバ價格ハ二物間ニ成立ツ所ノ相互ノ關係ヲ表ハスモノナリト

今夫レ「メロン」菓物ノ名ヲ販賣サレシムル者ハ「メロン」ノ佳香ナルガ故ニセニオルノ說ニ從ヘバ「メロン」ノ佳香ハ即チ其價格ナリト云ハザルベカラズ嗚呼是レ同氏ハ物品ノ性質ヲ以テ物品ノ代價ナリト釋義セルモノナリ

然レモ經濟學者ハ毫モ物品ノ有益若クハ快樂ナル性質ニ關係

セズシテ唯ダ物品ノ他ノ物品トノ外面的ノ關係ニ論及スルモノナリ經濟學者ノ講究ヲ要スル所ノ者ハ物品ノ交易力ニ在リ故ニ經濟學ハ純然タル割合ノ科學ナルヲ常ニ記憶セザルベカラズ

價格ノ下落ト價格ノ減縮トノ區別ヲ論ズ

余輩ハ今マ價格ノ下落ト價格ノ減縮トノ差別ヲ考察セザルベカラズ此ノ兩語ハ往々同意義ニ用ヒラルト雖モ其本眞ノ意義ハ彼此全ク相異ナルモノナリ蓋シ某貨物ノ價格ハ變化トハ其貨物ノ他ノ貨物ノ某量ト同價トシテ交易サルベキ定量ニ變化ヲ受クルヲ云ヒ價格ハ減縮トハ貨物ノ實價ノ其呼價ヨリ下ルヲ云フ價格ハ變化ハ常ニ此貨物ノ彼ノ貨物ニ對スル場合ニ用ヒラレ價格ハ減縮ハ貨物其者ニ關シテ用ヒラル、モノトス例ヘバ某時ニ於テハ金一「オンス」ヲ以テ銀十五「オンス」ニ交換セシ

ガ其後チ銀ノ產出高俄ニ増殖シ而シテ金ノ產出高ハ依然變ゼザリシガ爲メ金ノ一「オンス」ヲ以テ銀ノ二十「オンス」ヲ買フヲ得ルニ至リシ場合ノ如キハ銀ハ金ニ對シテ其價格ヲ下落シタリト云ヒ之レニ反シテ銀ノ產出高變ゼザルニ金ノ產出高甚ダ減少セシガ爲メ金ノ一「オンス」ヲ以テ銀ノ二十「オンス」ニ交換シ得ルニ至リシ場合ノ如キハ金ハ銀ニ對シテ其價格ヲ騰貴シタリト云フ然レモ呼價四圓ノ銀行手形ニシテ唯ダ三圓ノ金貨ヲ買ヒ得ルハ銀行手形ノ價格減縮シタリト云ヒ或ハ某定量ノ純金ヲ含有スト言ハル、所ノ金貨ニシテ其實ハ純金ノ定量之レヨリ少キハ金貨ノ價格減縮シタリト云フ價格ノ下落ナル語ハ貨物並ニ貨幣ニ適用スベシト雖モ價格ノ減縮ナル語ハ特ニ通貨ニ適用スベキモノナリ若夫ノ貨物ニシテ價格減縮ニ類スル變化ヲ受クルハ之ヲ稱シテ貨物其價格ヲ減損セリト云フヲ常

トス
 以上ノ區別ハ數十代ノ間同一ノ名稱ヲ有ツ所ノ貨幣ノ價格ヲ
 論究スルニ當リ必ラス注意セザルベカラザル要件ナリ例ヘバ
 ウヰリアム、ゼ、コンケロル王ノ世ニ在テ貨幣一磅ト云フハ一磅ノ
 重量アル銀塊ノ義ニシテ當時ハ單ニ銀ノミヲ以テ貨幣トナセ
 リ其後チ銀ノ產量大ニ増殖シ且ツ他ノ鑛物ヲ以テ貨幣トナス
 ニ至リ銀ノ價格頗ル下落ノ傾向ヲ生ゼリ古書ノ傳フル所固ヨ
 リ十分ノ信ヲ措クニ足ラスト雖モ姑ク之ニ據レバ當時銀ノ價
 格ハ十二分ノ一ニ下落セリト云フ當ニ銀ノ價格ノ下落セシノ
 ミナラズ其鑄造モ亦大ニ損減シ數代ノ君主ガ行ヒタル損減
 ノ爲メ嘗テ銀ノ一「シルリング」ハ一磅ノ二十分一ナリシガ當時
 ハ一磅ノ六十六分ノ一ニ減損セリ故ニ當時ノ一「シルリング」ハ
 ウヰリアム主ノ時代ノ一「シルリング」ガ購得セシ物ノ三十六分ノ

一ヲ購得スルニ過ギスト謂フベシ價格ノ大變化ヲ受ケシ者ハ
 獨リ銀ノミニ止マラスト雖モ以上ノ一事以テ他ノ諸變化ヲ推
 知スルニ足ラン
 數世間同一ノ名稱ヲ有ツ所ノ貨幣ノ價格ヲ左右スル諸原因ハ
 或ハ前ニ述ベシ如ク働クコトアリ或ハ之レト反對ニ働クコトアリ
 例ヘバ貨幣ノ重量大ニ當初ノ重量ヨリ減損スルモ幣材ノ價格
 ノ大ニ騰貴シタルガ爲メ今ノ貨幣ハ今ニ於テ古ノ貨幣ガ古
 ニ在テ購得セシ分量ト同一ノ分量ヲ購得スルコトアルベシト想
 像スルハ難キニ非ラス此事タル當テ羅馬ニ起リシト云フ即チ
 此國ノ最始ノ鑄造貨幣ハ單ニ銅貨幣ノミナリシガ羅馬府創建
 ノ後チ一時ハ銅塊ノ產出非常ニ増シタルコトアリ其始メ羅馬ハ
 一磅ノ重量アル銅塊即チ「アス」ヲ以テ價格ノ尺度トセシガ「アス」
 ノ重量漸ク減少シテ一磅ノ十二分一ニ下リタリ然レモ或ル記

者ノ説ニ據レバ當時銅塊大欠乏ノ爲メニ銅塊ノ價格大ニ騰貴
 シ此重量ノ減損セル銅貨ハ前キニ全ク一磅ノ重量アル銅貨ノ
 購ヒシ貨物ノ分量ト同一ノ分量ヲ購ヒ得シト云フ此事ノ果シ
 テ然リシヤ否ヤハ本論ヲ輕重スルモノニアラス然レモ此事タ
 ル宜シク斯クアルベキ理ナリ
 以上ノ考察ハ公債ノ事ニ關シ大ニ社會公衆ノ利害ニ影響ヲ及
 ボスモノナリ政府ハ或ル格別ノ時期ニ於テ地金銀ノ一定量ヲ
 數十年間若クハ永久公債主ニ仕拂フベキヲ約スルコトアリ今マ
 假リニ他ノ諸物ノ價格ハ變化セズトスルモ數十年ノ久シキ間
 三ハ貨幣ノ價格ハ幣材ノ一増一減ニ從ヒ一昂一落セザル能ハ
 ズ然ラバ則チ政府若クハ債主ハ斯ノ如キ變化ノ爲メニ痛ク其
 利益ヲ害セラルバチ免レザルベレ
 近世ニ及ンデ數多ノ有名ナル經濟學者ハカリホルニヤ及ピオ

トストラリヤノ金礦ノ大發見ニ因リ金ノ價格ノ激變ヲ受クベ
 キコトヲ豫期セリ又々或ル經濟學者ハ二三ノ邦國ガ金ノ公定本
 位ヲ廢セントスルニ驚キ「ソヴレシ」(金貨)ノ重量ヲ増加スベシト
 建言セシコトアリ余輩ノ見ル所ヲ以テスレバ假令ヘ金銀ニ激烈
 ノ下落ヲ生ズルモ金本位廢止ノ舉ハ容易ニ行ハレザルベシ然
 レモ此重要ナル問題ハ此所ニ論ズベキモノニアラス
 上來論述スル所ニ據リ數多ノ經濟學者ガ發見セント勉ムル所
 即チ唯一物ヲ以テ價格ノ本位トナスコトハ到底行フベカラザル
 ノ理由明白ナラン蓋唯一物ヲ以テ價格ノ本位トナシ能ハザルハ
 恰モ單一物ノ割合ノ本位トナリ又ハ距離ノ本位トナル能ハ
 ザルニ同シキナリ然レモ此趣意ニ關シテ流行スル妄謬ヲ辨ズ
 ルハ其事專バ經濟ニ屬シ銀行學ニ屬セザレバ貨幣本位ノ問
 題ヲ詳カニセント望マル、諸君ハ拙著^{エコンミカルヒロソヒ}經濟學原理ヲ參考セラ

ルベシ

價格ノ原因ヲ論ズ

余輩ハ既ニ富ニハ三種アリテ其形狀千殊万異ナリト雖モ各皆
 ナ價格ヲ有スルヲ辨明シタリ余輩ハ既ニ甲富ノ價格ハ之レ
 ト交易シ得ヘキ乙富ナルヲ斷言シタリキ余輩ハ是レヨリ我
 論究ノ第二段ニ進ミ價格ノ原因ヲ尋索セン
 余輩ハ價格ノ原因ヲ尋索スルニ當リ余輩ガ方サニ尋索スル原
 因ハ如何ナル原因ナルヤヲ知ラザルベカラズ蓋シ價格ヲ有ス
 ル者其性各異ニシテ其數甚ダ多シ故ニ余輩ハ先ツ凡クノ價格
 アル物品ニ通在スル所ノ一箇ノ原因ヲ索出シテ後チ正當
 ノ歸納法ニ據リ其原因ノ果シテ何者ナルヤヲ確定セザルベカ
 ラザルヤ明カナリ培根曰ク科學及ヒ技術ノ發明或ハ證明ニ歸
 納法ヲ利用スルハ適當ノ淘汰ヲ行フテ物性ヲ剖拆シ而シテ

後チ更ニ肯定諸例ニ基キタル結論ヲ拒否スル否定諸例ヲ剖拆
 スルヲ要スト又々曰ク科學ニ須要ナル所ノモノハ經驗ヲ剖拆
 シテ數片トナシ適當ノ淘汰法ニ據テ動カスベカラザル結論ヲ
 生ズル歸納法ニアリトスト

今マ夫レ此歸納ノ第一段ハ價格アル各種ノ富ハ其性質ノ何
 ルヲ論セス悉ク之ヲ輯集網羅スルニアリ故ニ培根曰ク善ク物
 ノ形ヲ知レバ則チ善ク物ノ性ヲ知ル理論ノ眞確ト實行ノ自在
 トハ形ノ發明ヨリ結果スルモノナリト

培根氏ハ某性質ノ存在スル各種ノ實例ヲ輯集網羅スルヲ以テ
 凡テノ眞確ナル科學ノ基礎ナリト教ユルコト其レ斯ノ如ク切
 ナリ同氏又々曰ク形ノ探究ノ順序ハ左ノ如シ豫メ一箇ノ某性
 質ヲ定メ置キテ第一着手ニ其形体ノ如何ヲ問ハズ苟モ此性質
 ノ存在スル實例アルヲ知ラバ悉ク之ヲ我心前ニ蒐輯展列スル

ヲ要ス而シテ斯ル蒐輯展列ヲ爲スニハ須ラク歴史編輯ノ法ニ
 準據スベク決シテ自家ノ意見ヲ用ヒテ諸般實例ノ取捨ヲ決ス
 ル勿レト培根氏ハ此歸納法ヲ例解スルニ熱ノ形ノ探究ヲ以テ
 シ特ニ三表ヲ製シテ第一表ニハ熱ノ性ノ存在スル諸例ヲ載セ
 第二表ニハ熱ノ性ノ存在セザル諸例ヲ載セ第三表ニハ熱ノ度
 ノ同シカラザル諸例ヲ載セタリ
 培根氏又タ曰ク此等三表ヲ稱シテ余ハ我心前ニ諸例ヲ蒐列ス
 ルト云フ歸納法其者ノ施行ハ實ニ其蒐列ニ次クモノナリ何ト
 ナレバ該問題タル熱ノ存在スル諸例、熱ノ存在セザル諸例、及ヒ
 熱ノ増減スル諸例ノ觀察タルニ過ギザレバナリト又タ曰ク故
 ニ余輩ハ火否ナ心ヲ以テ物性ノ融解分拆ヲ行ハザルベカラズ
 故ニ眞確ナル歸納法ノ第一歩ハ豫メ定メ置キタル某性質ノ存
 在スル場合ニ存在セザル性質、若クハ某性質ノ存在セザル場合

ニ存在スル性質、若クハ某性質ノ増減スル場合ニ増減セザル性
 質ヲ淘汰スルニ在リ以上ノ諸性質ヲ適當ニ淘汰セシ後チ尙ホ
 存留スル者ハ即チ確定牢固ニシテ眞誠判白ノ形ナリト
 歸納法ニ欠クベカラザル科業ハ偽謬ノ諸形ヲ排除スルニ在リ
 故ニ培根曰ク余ハ今マ前ニ掲ゲタル展列諸表ニ據リ熱ノ形ニ
 屬セザル所ノ諸性質ヲ淘汰スル一例ヲ示サザルベカラズ然レ
 ニ此各表ハ必ラズ十分ニ或ル性質ヲ淘汰スルノミナラズ併セ
 テ特殊ノ場合ノ或ル性質ヲモ淘汰スルモノナルヲ要ス何ント
 ナレバ單ニ一箇ノ反對ノ場合ト雖ヒ熱ノ形ニ於ケル推定ヲ顛
 覆スルカアルヲ前ニ述ベシガ如ク明白ナレバナリト又タ曰ク
 歸納法ハ其肯定ノ段落ニ到ルマデハ未ダ完結シタリト云フベ
 カラズト雖ヒ而カレニ眞確ナル歸納法ノ基礎ハ實ニ淘汰法ノ
 施行ニアリ然レニ淘汰法モ亦タ獨立シテ完全ナルヲ得ザルノ

ミナラズ決シテ一步モ施行スベカラザルモノナリ蓋シ陶汰法ハ即チ簡單ナル諸性質ノ排除ニ外ナラザルヲ以テ余輩ニシテ簡單ナル諸性質ヲ確實至正ニ觀察スル腦力ヲ備フルニアラザレバ爭テカ陶汰法ノ施行ヲシテ精覈ナラシムルヲ得ンヤト譯者曰ク以上記者ガ屢々引用セル培根氏ノ言ハ同氏ノ著ハセシ「ノヴァーナルガム」ト題スル書ニ載スル所ニシテ其文至テ簡ニ其意至テ深シ高尙ナル論理書ヲ熟讀セシ者ニアラザレバ恐クハ之ヲ解シ難カルベシ况ハンヤ譯者ノ拙文ヲ以テ之ヲ譯スルヲヤ讀者諒焉

培根氏ハ歸納法ヲ例解スルニ熱ノ形ノ探究ヲ以テセシガ余輩ハ之ヲ以テ價格ノ形ヲ探究スベシ
余輩ハ培根氏ノ先例ヲ襲ギ價格ノ諸例ヲ充分ニ蒐輯スルヲ以テ第一着手トナサザルベカラズ余輩ハ既ニ富ニ三種アリテ其

形狀千殊万異ナリト雖モ各皆ナ價格ヲ有スルヲ述ベタリ余輩ハ今マ價格アル諸種ノ富ヲ枚擧セザルベカラズ即チ左ニ

(第一)有形財産及ビ有体財産

土地、樹木、家畜、凡テノ種類ノ群畜、穀物及ビ土地ニ産スル凡テノ種類ノ菓物、家屋、家什、衣服、貨幣、魚類、石炭、銅、鉄、大理石ノ如キ鑛物、ダイヤモンド「ルビース」エメラルドノ如キ寶石、眞珠、時計ノ如キ凡テノ種類ノ製造品、等皆ナ此項ニ屬ス

(第二)無形財産

農業的、工作的、藝術的、科學的、文學的ノ諸勤勞及ビ凡テノ種類ノ勤勞皆ナ此項ニ屬ス

(第三)無体財産

凡テノ種類ノ信約及ビ負債、公債證書、版權、發明專賣權、

商社ノ株式、商業ノ得意、藝術ノ實行、解賃、地稅、及ヒ凡テノ種類ノ年賦金皆ナ此項ニ屬ス

余輩ハ今マ以上類列セル富ノ形ヲ探究スベシ之ヲ探究スルニハ第一着ニ適當ノ淘汰法ヲ施シ時トシテ價格ニ隨伴スル所ノ凡テノ唐突且ツ偶爾ノ思想ヲ排却セザルベカラズ而シテ斯ル淘汰法即チ排却法ヲ十分ニ行フノ後チ余輩ハ肯定的、諸例ニ據リ價格ハ單一且ツ普通ハ原因ヲ發見セザルベカラズ此原因ノ存在スル所ニハ價格亦タ存在シ此原因ノ増スルハ價格亦タ増シ此原因ノ減ズルハ價格亦タ減シ此原因ノ存在セザル所ニハ價格亦タ存在セザルナリ

例ヘバロック氏ハ各私人ガ專有セル土地及ビ其產物ノ權理ノ基礎ハ彼等ガ土地及ビ其產物ニ施シタル勞力ニ起因スルヲ示スノ後チ實ニ以下ノ言ヲナセリ曰ク勞力所有權(諸人各其勞力ノ結果ヲ享有スル權理ヲ云フカ)ノ土地共有權(土地ヲ共有物トシテ勞スル者モ勞セザル者モ皆ナ土地ノ產物ヲ平等ニ享有スル權理ヲ云フカ)ニ優ルハ異ムニ足ラズ何ントナレバ諸物ノ價格ニ差等ノ生ズルモノハ實ニ勞力ナレバナリ試ニ煙草或ハ砂糖ヲ植ヘタルカ若クハ米麥ヲ蒔キタル「エークル」ノ土地トモ耕耘ヲ施サル「エークル」ノ共有地トノ差異ヲ一考セヨ然ルルハ勞力ノ改良ハ地價ノ大部分ヲ成スコトヲ發見スベシ余ハ人生ニ有用ナル地產物ノ十分ノ九ハ勞力ノ結果ナリト云フモ決シテ過算ニアラザルベキヲ信ズ且ツヤ吾人ハ吾人ノ需用ニ來ル所ノ諸品ト此等ニ費ヤス所ノ貨幣ト其自然ニ歸スベキ

部分幾何ナルヤ其勞力ニ歸スベキ部分幾何ナルヤヲ精算スル
 キハ百中ノ九十九ハ勞力ニ歸スベキモノナルヲ見ント
 同氏又タ曰ク此理ヲ證明スルモノハ亞米利加諸國ニ若クハ十
 シ此諸國ハ土地ニ富メドモ凡テノ生計品ニ貧シク衣食歡樂ニ
 供スベキ諸物ヲ産出スル豐饒ノ土地アレドモ之レヲ改良スル
 勞力ノ欠クルガ爲メニ其人民ハ吾人が享有スル便利ノ百分一
 ナモ受クル能ハズ廣大且ツ豐沃ノ地方ニ君臨スル者ト雖モ其
 衣食住ノ卑シキ我が日雇夫ニ劣レリト
 又タ曰ク更ニ此理ヲ明カニセンガ爲メ尋常生計品ノ吾人ノ需
 用ニ來ルマデ幾多ノ手數ヲ經由スルカヲ顧ミ且ツ此等生計品
 ガ人間ノ勞力ヨリ受クル所ノ價格ハ幾何ナルカヲ觀ヨ麩包、葡
 萄酒、布帛ハ吾人が日々需用スル所ノモノニシテ其量至テ大ナ
 リ然レモ若シ勞力ノ此等ノ有用ナル貨物ヲ吾人ニ供給スルナ

クシバ吾人ノ食料ハ樞實ニシテ吾人ノ飲料、服料ハ泉水、獸皮ナ
 ラザルヲ得ズ何ントナレバ樞實ヨリモ好キ麩包ヤ泉水ヨリモ
 好キ葡萄酒ヤ木葉獸皮ヨリモ好キ綿布絹帛ハ皆テ全ク勞力ノ
 結果ナレバナリ彼レハ自然ガ吾人ニ供給スル所ニシテ此レハ
 勞力痛苦ガ吾人ニ供給スル所ナリ人若シ彼レト此レトヲ比較
 スルキハ此レノ價格ノ遙ニ彼レノ價格ニ超過スルヲ看シ曉テ
 亦タ此世界ニ於テ吾人が享有スル諸物ノ價格ハ大低吾人ノ勞
 カヨリ成ルヲ見シ材料ヲ産スル所ノ土地ハ實ニ貨物價格ノ一
 小部分タルニ過キズ殊ニ自然ニ放棄シテ牧草、耕作、植付等ノ改
 良ヲ加ヘザル土地ハ之ヲ荒蕪ト稱シ殆ンド無價ニ屬スルハ吾
 人ノ善ク知ル所ナリト
 我國ニ於テ小麥二十斛ヲ産スル「エークル」ノ土地ト我レト同
 一ノ耕作ヲ施シバ我レト同量ノ小麥ヲ産スベキ亞米利加ニ在

而シテ以上ノ説ハ同氏ノ著書中其名ノ余リ顯ハレザル「ニッセイ、
 チン、シヅルガバルメント」ト題スル書ヨリ抜抄スルモノナリ蓋
 シ當時凡テハ富ハ土地及ビ勞力ハ産物ナリトノ説一般ニ經濟
 學者ノ間ニ行ハレアダム、スミッス氏ハ常ニ此語ヲ反覆シタリキ
 リカルド氏ハスミッス氏ノ價格説ノ自家撞着ナルヲ認メ終ニ交
 易力ヲ以テ價格ノ標準トスルヲ拒否シ勞力ヲ以テ價格ノ原
 固即チ價格ノ形ナリト断定セリ(形ノ文字或ハ奇ナルガ如クナ
 レドモ前節ニ引用セシ培根氏ノ論理説ト參觀セバ其意ヲ知ル
 難カラズ)然ルニカルド氏ハ勞力ハ凡テノ價格ノ基本ナリト
 説クニ當リ實ニ左ノ言ヲ吐ケリ曰ク若シ貨物ニシテ常ニ同量
 ノ勞力ニ因テ生ゼラレシナラバ其價格ハ一定不變ナルベシト
 マックロック氏モ亦タ勞力ハ凡テノ價格ノ原因ナリトノ説ヲ持セ
 リ同氏ノ説ニ曰ク自然ハ慳吝ニアラズ又タ貪婪ニアラズ自然

ハ其産物、諸力ヲ人類ニ惠與シテ惜シム所ナク自然ハ此惠與ノ
 報酬ヲ求メズ亦タ之ヲ受ケズ我力ヲ勞セズシテ我享クル所ノ
 物ハ其功用至テ大ナリト雖モ素ト是レ自然ノ賜ナルガ故ニ此
 等ノ物ハ些少ノ價格ヲモ有スルヲ得ズト又タ曰ク凡ソ天然自
 然ノ物質ハ直接ノ功用ヲ有スルモノ甚ダ稀レナルヲ以テ常ニ
 價格ヲ缺ケリ物質ノ交易價ヲ得テ富トナルハ畢竟其占得及ビ
 調製ニ吾人ノ勞力ヲ費ヤスニ因ルノミト
 米國有名ノ經濟學士ケーリー氏モ亦タ力ヲ竭シテ勞力ハ凡テ
 ノ價格ノ原因ナリトノ説ヲ回護セリ同氏云フ勞力ハ必レモ常
 ニ價格ノ原因ナラズト云フヲ得ベシト而シテ氏ハ此言ヲ記ス
 ルノ後ニセニオル氏ノ論ヲ引キ之レニ向テ答辨ヲ爲セリ今マ
 先ヅセニオル氏ノ論ヲ擧ゲ次ニケーリー氏ノ答辨ヲ附センセ
 ニオル氏曰ク余輩若シ勞力ヲ待タズシテ價格ノ存立スル場合

チ假定スルヲ得バ勞力ノ價格ニ必要ナラザル事實ヲ證明スル
 チ得ベシ例ヘバ余ガ海濱チ徘徊スルノ際偶然一箇ノ眞珠ヲ拾
 ヒシトハ此眞珠ハ價格ヲ有セザルカマッコロク氏ハ答テ云ハシ
 其眞珠ノ價格ハ之ヲ拾フガ爲メニ止マリタル時ニ費ヤセル勞
 力ノ結果ナリト(以上ヒニオルノ論)ケ—リ—之ニ答ヘテ曰ク一
 方ニ於テ眞珠ヲ求メズシテ之ヲ得ル者アリ或ハ隕鉄時々空中
 ヨリ墮ツル鉄塊ニシテ邦人ノ隕石ト云フ者ナリ)ヲ求メズシテ
 之ヲ得ル者アルベシト雖他ノ一方ニ於テ眞珠ヲ求メ或ハ隕
 鉄ヲ索ムレドモ遂ニ之ヲ得ル能ハサル者アルベシ故ニ此等偶
 然ノ事情ハ毫モ勞力ハ凡テノ價格ノ結果ナリトノ定説ヲ動ス
 ニ足ラザルナリ勞力ヨリ生ズル價格ハ千中ノ九百九十九ニシ
 テ勞力ナシニ生ズル價格ハ僅ニ千中ノ一ノミ千中ノ一箇ヨリ
 以テ此定説ヲ破ルニ足ラズシテ千中ノ九百九十九ハ以テ此定

説ノ確真ナルヲ證スルニ餘リアルベシト
 ケ—リ—氏ハ其經濟原理第九章ニ氏ガ探究ノ結果ナリトシテ
 左ノ二則ヲ舉示セリ其第一則ニ曰ク凡テノ價格ハ交易シ得セ
 キモノナリ其第二則ニ曰ク勞力ハ價格ノ唯一ノ原因ナリト
 余輩ハ此他數多ノ經濟家士ノ説ヲ引用セザルベシ其故ハ勞力
 ハ價格ハ唯一ノ原因ナリ勞力ハ富ハ精神ナリトノ説ノ各經濟
 學者ノ間ニ流行スルヲハ世人ノ善ク知ル所ナレバナリ
 余輩ハ今マ勞力ハ價格ハ形即チ價格ノ原因ナリト云ヘル説ノ
 眞偽當否ヲ判斷スルタメ培根的歸納法ノ原理ヲ適用セザルベ
 カラズ
 余輩ハ今マ茲ニ一假説ヲ設クベシ一假説トハ何ゾヤ曰ク若シ
 勞力ハ價格ハ唯一ノ原因ナリトスルキハ則チ勞力ヲ加ヘタル
 物ハ凡テ價格ヲ有セザルベカラズト云フコト是レナリ

若シ夫レ同量ノ勞力ヲ以テ作出セル二物ニシテ甲ハ價格ヲ有シ乙ハ價格ヲ有セザルコトアルトハ勞力ノ外ニ價格ノ或ル原因ノ存スル者ナカルベカラズ果シテ勞力ノ外ニ價格ノ或ル原因ノ存スル者アリトセバ前ノ假定說ハ破レザルヲ得ズ余輩ハ是レヨリ勞力ハ凡テノ價格ノ原因ナリト云ヘル說ヨリ生ズベキ必然ノ結果ノ二三ヲ查察スベシ

(第一)價格ノ凡テハ變動ハ勞力ハ變動ニ歸セザルベカラズ然レモ此說タル凡テノ實驗ニ反對スルモノナリ如何トナレバ毫モ勞力ヲ加ヘザル物ニシテ價格ヲ有スル者數多アレバナリ請フ左ニ其例ヲ舉示セン

其一 市府ハ設立サレタル地面ハ決シテ勞力ハ結果ニアラズ倫敦中央ノ地ハ往々「エークル」ニシテ一百万磅以上ニ賣買サル、コアリ然レモ當テ其地ニ勞力ヲ加ヘシコアラザルナリ又

又中央ヲ離ル、ニ隨ヒ地價頓ニ減ジチヤーリング、クROSSニ於テハ「エークル」十萬磅ニ減ジケンシングトニ至テハ「エークル」ノ價格一萬磅ニ下ル且ツヤリージント、ストリートフリート、ストリートチープライド、コロンヒルノ如キ衝路ノ表街ハ其地價遙ニ裏街ノ地價ニ優レリ

且ツヤ時様、人口、富有等ノ風潮ニ向フキハ其地價俄ニ騰貴シ之ニ反シテ時様、富有ノ近隣ヲ去ルキハ其地價俄ニ下落ス

今夫レ以上ノ如ク諸種ノ地面皆ナ毫モ勞力ノ結果ニアラザル場合ニ於テ價格ノ變動ヲ勞力ノ差量ニ歸スルヲ得ベキカ

倫敦、巴黎、ベルリン、ウイナ等ノ中央ニ在ル地ハ非常ノ價格ヲ有スルモノナリ嘗テ大都ノ位置ナリシモ今ハ寂漠ニ属スルノ土地尠ナシトセズ昔者テベス國ノ騎士ガ鮮甲ヲ穿テ駿馬ニ御シ意氣揚々トシテ其百都門ヲ出ヅル時ニ當テハ此都府ノ地面ハ

必ラス高價ナラザルベカラズト信ズメンヒスニテゾバビロン
 及ビ其他古代ノ諸盛都モ亦タ然リ而シテ此等諸盛都ノ價格今
 マ何クニ在ル然レモ此等諸盛都ノ土地其者ハ毫モ古ヘニ異ナ
 ラザルナリ若シ後世ニ「ニュージランド」ヨリ「ペロツニー」人若クハ
 「レイヤルド」人ノ倫敦ニ來リテ倫敦橋ノ壞額セル弓門ニ坐シ「セ
 ント、ポールス」壯嚴ナル大寺院ノ廢墟ヲ寫ス時ニ至ラバ今ノ「ロ
 ーヤル」エキステンデ「英京第一」ノ爲換會社近傍ノ地ハ其一「ヤ
 ルド」四方チ七十磅ニ賣ルヲ得ベキカ
 地方ノ都邑ニ於テ市場ヲ開クルハ共同地ニ天幕ヲ張リ或ハ假
 小屋ヲ設クル免許ヲ得ル爲メニ人々爭テ貴キ借地料ヲ拂フベ
 シ然レモ市場ヲ開カザルルニハ之レニ借地料ヲ拂フモノアラ
 ザルベシ故ニ此共同地ハ或時ハ價格ヲ有シ或時ハ價格ヲ有セ
 ズ今マ斯ル地ノ價格ハ之ヲ勞力ニ歸スルヲ得ベキカ

其二 何レハ天産物モ之レニ勞力ヲ加フルニアラザレバ價格
 ナ有セズトハ説ハ凡テハ實驗ニ反對スルモノナリ石炭坑、寶石
 坑等ノ所有者ハ人手ノ未ダ之レニ觸レザル前ニ石炭若クハ大
 理石ノ價金ヲ需求シ且ツ之ヲ受領ス誰レカ石炭坑ノ所有者ハ
 價ヲ拂ハザル者ニ石炭ヲ採取セシムト假想スルヲ得ンヤ誰レ
 カ寶石坑ノ所有者ハ價ヲ出サマル者ニ大理石ヲ伐採セシムト
 假想スルヲ得ンヤ彼ノ「マッカロック」ノ云ヒシガ如ク黄金、或ハ金剛
 石ニ價格ヲ與フルモノハ果シテ此等ヲ拾取スル勞力カ
 更ニ材木ノ例ヲ舉示セン英國ノ中部諸州ニハ許多ノ櫟樹アリ
 此等ノ櫟樹ハ其他ニ樹ツマ、ニシテ六十磅或ハ一百磅ニ賣ラ
 ルベシ然ルニ此等ハ重ニ自然生ノモノニシテ其櫟實ヨリ櫟樹
 ニ至ルマテ恐クハ人間ノ之ニ向テ勞力ヲ加ヘレトアラザルナ
 リ然ルニ聞ク所ニ據レバ千八百十三年モンマウス州ノガレン

ナフニ於タ伐採セシ一株ノ樫樹ハ其皮二百磅ニ其幹六百七十
 磅ニ賣却サレタリト云フ斯ル樫樹ノ價格ハ之ヲ勞力ニ歸スル
 ナ得ベキカ此等ノ樫樹ノ近傍ニハ其大サ樫樹ニ劣ラザル種々
 ノ樹木アルベシ然レモ其代價ヲ比スルモハ彼レト此レトハ雷
 壤ノ差異アリ斯ル價格ノ差異ハ之ヲ勞力分量ノ差異ニ歸スル
 ナ得ベキカ
 次ギニ凡テノ種類ノ家畜ノ例ヲ舉示セン夫レ家畜ハ天然ノ力
 ニ因リ自ラ蕃殖増加スルモノナリ彼等ノ價格ハ人間勞力ノ結
 果ナルカ
 由是觀之嘗テ毫モ勞力ヲ加ヘザル實物ニシテ價格ヲ有スル者
 ノ許多アルト及ビ隨テ此等實物ノ價格ハ勞力ノ結果タル能ハ
 ザルト明カナリトス
 千八百二十五年即チ今チ去ル凡ソ二十年前アンスト島及ビレ

トトランドノ北部ニ色鉄坑アルトテ發見セリ該坑ハ甚ダ深ク
 レテ岡陵ヲ成ス所ノ岩石皆ナ色鉄脈ヲ以テ縱横ス其採掘ニハ
 夏季毎ニ凡ソ五十人ノ丁男ト五十人ノ童子トテ使用シ年々數
 百噸ヲ輸出セリ此色鉄ハ專バラ美麗ナル黃色ヲ點スル繪具ニ
 供セラル故ニ該坑ハ其所有主ニハ多額ノ歲入ヲ與フル源泉ト
 リト云フ
 今マ若シ此色鉄ノ全價格ハ坑夫ノ勞力ニ歸スベキモノトセバ
 更言スレバ此色鉄ノ全價格ハ單ニ坑夫ノ賃銀ヲ拂フニ過ギズ
 トセバ坑主ハ如何シテ其歲入ヲ得ベキカ故ニ坑主ハ坑夫ノ賃
 銀ニ超過スル價格ヲ以テ色鉄ヲ賣ラザルベカラズ而レテ其賃
 銀ニ超過スル丈ケノ價格ハ之ヲ勞力ニ歸スル能ハザルナリ
 色鉄坑發見ノ後幾バクナラズシテ一尾ノ大鯨フールス峽ノ海
 岸ニ打上セラレシトアリシガ其海岸ニ横ハレルマ、ニレテ七

十磅ニ買テレタリ今マ夫レ此大鯨ハ人手ノ管テ之レニ觸レザル所ノ天惠物ナリ然ラバ如何ゾ其價格ハ之ヲ勞力ニ歸スルヲ得ンヤ

余輩嘗テブックスランド氏ノ珍書ヲ讀ミ左ノ言ヲ得タリ曰ク余輩ハ動物園ノ廢皮部ヲ觀查スルニ當リ一筐ノ中ニ白色透明物ノアルヲ認メリ是レ實ニ蛇糞ナリ此蛇糞タル純白物ニシテ殆ド糞酸ヨリ結成シ恰モ練石灰ノ如ク見ユ某博士ハ重量「ニリンアシド」ニ付九「ニリンアシド」シルリング」ノ高價ヲ以テ之ヲ購ヒタリキ云々今マ夫レ蛇糞ハ人間勞力ノ結果ナリシカ

(第二)若シ勞力ハ價格ハ唯一ノ原因ナリトセバ同量ハ勞力ヲ以テ生ゼラレタル物品ハ凡テ同價格ヲラザルベカラズ

然レモ此說ハ凡テノ實驗ニ反對スルモノナリ何ントナレバ此說果シテ眞ナリトセバ金剛石モ其屑モ同價ナルベク又タ眞珠

モ其殼モ同價ナルベケレバナリ若シ獵夫一丸ヲ放テ雉ヲ射落シ更ニ一丸ヲ放テ鳥ヲ射落ストセバ雉ト鳥トハ同價ヲ有スルカ若シ漁夫同量ノ勞力ヲ以テ或ハ鮭魚ヲ捕ヘ或ハ沙魚ヲ捕フルトセバ鮭魚ト沙魚ト同價格ヲ有スルカ否ヲ決シテ此事アラザルベシ以上ノ數例ハ精密ニ同量ノ勞力ヲ以テ得タル諸產物ノ各其價格ヲ異ニスルヲ明示セリ故ニ勞力ハ價格ノ唯一ノ原因ニアラザルヤ亦タ疑ヒテ容レズ

(第三)若シ勞力ハ價格ハ原因ナリトセバ價格ハ大小ハ勞力ハ大小ニ從ハザルベカラズ

然レモ此說ハ亦タ最モ明白ナル實驗ニ反對スルモノナリ例ヘバ茲ニ二人ノ金坑夫アリテ甲ハ僥倖ニシテ地表ニ金鑛ノ横ハレルヲ發見シ乙ハ數月間採掘ニ從事シテ漸ク甲ト同量ノ金鑛ヲ發見セリトセヨ今マ此定說ニ從ヘバ乙者ノ金鑛ハ甲者ノ金

鑛ヨリモ遙ニ高價ナラザルベカラス又々例ヘバ某金塊ハ市場ノ近傍ヨリ搬運セラレ之レト同量ノ他ノ金塊ハ數百里外ヨリ搬運セラレタリトセヨ此場合ニ於テ後ノ金塊ニ加ヘタル勞力ノ分量ハ前ノ金塊ニ加ヘタル勞力ノ分量ニ非常ニ超過スルヲ固ヨリ論ズルヲ待タズ然リ而シテ後ノ金塊ハ前ノ金塊ヨリモ非常ノ高價ニ賣ルヲ得ベキカ少シク實際ヲ窺ヒシ者ハ必ラズ其得ベカラザルヲ知リ且ツ同量同性ノ物品ハ同一ノ市場ニ在テハ精密ニ同價格ナルベキヲ知ルニ苦シマザルベシ

(第四)且ツヤ若シ勞力ハ價格ハ唯一ハ原因ナリトセバ一タビ勞力ヲ以テ生シタル物ハ常ニ其價格ヲ有セザルベカラス而シテ亦タ終始同價格ナラザルベカラズ

然レモ此說タル顯然實驗ニ反對スルモノナリ何ントナレバ或ル一物品ノ此處ニ價格ヲ有セテ彼處ニ價格ヲ有セズ此時ニ價

格アリテ彼時ニ價格ナキヲアルハソクラテス氏ガ既ニ上古ニ於テ明示セシガ如ク甚ダ顯然タル事實ナレバナリ

一囊ノ金貨ヲ携ヘテバアン蕃族ノ中ニ行ケ金貨果シテ價格アルカゼノゾシシ氏ガ「エシエイト」教徒ノ記録ヨリ引用セシ所ニ據レバボラヴラ蕃族ハ教徒ガ食物ノ價トシテ彼等ニ貨幣ヲ與ヘシニ笑テ受ケザリシト云フ希臘語、羅匈語ノ博士或ハ數學ノ博士ハ我大學校ニ在テハ其學問ノ大價格アルヲ見レドモ若シ英國ヲ去テヘブリヂス蠻人ノ中ニ至レバ斯ル高尙ノ學識モ一毫ノ價格ヲ有スル能ハザルヲ見シ又々俊秀ノ訟師ハ倫敦ニ於テハ其智識才幹ノ彼レニ大價格アルヲ見レヒチンバックソール(亞弗利加ニ在リ)ニ於テハ此等ノ彼レニ無價ナルヲ見シ且ツヤ若シ一人アリテ法律學ヲ研究スル爲メ倫敦ニ於テ盤雪ノ辛苦ヲ嘗メタリトセヨ然ルニ何人モ彼レヲ雇フナケレバ彼レノ

勞力ハ無價ナラザルヲ得ズ若シ亦タ一人アリテ藥劑學ノ蘊奧
 ナ窮ハメタリトセヨ然ルニ天下一人ノ患者ナゲレバ彼レノ勞
 カハ水泡ニ歸セザルヲ得ズ
 勞力ハ價格ハ唯一ノ原因ナリト云フハ是レ實ニ孤立スル物能
 ク價格ヲ有スト云フニ異ナルヲナシ然ルニ世ノ經濟學者ハ大
 概チ皆チ價格ハ比較ヨリ起ルモノハニシテ唯ダ社會ニハミ存立
 シ得ベキヲ識認セリ仮令ハ人何程辛苦スルモ何人モ其產物
 ナ需要セザルレハ此等ノ產物ハ無價ニシテ其產出者ノ不幸ハ
 倫敦ニ居ルモ亞弗利加ノ大砂漠ニ居ルト異ナルヲナシ
 且ツ夫レ勞力若シ價格ノ唯一ノ原因ナリトセバ一タビ勞力ヲ
 以テ產出セシ物ノ價格ハ永久一定不變ナラザルベカラズリカ
 ルド氏實ニ此說ヲ明言セリ然レモ此說タル凡テノ實驗ニ反對
 ナルモノナリ何ントナレバ物品ハ勞力ヲ以テ之ヲ完成スル後

ハ時々日々月々年々其價格ニ浮沈ヲ絶タザレバナリ例ヘバ一
 ノ畫工ノ畫幅ハ常ニ騰貴シ他ノ畫工ノ畫幅ハ屢々下落シ此等
 畫工ノ死去セシ後モ永ク畫價ノ一昂一降ヲ觀ルガ如シ勞力果
 シテ價格ハ原因ナラバ焉ソ此事アルヲ得ンヤ
 勞力ハ價格ハ原因ニアラザルヲ明カニスル者ハリカルド氏
 ガ價格ノ理ニ就テ記述セル非常ノ長論ニ若クハナシ氏其中ニ
 言ヘルアリ曰ク製造ニ從事スル一百万人ハ勞力ハ常ニ同一ハ
 價格ヲ生ズベシト若シ製造品チ他物ト交易セザルレハ其毫モ
 價格ヲ有セザルハ勿論ナリト雖モ而カモ之チ他物ト交易スル
 以上ハ時ノ事情ニ從ヒ或ハ一百磅ニ賣ラル、一モアルベク或
 ハ一萬磅ニ賣ラル、一モアルベシ然ルニ一萬磅モ一萬磅モ同
 價格ナリト云フハ豈ニ普通ノ論ナランヤ
 シヨ一三ノ代ニ於テ鋼鐵製ノ靴鈕ヲ着クル一英國一般ノ

時様トナリ之レガ製造ニ從事スルモノ數方ノ多キニ至リシガ一旦時様ノ廢スルニ及ビ鋼鐵靴鈕ノ需用頓ニ止ミ其製造ニ從事セシ人民ハ非常ノ災厄ニ陥リ殆ンド餓死セントセリ然レモリカルドノ説ニ從ヘバ鋼鈕ヲ製造セシ人民ノ勞力ハ鋼鈕ノ需要ノ甚ダ盛ナリシ時モ鋼鈕ノ需要ノ全ク絶ヘシ時モ其價格精密ニ同一ナリト云ハザルヲ得ズ嗚呼果ソ然ルカ其後チ幾クモナク一般紳女ノ間ニ流行セシ麥幹帽ノ廢セラレ、ニ及ビリユートンダンスターブル等各地ノ麥幹帽製造者ハ大困難ヲ被ムレリ然レモリカルド氏ノ説ニ從ヘバ麥幹帽製造者ノ勞力ハ前後同價格ナリト云ハザルヲ得ズ嗚呼果シテ然ルカ

リカルド氏ハ余輩ガ前ニ引用セシ言ヲ記セル章ノ終ニ於テ更ニ自家ノ定説ヲ證明セシガ其云フ所口愈々益々一般ノ經驗ト普通ノ感覺トニ反對セリ蓋シ斯ル謬論妄言ハ同氏ノ論理法ヨ

リ生ズベキ必然ノ結果ナルノミ豈ニ怪シムニ足ランヤ同氏證明説ノ要ニ曰クセイ氏ハアダム、スミス氏ノ説ニ反對シ其第四章ニ於テ時トシテハ人間ノ勞力ニ代ハリ時トシテハ人間ト協同スル自然力ハ貨物ニ多少ノ價格ヲ與フルヲ説ケリ然レモ此自然力ハ貨物ノ功用上ハ價格ヲ増加スト雖モ決シテ其交易上ノ價格ヲ増加スルモノニアラズ自然力ハ能ク物産ノ豐饒ヲ進メ能ク人間ノ富有ヲ増シ能ク功用上ノ價格ヲ大ニスルモ而カモ自然ハ其勞ノ報酬ヲ求メザルガ故ニ自然ガ吾人ニ惠與スル所ノ助力ハ交易上ノ價格ニ一毫ヲ加ヘザルナリト

論理ノ定則ニ準據シ某前提ヨリ得タル推測ニシテ明ニ經驗及ビ事實ニ反對スル結果ヲ生ズルキハ其前提ノ必ズ偽妄タルヲ定ニ判然タリリカルド氏ガ勞力ハ價格ハ唯一ハ原因ナリトノ定説ヨリ得タル論理上ノ結果ノ大ニ經驗事實ニ齟齬スルヲ視

レバ其定説ノ誤謬タルヲ確知スルニ餘リアルベシ
 リカルト氏ノ説ニ從へバ人ノ樅實ヲ蒔キレ場合ニ於テ其後チ
 自然ノ養ヒノミニ依リ成長シタル樅樹ノ價格ハ樅實ノ價格ト
 同シカラザルベカラズ何トナレバ人間ノ勞力ハ單ニ樅實ヲ蒔
 クニ止マリ餘ハ悉ク自然力ノ爲ス所ナレバナリ
 リカルト氏ノ説ニ從へハ家畜家禽ハ毫モ價格ナキ者トセザル
 ベカラズ何ントナレバ人間ノ勞力ハ嘗テ一獸一卵ヲモ作りシ
 一アラザレバナリ
 リカルト氏ノ説ニ從へハ穀物ノ價格ハ種子ノ元價ト耕耘ノ工
 銀トノ總額ヨリ大ナルベカラズ何トナレバ人間ノ勞力ハ此數
 件ニ止マリ他ハ皆ナ自然力ノ然ラシムル所ナレバナリ
 リカルト氏ノ説ニ從へバ新穀ヲ涵養長育スル春雨ハ收穫ノ價
 格ヲ増サザルベシ故ニ亦タ此説ニ從へバ春雨ノ欠乏ハ收穫ノ

價格ヲ減ゼザルベシ

余輩ハ此説ノ不經ノ結果ヲ長ク枚擧スルヲ難レトセズ然レモ
 讀者若シ自然力ハ毫モ物ノ價格ヲ増加セズト云ヘルリカルト
 氏ノ説述ヲ一考スルキハ忽チ其妄謬タルヲ發見スベシ隨テ
 亦タ勞力ハ價格ハ唯一ハ原因ナリト云ヘル定則ノ徹頭徹尾妄
 謬タルヲ判認スベシ

然リト雖モ余輩ハ此ニ最後ノ一聲ヲ加ヘ以テ此説ノ氣息ヲ絶
 タザルベカラズ苟モ万物ノ靈タル者ハ誰レカ佛、日、伊ノ葡萄樹
 ハ其美味、高價ヲ各其地方ノ日光ニ歸セザルモノアラシヤ今マ
 アダム、スミス氏ノ記スル所ニ據レバ蘇格蘭ニ於テ葡萄ヲ培養
 スル費用ハ佛蘭西ニ三十倍スト云フ故ニリカルトノ説ニ從フ
 片ハ蘇ノ葡萄酒ノ價ハ佛ノ葡萄酒ノ價ニ三十倍セザルベカラ
 ス

固有價格ナル語ノ謬妄ヲ論ス(續)

後世數多ノ經濟學者ガ賛成セルロック氏ノ價格解剖論ニ充滿スル妄謬ヲ看破スルハ寔ニ容易ノ業ナリトス抑勞力ノ土地ニ施サレシトハ毫モ疑フベカラザル事實ニシテ而シテ土地ノ莫大ナル價格ヲ有スルトモ亦タ毫モ疑フベカラザル事實ナリト雖モ然レモ勞力ハ價格ノ原因ニアラザルハ最モ略易キノ理ナリ試ニ思ヘ若シ英國人民ニシテ悉ク外邦ニ移住スルコト恰モ昔者ノ「ホーセン」人又ハ「テイアン」人ノ如クナラシメバ英國ノ土地ハ尙ホ依然トシテ其價格ヲ有スルヲ得ベキカ否ナ決シテ然ラサルベシ蓋シ世界万国ノ中ニ就キ土地ノ價格ノ最モ勞力ニ原因スルガ如ク視ユル國ハ和蘭ニ若クハナシモットレノ氏ノ和蘭共和政史ニ曰ク和蘭ハ天然ノ一大濕土ニシテ泥島、茂林、湖沼ノ間ニ縱横シ高潮ノ時ハ其地盤却テ海面ヨリモ低キガ故ニ常ニ

川流ノ氾濫ニ苦シミ往々海水ノ侵入ニ驚ク地方ナリト實ニ此國ニ於テ人ノ住居ニ適スベキ地ハ殆ント皆ナ其堅忍不屈ノ人民ノ非常ナル勞力ニ依テ始メテ成立セシモノトス然リ而シテ該國ハ地球上最モ富裕ナル土地ノ一タリ嘗テ路易十四世ノ歐州ヲ震懾セシムルヤ此共和國ノ存亡旦夕ニ迫リシカハ全國ノ軍艦ヲ集メ全國ノ人民ヲ載セテ之ヲ東洋ノ屬地ニ移サント企テタルコトアリキ若シ此企ニシテ遂成セラレシナラハ和蘭ハ空漠ノ荒野トナルモ尙ホ其土地ノ價格ヲ有スルヲ得ベカリシカ勞力若シ價格ノ原因ナラバ衆多ノ人民相率テ濠洲ノ内地ニ移住シ之ヲ開墾シ之ヲ耕耘シ之ヲ改良シテ恰モ英國或ハ和蘭ノ土地ノ如クナサバ其土地ハ英和ノ土地ト同一ノ價格ヲ生ゼザルベカラス

梓人、工夫、倫敦、巴黎、ベルリン、ウイーン等ニ家屋ヲ建築ス此等ノ

家屋ハ此等ノ諸都ニ在テ富ノ一大部分ヲ成セリ若シ梓人、工夫ニシテ濠洲ノ内地ニ行キ同一ノ家屋ヲ建築セシキハ彼レト此レト同一ノ價格ヲ有スル乎否ナ此レハ些少ノ價格ヲモ有スル能ハサルベキナリ

此ニ知ル有形物ノ中ニモ一毫ノ勞力ヲ加ヘズシテ而シテ價格ヲ有スル者許多アルコト且ツ勞力ヲ加ヘラレタル物ト雖モ其勞力ハ其價格ノ原因ニアラザルコト

第二種ノ富即チ各種ノ勞力ヲ包含セル無形財產ノ價格ハ勞力ノ結果ニアラザル理由ハ一言以テ之ヲ悉スベシ曰ク勞力若シ價格ハ唯一ハ原因ナリトセバ勞力ハ價格ハ原因ハ何ナル乎

其二 無形財產ノ中ニハ版權、發明專賣權、商業上ノ最良ノ如ク多少勞力ト聯結スルモノアリ然レモ勞力ハ價格ハ原因ニアラザル理ハ彼ノ勞力ト聯結スル有形諸物ノ上ニ行ハル、ガ如ク

亦タ無体財産ノ上ニモ行ハル、モノトス人若シ一書ヲ發刊スル爲メニ多量ノ勞力ヲ費ヤスキハ此人ノ版權ヲ法律上ニ得ルヤ勿論ナリ然レモ天下一人ノ其書ヲ購フ者ナカリセバ版權ノ價格何クニカ在ル發明專賣權モ亦タ然リ某發明ヲ完フスルニ多量ノ勞力ヲ費ヤサル、ニアリ然レモ何人モ其發明サレタル器械ヲ買フナカリセバ專賣權ノ價格何クニカ在ル且ツヤ無体財産ノ中ニハ毫モ勞力ト聯結セズシテ而シテ價格ヲ有スル者其數實ニ夥シ例ヘハ各種ノ信約ハ毫モ勞力ト聯結セザルモノナリ若シ信用アル商賈ガ爲換手形若クハ信用アル銀行ノ發行ニ係レル手形ヲ受領スルキニ此等ノ商業手形ハ皆ナ價格ヲ有シテ能ク商業上ノ取引物トナルコトハ各經濟學者ノ共認スル所ナリ然レモ此等商業手形ハ嘗テ勞力ヲ加ヘラレタルコトアルカ我國ニ於ケル信約ノ分量ハ幾何ゾヤ蓋シ我國信約

ノ分量ハ嘗ニ我財産ノ何レノ一種類ニモ超過スルノミナラズ殆ンド我各種ノ財産ノ總額ニ超過セントスルヤ疑フベキニアラザルナリ
 以上述べ來ル所ニ據リ余輩ハ左ノ六件ノ眞確ナルヲ知ンリ六件トハ何ゾヤ曰ク
 第一 有体財産及ビ無体財産ノ中ニ毫モ勞力ヲ加ヘズシテ而シテ價格ヲ有スル者夥多アルコト
 第二 勞力ヲ以テ生ゼラレタル有体財産及ビ無体財産ノ中ニモ價格ヲ有セザル者アルコト
 第三 同量ノ勞力ヲ以テ生ゼラレタル二物ニシテ一ハ價格ヲ有シ他ハ價格ヲ有セザルアルコト
 第四 異量ノ勞力ヲ以テ生ゼラレタル諸物ノ同一ノ價格ヲ有スルアルコト

第五 勞力ヲ以テ生ゼラレタル者ノ甲所ニ價格ヲ有シテ乙所ニ價格ヲ有セズ此時ニ價格ヲ有シテ彼時ニ價格ヲ有セザルアル

第六 少量ノ勞力ヲ以テ生ゼラレタル物ノ多量ノ勞力ヲ以テ生ゼラレタル物ヨリモ却テ大ナル價格ヲ有スルアル

以上ノ争フベカラザル命題即チ實驗ノ結果ヨリ推測チ下スルハ勞力ハ決シテ價格ノ原因ニアラズ且ツ價格ノ成立ニ必要ナラズトノ拒ムベカラザル結論ヲ生ズベシ實ニ此商業國(英國)ヲ云フノ貴重ナル財産ノ過半ハ毫モ勞力ノ結果ニアラズ蓋シ勞力ハ價格ノ原因ニアラズシテ適價格ト同在スル所ノ偶然ノ事情ニ過キザルナリ

歸納理學ノ定則ニ據レバ余輩ハ單ニ價格ハ勞力ノ結果ニアラザル一實例ヲ發見スルモ以テ勞力ハ價格ハ唯一ハ原因ナリト

云ヘル定説ヲ轉覆スルニ餘リアリトス况ハンヤ余輩ハ數多ノ實例ヲ舉示セシヤ又タ况ハンヤ余輩ハ貴重ナル財産ノ過半ハ毫モ勞力ト聯結セザルヲ目撃スルヤ

要スルニ勞力ハ價格ノ原因ナリト云ヘル定説ノ如ク甚シキ轉覆ヲ受ケタル説ハ古今未ダ曾テ見ザル所ナリ是ヲ以テ余輩ハ斯ル富及ビ價格ハ見解ヲ根據トシテ立テタル經濟論ノ徹頭徹尾誤謬タルヲ知ルナリ

最モ顯明彰著ナル事實ノ之ヲ否認スルニ拘ハラズ頑然トシテ價格ハ勞力ハ結果ナリト主張スル經濟學者ノ執拗ハ培根氏ノ訓誡ヲ顯ハス所以ノ一的例タリ訓誡ノ要ニ曰ク人心ノ一タビ某説ヲ信ズルヤ之ヲ維持シ之ト符合スル事物ハ悉ク之ヲ採収シ之ヲ攻撃シ之ト反對スル事物ハ悉ク之ヲ排斥シ以テ其先入ノ決定ヲ重ク且ツ固カラシメ前キニ信シタル結論ヲ保續セン

ト勉メザルハナシ殊ニ理學及ヒ科學ニハ此弊ノ侵入スルコト最
 モ深シトス蓋シ理學及ヒ科學ニ於テハ後ニ來ル所ノ結論ヲ牽
 キテ強テ前ニ信ズル所ノ結論ニ附會シ其後ニ來ル所ノ者ハ前
 ニ信ズル所ノ者ヨリモ果シテ堅固且ツ善美ナルヤ否ヤヲ問ハ
 ザルハ是レ幾分カ虛飾心ノ然ラシムル所ナリト雖モ而カモ亦
 タ人心ニ否定ノ諸例ヨリモ寧ロ肯定ノ諸例ニ左右セラル、特
 殊且ツ不斷ノ傾向アルニ歸セズンバアラズ然リト雖モ事理物
 則チ觀察判斷スルニ臨ミ吾人ハ須ラク公平寛大ノ心ヲ以テシ
 否定肯定共ニ之ヲ承認セザルベカラズ實ニ或ル確説ヲ建立ス
 ルニハ否定ハ却テ肯定ヨリ其効力強キモノナリ
 余輩ガ前ニ掲ゲタル各種財産表テ一瞥スルキハ無形財産及ヒ
 無形財産ハ共ニ形體ヲ具ヘザレモ而カモ價格ヲ有スルコトヲ認
 ムベシ故ニ形體ハ價格ノ成立ニ必然ノ關係ヲ有スル者ニアラ

ズ唯々時アツテ價格ト偶然ノ聯結ヲナス者ニ過ギザルコト寔
 ニ明瞭ナリトス
 余輩ハ亦タ該表ニ據リ各種財産ノ中ニハ土地、彫像、寶石ノ如ク
 其價格ノ永存スル者アリ、圖書彫像ノ如ク數十年間其價格ヲ保
 續スル者アリ、諸般ノ食品ノ如ク其價格ノ僅ニ數日若クハ數時
 ノミ存續スル者アリ、舞踊音曲及ヒ凡テノ勞力ノ如ク之ヲ奏シ
 之ヲ遂グルト同時ニ消滅スル者アルコトヲ認ムベシ培根氏ハ嘗
 テ其所謂^{フイロワイノインスタンセス}特別諸例ノ中ニ^{インスタンセス}限界諸例ヲ記載セリ同氏ノ言ニ曰
 ク最低限ノ觀察ト最高限ノ觀察トハ之ヲ輕重スベカラズト是
 レ實ニ物理學ノ一原則タル^{ロウ、オフ、コンチステイ}聯絡之理ヲ祖述スルモノナリ蓋シ
 聯絡之理トハ一ノ有様ヨリ他ノ有様ニ移ルニハ其中間ノ凡テ
 ノ有様ヲ經過セザルベカラズトノ謂ヒナリ更言スレバ最高限
 ニ於テ然ルモノハ最低限ニ於テモ亦タ然ルベシトノ謂ヒナリ

今マ夫レ有價物ノ中ニハ其價格ノ永存スル者ト之ヲ產出スル
ト同時ニ其價格ノ消滅スル者トヲ包含セリ是ヲ以テ余輩ハ物
ノ永續スルト否ナトハ價格ノ成立ニ必然ノ關係ヲ有スルモノ
ニアラズシテ唯ダ偶然ニ價格ト同存スル所ノ事情タルニ過ギ
ザルヲ知ルナリ
上來説述スル所ニ由テ之ヲ觀レバ勞力ハ價格ノ原因ナリト云
ヘル説ハ全ク其根據ヲ失ハザルヲ得ズ然ラバ則チ何者ヲ以テ
價格ノ實因トナスベキ乎曰ク唯ダ一アルノミ一トハ何ゾ交易
力是レナリ抑此ノ交易力ナルモノハ之ヲ上古ニシテアリスト
トトルニリキシアスノ作者、羅馬ノ法律家ヨリ之ヲ近代ニシテ
「フィシヨクレーツ學派、アダム、スミッスコンヂラック、ホウエートリ、バ
スチアセイ等ノ諸子ガ業ニ已ニ看認セシ所ノ一種ノ經濟力ニ
シテ敢テ余輩ノ創見セシ者ニアラズ然レドモ所謂ル交易力其

者ハ克ク自ラ存立スルモノニアラズシテ必ズヤ他ニ恃ム所ナ
クンバアラズ更説スレバ此交易力ノ原因トナルモノ無クンバ
アラザルベシ例ヘバ吾人今マ某物ヲ賣却セント欲スルニ當リ
其賣却ヲ完了スルニハ必ズ無カルベカラザルモノアリ其無カ
ルベカラザルモノハ即チ某物ノ需要ナリトス是レアリスト
トル氏ガ數千年ノ古ヘニ在テ早ク已ニ人間社會ヲ結合スルモ
ハハ需要ナリト説キシ所以ナリ
余輩ハ此ニ至テ價格ノ實因ヲ知ルヲ得タリ夫レ價格ノ實因ハ
需要ナリ決シテ他ノ者ニアラザルナリ價格ハ物体ノ性質ニア
ラズシテ物体ニ對スル心理ノ感覺ナリ價格ノ原因トナルベキ
モノハ唯ダ一人ノ人間ハ情願アルノミ故ニ物、需要ノ存スルトキ
ハ價格モ亦タ存シ需要ノ増ストキハ價格モ亦タ増シ需要ノ減
ズルトキハ價格モ亦タ減シ需要ノ全ク止ムトキハ價格モ亦タ

全ク去ル
 彼ノ粲々タル金剛石ト碌々タル瓦礫ノ價格ヲ異ニセシメ又タ
 彼ノ皎々タル眞珠ト凡々タル貝殻ノ價格ヲ異ニセシムルモノ
 ハ實ニ需要ノ作用ナリ卷煙草ノ某國ニ於テ價格ヲ有スルハ其
 人民ノ卷煙草ヲ需要スレバナリ卷煙草ノ某國ニ在テ價格ヲ有
 セザルハ其人民ノ卷煙草ヲ需要セザレバナリ倫敦府ノ中央ニ
 位置スル土地ノ非常ニ高價ナルハ其土地ノ需要ノ非常ニ急強
 ナルニ因リ中央ヲ距ルニ隨テ其價格ノ漸ク減折スルハ其需要
 ノ漸ク緩弱ナルニ由ル
 農夫ノ產物ニ價格ヲ與フルモノハ何ツヤ曰ク衣食ニ於ケル人
 民ノ需要及ビ人民ガ農夫ノ產物ヲ得ンカタメ某物ヲ農夫ニ與
 フルコトヲ甘ズル心是レナリ若シ夫レ人民ニシテ衣食ヲ需要
 セザルニ至ルトセンカ或ハ其嗜好ヲ變ジテ我英國ニ生ズル能

ハザル如キ產物ヲ需要スルニ至ルトセンカ此場合ニ於テハ我
 產物ヲ輸出シテ之ヲ海外諸邦ノ產物ト交易スルニアラザルヨ
 リハ我英國ノ土地ハ忽チ其價格ヲ失却セザルヲ得ザルベシ
 然ラバ則チ巨額ノ價格ヲ有スル土地ハ亦タ巨額ノ勞力ヲ施シ
 タル土地ナルニモ拘ハラズ其勞力ハ其土地ノ價格ノ原因ニア
 ラザルコト豈ニ寔ニ明白ナラズヤ蓋シ人々が土地ニ資本ヲ放
 チ或ハ之レニ勞力ヲ施スモノハ斯クノ如クシテ土地ヨリ產出
 スル所ノ物品ハ人民ノ需要スル所ナルコトヲ知ルヲ以テナリ
 又タ人々が穀種ヲ蒔キ或ハ家畜ヲ養フハ斯ル產物ニ向テ需要
 ノ永久ニ存続スベキヲ信ズレバナリ若シ夫レ人民ヲ擧ゲテ一
 朝乞丐ニ陥ヒラバ穀物家畜モ亦タ一毫ノ價格ヲ有スル能ハザ
 ルベキノミ
 是ノ故ニ人々ヲシテ百般ノ產業ニ其資本及ビ勞力ヲ出卸セシ

メ而シテ其產物ニ價格ヲ生ゼシムルモノハ則チ人間ノ需要ナリ情願ナリトス

人々ガ法律上ノ智識ヲ得ルタメニ其勞力及ヒ資本ヲ出卸スルモノハ法律上ノ智識ハ法律上ノ特權ヲ生ジ此特權ノ作用ハ即チ人民ノ需要スル所ノモノタルヲ信ズルニ由ル若シ夫レ人民ニシテ此特權ノ作用ヲ需要セザルニ至ランカ則チ代言師ノ勞力ハ毫モ價格ヲ有スル能ハザルベキナリ

人々ガ製藥術及ヒ外科術ヲ研究スルタメニ其資本及ヒ勞力ヲ出卸スルモノハ人民ノ往々病魔ニ襲ハレ或ハ傷痍ヲ負フコトアリ隨テ此等ノ術ヲ究ハメシ者ノ勞力ヲ需要スルコトアルヲ信ズレバナリ若シ夫レ人間社會ニ一ノ病痍モナク一ノ負傷モナキニ至ランカ則チ醫師ノ勞力ハ全ク其價格ヲ失ザルヲ得ザルベキナリ

此他何レノ職業ニ就テ之ヲ觀ルモ其理ハ敢テ以上ニ述ブル所ト異ナルコトナシ人々ガ建築、圖書、彫刻、及ヒ器械ノ製作等ヲ講習スルタメニ其勞力ヲ專ラニスルモノハ此等ノ技術ハ社會ノ需要スル所ニシテ隨テ社會ハ此等ノ技術ヲ行フ者ニ報酬ヲ與フルヲ甘ンズルコトヲ知ルヲ以テナリ實ニ此等ノ技術ニ價格ヲ與フルモノハ社會ノ需要ナリ社會ノ需要ヲ外ニシテ他ニ其原因ナキナリ故ニ若シ社會ノ需要一旦去ルキハ此等ノ技術ヲ講習セシ人々ノ勞力ハ忽チ其價格ヲ失ハザルヲ得ザルベシ

余輩カ前ニモ述ベシ如ク土地ノ價格ハ獨リ土地ノ產物ニ對スル人間ノ需要ヨリ生ズルモノナリ然リ而シテ此需要ハ人類ノ肉體組織ニ據テ永久ニ存續スベキモノナレバ土地ハ其所有主ニ年々ノ所得ヲ生ズル所ノ源泉トナルベシ故ニ某地ノ價格幾何ナルヤヲ知ルニハ其地ガ一定ノ法則ニ從ヒ永ク年々生ズル

所ノ所得ヲ積算シ之ヲ現時ノ價格ニ照合スルヲ要ス
 然レドモ上來説ク所ノ趣旨ハ之ヲ一般ニ概括スルヲ得ベシ余
 輩若シ世人ハ永ク某々ノ勞力ヲ需要シ此等ノ勞力ヲ得ルタメ
 年々多少ノ報酬ヲ與フルコトヲ確ムルヲ得バ此等ノ勞力ヲ得
 ルタメニ年々ニ拂ハレタル總額ヲ資本トナシ之ヲ以テ一大財
 産ヲ形成スルヲ得ベキナリ
 斯クテ法律、藥劑、海陸軍役、技藝、文學及ビ其他百般ノ業務ニ對ス
 ル人間ノ需要ハ此等ノ者ヲシテ各、一大財產トナラシム更言ス
 レバ此等ノ者ノ價格ハ總テ一大共同根本ヨリ生ズルモノナリ
 蓋シ一大共同根本トハ人間ノ需要及ビ其需要ヲ遂成スルガ爲
 メニ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ甘諾スル心ヲ云フナリ夫レ各
 種ノ產物ヲシテ社會ニ存在セシメ且ツ此等ニ價格ヲ生ゼシム
 ルモノハ即チ人間ノ需要ナルガ故ニ此ノ需要及ビ此ノ需要ヲ

遂成スルガ爲メニ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ甘諾スル心ノ人
 間社會ニ滅熄スルキハ諸產物ノ價格ハ是時ヨリ忽チ消滅ニ歸
 セザルヲ得ザルベシ
 世人若シ各般ノ技藝、文學ヲ嗜マザルニ至レバ技藝、文學ハ直ニ
 其迹ヲ社會ニ歛ムベシ世人若シ萬國大平ヲ大成スルニ至ラバ
 海陸軍務ハ直ニ其迹ヲ世界ニ絶ツベシヨリ第三ノ治世ニ
 方リ從來一般ノ流行トナレル毛髮帽子及ビ鋼鐵靴鈕ノ俄カニ
 社會ノ嗜好ヲ失フヤ其製造ニ關スル工業ハ直ニ分散シ此等ノ
 工業ニ出卸シタル資本ハ直ニ消失シ慘憺タル困難ヲ惹起セシ
 コトアリキ是レ固ヨリ一例ニ過ギズト雖ドモ其理ハ凡テノ商
 業及ビ工業ニモ通ズルモノナリ夫レ各種ノ產物ニ價格ヲ生シ
 之ヲシテ資本トナラシムルモノハ需要ナリ故ニ人間ノ新需要
 ハ社會ニ新資本ヲ創造シ流行ノ變遷及ビ需要ノ止熄ハ社會ノ

資本ヲ消滅ス

土地、有形産物、法律、藥劑、技術、文學及ビ科學、交易、製造等ニ關スル
 智識ハ皆ナ之ヲ子孫ニ傳フルヲ得ベキモノナリ而シテ其之ヲ
 傳フル方法ハ千殊万異ナリト雖ドモ之ヲ傳フル理由ハ一ナリ
 トス殊ニ無体財産ノ中ニ就キ藝業、商業、工業ノ如キハ世ヲ經ル
 ニ從テ其知識ノ蓄積ヲ増加スルコト有形財産ト異ナルナクシ
 テ苟クモ世人之ヲ需要シ之ヲ購求スル間ハ決シテ富タルノ資
 格ヲ失ハザルナリ
 人々ガ其有用ノ藝業ニ於ケル智識熟練ヲ得ルタメニ消費スル
 所ノ勞力、貨幣ハ何レノ点ヨリ之ヲ觀ルモ其資本タル土地ヲ
 耕作スルガタメニ消費セシ勞力、貨幣若クハ有形産物ヲ作出ス
 ルガタメニ出卸セシ勞力、貨物ノ資本タルト異ナルヲナシ一般
 ノ學者ハ斯ル勞力、貨幣ヲ資本ナリトセザルニ拘ハラズスミツス

氏ハ早ク已ニ此等ヲ資本ナリト論斷セリ

余輩ハ已ニ勞力ハ價格ノ原因ナリト云ヘル説ノ實ニ甚シキ誤
 謬ナルヲ知レリ將テ勞力ハ價格ノ原因ニアラズシテ價格却
 テ勞力ノ原因ナルコトモ亦タ已ニ疑ヒテ容レザルナリ

ボイスガイレベルト氏ハ善ク其然ルヲ知レリ故ニ氏ノ言ニ曰
 ク消糜即チ需要ハ總テノ富ノ根本ナリト又タ曰ク世界君民ノ
 富有ハ皆ナ一ノ需要ヨリ成立ス故ニ土地ニ生ズル最モ旨キ菓
 實ト雖ドモ人工ニ成ル最モ貴キ産物ト雖ドモ若シ君民ノ之ヲ
 需要スルナクシバ其價格ナキコト何ツ瓦礫ト異ナランヤ是レ
 天然沃饒ノ邦土ト雖モ其人民稀少ニシテ之ヲ耕作スル能ハザ
 レバ之ヲ領スル君主ニ何等ノ利益ヲ與ヘザル所以ナリ良シヤ
 之ヲ耕作スルニ適當ナル臣民アルモ實際之ヲ耕作スベキ地位
 ニ達セザルトキハ恰モ土地礫瘠ニシテ人民稀少ナルト異ナル

ナシト又タ曰ク一國歳入ノ増殖ハ通貨ノ増殖ニ準ゼズシテ需
 要ノ進歩ニ準ズト
 ヒューム氏モ亦タ曰ク吾人ノ情慾(需要)ハ其勞力ノ唯一ノ原因ナ
 リト「伊多利」ノ諸經濟學者ハ人間ノ需要ハ凡テノ價格ノ原因ナ
 ルコトヲ説示スルニ於テ最モ明確ヲ極ハメタリ即チゼノヴシ
 「氏」ノ如キハ價格ナル語ハ比較ノ語ニシテ獨立ノ語ニアラザ
 レバ之ヲ物品固有ノ性質ニ適用スベカラザルコトヲ示シ又タ
 通貨ハ物品ノ價格ヲ量ル近接ノ尺度ナレドモ其最後ノ尺度ハ
 人間其者ニアルコトヲ示セリ蓋シ人間絶無ノ地ニハ万物價格
 ナ有ヒズ人間稀少ノ地ニハ万物低價ヲ有シ人間衆多ノ地ニハ
 万物高價ヲ有シ將タ物品及ビ勤勞ノ僻境ヨリモ都會ニ高價ナ
 ルハ價格ノ原因ハ人間ニアルヲ以テノ故ナリ
 ゼノヴシ「氏」曰ク人間若シ勤勞及ビ物品ヲ需要セザレバ吾人

ハ焉ゾ勤勞及ビ物品ニ價格ヲ生ズルヲ得ンヤ故ニ人間ノ需要
 ハ則チ万物價格ノ第一原因ニシテ代價ハ則チ吾人ノ需要ヲ滿
 足スル力ナリ人間ノ需要ニハ三種アリ第一純然タル必要ノ需
 要、第二快樂ノ需要、第三奢侈ノ需要是レナリトゼノヴシ「氏」ハ
 斯クノ如ク論ズルノ後ニ於テ更ニ需要ノ根原ヲ探究シタリ今
 其説ノ畧ニ曰ク万物其需要ト別離シテ價格ヲ有スルモノアル
 ナシ万物ノ價格ハ吾人ガ其需要ヲ満足スルガ爲メニ保有スル
 所ノ能力ニ準ズト次ギニ氏ハ万物ノ代價ハ如何ニ供給需要ニ
 因テ決定セラル、ヤチ示シ左ノ言ヲ以テ其論ヲ結ベリ曰ク(第
 一)人間ノ需要ハ凡テノ物品及ビ凡テノ勞力ノ價格ノ第一原因
 ナリ(第二)物品及ビ勞力ノ代價ハ其需要ト正比例ヲナシ其供給
 ト反比例ヲナスモノナリト而シテ氏ハ又タ其次キニ述ベテ曰
 ク價格ハ需要ハ子ナリト

ベツカリヤ氏ハ曰ク價格ハ人間ノ物品ヲ私有スベキ能力ヲ量ル
 モノナリト
 ベリー氏ハ曰ク商業ノ起因ハ人間ノ需要ニアリ人ノ需要増加
 セバ則チ商業モ亦タ増加シ國其需要ヲ増加セバ則チ亦タ其權
 力幸福ヲ増加ス需要ハ人間ヲシテ商業ニ奮勵セシメ商業ハ需
 要ヲ要望ス夫レ國ノ簡單稀少ナル需要ヨリ錯雜衆多ナル需要
 ニ進歩スルヤ隨テ其年々ノ產出ヲ増加シ終ニ其餘裕ヲ以テ外
 國ノ產物ニ交易スルヲ得ルニ至ル是時ニ於テ此國ヨリ彼國ニ
 與フル所ノモノト彼國ヨリ此國ニ受クル所ノモノトノ平等ナ
 ルヤ否ヤヲ確シカムルタメ一物ヲ要ス此物ハ即チ價格ニシテ
 價格ハ即チ人間ガ物品ニ付スル價直ノ表章ナリト而シテベリ
 ー氏ハ次ギニ代價ノ變動ハ供給需要ヨリ來ルコトヲ示セリ
 フイシヨクローツ學徒ノ需要ヲ以テ價格ノ原因トナシ需要ナキ

物ハ價格ナキコトヲ示セシ由ハ余輩已ニ之ヲ説キタリ
 コンジラック氏ハ此趣旨ニ就キ最モ明了ナル見解ヲ下タセリ蓋
 シ氏ノ説ニ曰ク(前略)此心算ハ即チ吾人ガ價格ト稱スル所ノ者
 ナリ物品ノ價格ハ即チ物品ノ需要ナルガ故ニ需要強ケレバ價
 格多ク需要弱ケレバ價格少ナキハ自然ノ理ナリ物乏シケレバ
 價格貴ク物豊カナレバ價格卑シ是レ物ノ豊饒其極度ニ達スル
 トキハ之ヲシテ遂ニ無價ニ歸セシムル所以ナリト
 故ニ價格ハ物品固有ノ性質ニ屬スルモノニアラザルコトヲ須
 臾モ忘却セザルヲ要ス設ヘバ水ハ人生一日モ欠クベカラザル
 モノナリ然レドモ人間ノ水ヲ要スルヤ其分量ニ定限アリテ此
 定限外ノ水ハ何等ノ効用ヲモ人間ニ與ヘザルガ故ニ水ニハ一
 毫ノ價格ナキナリ農產物ノ如キモ亦タ然リ或ル農業國ニ於テ
 ハ其收穫ノ非常ニ豊饒ニシテ其人民ノ供給ニ餘アリ然レドモ

運輸ノ不便ナルヨリ之ヲ海外ニ輸出シテ他物ト交易スルヲ得
 ズ由テ之ヲ地ニ委シテ看ス々々腐朽ニ属セシメシコトアリト
 云フ此場合ニ於ケル穀物ノ性質ハ他ノ場合ニ於ケル穀物ノ性
 質ト異ナルナリ然レドモ之ヲ需要スル者ナキガ故ニ富トナル
 能ハザルナリ又タ右ニ類スル一例アリ嘗テ歐羅巴人ガ「パンバ
 ス」人種ノ中ニ移入セシ家畜ハ非常ニ其數ヲ増殖セシガ其人口
 ノ稀少ナルヨリ十分ニ之ヲ消費スルヲ得ズ爲メニ家畜ノ價格
 ハ其皮ノミニ存スルニ至リシトゾ又タオーストラリア太喇利亞ニ於テハ數
 年以前羊ノ數非常ニ増殖シテ大ニ其需要ニ超過シ遂ニ羊ノ價
 格ハ之ヲ煎シテ絞取スル所ノ羊脂ノミニ由テ之ヲ決スルニ至
 レリトゾ然レドモ近年ニ及ビ牛肉羊肉等ヲ罐詰ニシテ保存ス
 ル方法ヲ發明シ之ヲ歐羅巴ニ輸出スルヲ得シヨリ牛羊等ノ家
 畜ハ大ニ其價格ヲ増加シ今ヤ澳洲人民ノ一大富源トナリ澳洲

人民ハ之ヲ英國ニ輸出シテ彼等ノ英國ニ向テ需要スル各種ノ
 產物ヲ購買スルニ至レリ

是ノ故ニコンジラック氏ハ曰ク物品ニ多量ノ失費ヲ施セシガ故
 ニ之ニ價格アルニアラズシテ物品ニ價格アルガ故ニ之ニ
 失費ヲ施セシナリト又タ曰ク然ルニ或ル者ハ余輩ト全ク其說
 ナ異ニシ價格ヲ以テ物品ニ固有スル獨立ノ性質ナリト視做セ
 リ而シテ此謬想ハ實ニ不正ナル推測ノ由テ生ズル源泉ナリト
 スト又タ曰ク凡ソ物品ハ吾人ニ有用ナル性質ヲ包含スル時ニ
 限リ價格ヲ有スト雖ドモ而レドモ吾人ニシテ其性質ヲ利用ス
 ルコトヲ知ラザル時ハ此等ノ物品モ吾人ニ對シテハ何等ノ價
 格ヲ有スル能ハザルナリト又タ曰ク吾人ノ某物品ヲ需要スル
 ヤ即チ其物品ニ價格ヲ生ズ而シテ價格ノ生ズル理由ハ之ヲ外
 ニシテ他ニ無キナリト尋テコンジラック氏ハ嘗テ富ヲザリシ

物ノ交易ニ由テ富トナル所以、人間ノ需要皇張スルニ隨テ技術ノ起ル所以、及ビ技術ハ富ノ總額ヲ増加スル所以ト示シタリ

世人ノ一般ニ知レルガ如ク勞力ヲ以テ富ト價格トニ關スル凡テノ論說ノ根據トナセルアダム、スミス其人ト雖モ交易スベカラサル產物ハ富ニアラズト云ヒ以テ氏モ亦タ畢竟交易力ヲ價格ノ眞個ノ標準ナリトスルコトヲ示セリ

スミス氏ハ其著書ノ始メニ於テハ勞力ハ價格ノ原因ナリト云ヘル說ヲ以テ讀者ノ心裡ニ充滿セシメシニ拘ハラズ或ル章ニ於テハ眞理ノ全ク之レニ反對スルヲ認メリ即チ氏ハ葡萄園ニ就テ論ズルニ當リ實ニ左ノ言ヲナセリ

曰ク葡萄ハ他ノ菓木ニ比スレバ地味ノ差異ニ因テ感化サル、コト殊ニ甚シ或ル地方ニ生ズル葡萄ハ他ノ地方ニ於テ何程ノ

耕作栽培ヲ施スモ決レテ得ベカラザル所ノ佳味アリ此佳味ハ時トシテ數箇ノ葡萄園ニノミ限ルコトアリ又タ時トシテハ廣大ナル地方ノ過半部ニ及ブコトアリ斯ル葡萄酒ノ全量ハ尋常葡萄酒ノ相場ニ從テ市場ニ之ヲ提出スルモ必要ナル地代、利潤、賃銀、ヲ拂フヲ甘ズル者ノ需要ヲ悉ク満足セシムルニ足ラズ故ニ斯ル葡萄酒ノ全量ハ之ヲ通常葡萄酒ノ相場ヨリモ更ニ高價ヲ拂フコトヲ甘ズル者ニ賣却スルヲ得レバ其代價ノ尋常ノ葡萄酒ヨリモ高貴ナルハ亦タ自然ノ勢ト云フベシ然リ而シテ此葡萄酒ノ流行ト匱乏ト並ビ現ハレテ其購買者ノ間ニ競争ヲ生ズルトキハ其代價ノ尋常葡萄酒ニ超過スルコト殊ニ甚シトス又タ此ノ如キ場合ニ於テハ如何ナル事情アルニ拘ハラズ地主ニ報スル所ノ地代ハ葡萄酒ノ代價ノ大部ヲ占ムルモノナリ其故ハ斯ル佳味ノ葡萄酒ヲ産スル葡萄園ハ大概子他ノ葡萄園

ヨリモ善良ナル培養ヲ施サルノニ疑ヒナシト雖モ而レドモ葡
 萄酒ノ高價ナルハ專ラ其培養ノ善良ナルニ原因スルモノニア
 ラザレバナリト
 スミス氏ガ前章ニ述ベシ所ノ説ハ同氏及ピリカルド氏ガ他ノ
 各章ニ述ベシ所ノ説ト全ク相反對スルヤ明カナリ然リ而レテ
 相反對スルニ箇ノ説ハ相共ニ眞確ナル能ハザルハ物理ノ通法
 ナレバ前章ニ述ブル所ノ説果シテ眞確ナラバ他ノ各章ニ述フ
 ル所ノ説妄謬タラザルヲ得ズ他ノ各章ニ述ブル所ノ説果シテ
 眞確ナラバ前章ニ述ブル所ノ説妄謬ナラザルヲ得ザルベシ夫
 レスミス氏及ピリカルド氏ノ説ハ總体ノ上ヨリ觀レバ勞力ヲ
 以テ價格ノ原因トナスモノ、如シ然ルニ前章ニ述フル所ニ就
 テ觀レバ價格ヲ以テ勞力ノ原因トナセリ抑經濟學ニ於テ甲説
 ナ以テ甲現象ヲ説明シ乙説ヲ以テ乙現象ヲ説明スルハ猶ホ天

文學ニ於テ「トレミ」説「ナ」以テ甲現象ヲ説明シ「コーベル」コカ
 ン説「ナ」以テ乙現象ヲ説明スルガゴトク又タ光線學ニ於テ分子説
 ナ以テ甲現象ヲ説明シ波動説ナ以テ乙現象ヲ説明スルガゴト
 ク不當ノ最モ甚シキモノナリ蓋シスミス氏ガ前章ニ述ブル所
 ノ者ハ眞確ニシテ他ノ各章ニ述ブル所ノ者ハ妄謬タルヲ毫モ
 疑ナ容ルベキニアラザルナリ
 余輩ハ更ニ一步ヲ進ミ勞力ハ凡テハ價格ノ原因ナリトハ説ナ
 反覆叮嚀ニ論述セシ所ノリカルド氏及ピマッカロク氏ハ殆ソド
 信ズベカラザル如キ自家撞着ニ陥ヒリシ次第ヲ説示スベシ
 リカルド氏ハマルザス氏ノ借地料論ヲ駁スルニ當リ言テ曰ク
 穀物ノ生産ヲ獎勵スルモノハ即チ穀物ノ市價ノ騰貴ナリ何ト
 ナレバ某貨物ノ生産ヲ増殖スル一大獎勵トナルモノハ其貨物
 ノ市價ノ騰貴ナリトハ一般普通ノ原則ナレバナリト

マツカロック氏ハ又タ曰ク(前略)是ノ故ニ需要ハ市價及ビ實價ノ究竟原因ナリト見做スモ妨グナシ何トナレバ各個人ノ物品ヲ享有セント欲スル情願ハ其物品ノ産出セラル、唯一ノ原因ナレバナリト

是ニ由テ之ヲ觀レバ以上ニ拔萃セシ諸章ニ於テリカルド氏及ビマツカロック氏ハ價格ハ勞力ノ獎勵タルコトヲ認メシヤ明カナリ

ホウエートリ氏ハ曰ク經濟學ノ他ノ諸点ニ於テノ如ク此点ニ於テモ世人動モスレバ原因ト結果トヲ混同スルノ傾向アリ例ヘバ眞珠ノ高價ナルハ之ヲ採獲スル爲メニ游泳セシガ故コアラズシテ眞珠ノ高價ナルガ故コ之ヲ採獲スル爲メニ游泳セシナリト

實用ハ即チ價格ノ基礎ナリト云ヘル説ヲ粗述セシ所ノセイ氏

ハ曰ク各般ノ富ハ唯ダ交易ニ由テ其價格ヲ量ルヲ得ベシ交易ハ價格ヲ表スル所以ノ具ナリト又タ曰ク汝ハ物品ノ富タルト否トハ物品ノ種類如何ニ關セズ又タ物品ノ性質如何ニ關セズシテ物品ニ對スル吾人ノ需要即チ物品ノ價格如何ニ據テ決定セラル、コトヲ認ムルナルベシト又タ曰ク價格ハ純乎タル人心ノ一性情ナリ價格ハ轉變常ナキ人間ノ意思ニ基ヒスルモノ、如シト又タ曰ク需要ハ凡テノ價格ノ第一ノ根本ナリト嗚呼斯ル敏達ノ學士ニシテ一方ニ於テハ價格ヲ物体ノ性質ナリト云ヒ他方ニ於テハ價格ヲ人心ノ性情ナリト云ヒ自ラ前後矛盾ノ説ヲナスヲ覺ラザルハ豈ニ奇怪ナラズヤ

パスチア氏ハ價格ノ原因ハ全ク人心ニアリトセリ其説ニ曰ク交易ナルモノハ唯ダニ價格ヲ表シ價格ヲ量ルノミナラズ實ニ價格ヲ成立セシムル者ナリト又タ曰ク價格ナル思想ハ一箇ノ

人間が其同類ニ向ヒ汝ハ余ノ爲メニ此レヲ爲セ余ハ汝ノ爲メニ彼レヲ爲スベシト言ヒ二人相共ニ之ヲ承諾セシ時ヨリ創メテ世界ニ現ハレ來リシモノナリ何トナレバ交易サレタル二箇ノ勤勞其價格ヲ同フセシハ是時ヲ以テ曠失トスレバナリト又タ曰ク吾人ハ生命ヲ保タンガ爲メ衣食住ヲ給センガ爲メ光熱ヲ得ンガ爲メ保護ヲ全フセンガ爲メ教誨ヲ受ケンガ爲メニ相互ニ勤勞ス於是乎勤勞互換ノ事起ル吾人ハ此等ノ勤勞ヲ比較シ其大小ヲ辨別シ其價格ヲ稱量ス於是乎價格ナルモノ生ズ

價格ノ原因ヲ論ズ(續キ)

此ニ知ル需要ハ價格ノ唯一ノ原因ナルコトヲ產物ニ價格ヲ與フルモノハ需要ナリ消糜ナリ勞力ニアラザルナリ、產物ニ價格ヲ與フルモノハ勞力ニアラズシテ勞力ニ價格ヲ與フルモノハ產物ノ需要ナリ、故ニ知ル勞力ハ價格ノ原因ニアラズシテ價格ハ勞力ノ原因ナルコトヲ然ラバ則チ價格ナル語ハ本ト是レ心裡ノ感情ヲ表彰スルノ語ニシテ天然若クハ人勞ノ結果タル物体ノ性質ヲ表彰スルノ語ニアラザルヤ判然タルベシ世人常ニ言フ「余ハ幾何ト價ヒツク」ト看ルベシ價ハ心情ト外物トノ間ニ行ハル、引力ナルコトヲ然レドモ心裡ノ情願何程強盛ナルモ其外面的ノ行爲トナリテ顯表セザル間ハ之ヲ以テ經濟上ノ現象ト視做サズ凡ソ人類情願ノ經濟學ノ範圍ニ入ルニハ必ズヤ多少ノ行爲ヲ外面ニ顯

表セザルベカラズ然レモ單ニ一人ノ心願ハ以テ一箇ノ行爲ヲ生ズルニ足ラズ例ヘバ一人アリ若干ノ物品ヲ有シ之ヲ賣却セシト欲スルモ他ニ之ヲ購求セント欲スル者ナケレバ其物品ハ毫モ價格ヲ有セザルベシ又タ一人アリ他ノ一人ガ賣却スル所ノ物品ヲ需求スト雖モ他ノ一人若シ此一人ノ供給スル所ノ物品ヲ需求セザルトキハ斯ル二個人ノ間ニハ交易ヲ行フヲ得ザルベシ二人ノ間ニ交易ヲ行ハレシメシハ二人相共ニ某物ヲ産出シテ而シテ甲ノ産出シタル物品ハ乙之ヲ需要シ乙ノ産出シタル物品ハ甲之ヲ需要セザルベカラズ故ニ交易ノ由テ起ル所以ハ世人ガ相互ノ産物ヲ相互ニ需要スルニアルナリ是レ二個人願ノ同在一致ハ交易即チ經濟現象ヲ生ズルニ欠クベカラザル所以ナリ世人皆ナレノ産物ノ成ルベク少シクナリ與ヘ他ノ産物ノ成ルベク多クナリ取ラント欲セザルハナシ是レ遂ニ交

易ノ行ハル、時ニ於テ二人ノ交易シタル物品ノ分量ハ各他ノ物品ヲ得ント欲スル心願ノ強弱ヲ量ルニ足ル所以ナリ然リ而シテ二人ノ相互ニ受授シタル物品ノ分量ヲ呼ンデ價格ト稱スルハ亦タ之レガ爲メナリトス

社會万般ノ生産ハ皆チ投機ニ基ヒスルモノナリ蓋シ各生産者ノ爲ス所ヲ觀ルニ先ヅ他人ノ何物ヲ需要スルヤチ推測シ而シテ後ニ其物ヲ生産スルヲ常トセリ社會ニハ其供給ノ絶ヘズ要望セラル、若干ノ物品アリ又タ發明工夫ヲ爲ス者ハ新ニ需要ヲ惹起スコト尠ナカラズト雖モ之ヲ以テ甲ノ物品ヲ生ズルガ故ニ乙ノ之ヲ買フナリト云ヘル論ノ理由トナスニ足ラズ何シトナレバ甲ガ物品ヲ生ズルモ乙ノ之ヲ需要セザルトキハ其物品ハ毫モ價格ヲ有セザレバナリ然ラバ則チ生産ハ皆チ投機ニ基ヒシ謹慎、確實、危險ノ有無多少ニ因テ其盛衰存亡ヲ異ニスル

モノト謂フベシ凡ソ生産者ハ自家ノ生産スル物品ヲ需要スル
 購買者ノ有ルヤ否ヤヲ推測スルヲ以テ十分ナリトセズ又々其
 購買者ノ需要ハ以テ生産入費ヲ償フニ足り以テ時間ト煩勞ト
 ノ報酬ヲ與フルニ足ルヤ否ヤヲ推測セザルベカラズ今マ夫レ
 一般ノ上ヨリシテ論ズレバ人民ノ消費力ニハ限界ナクンバア
 ルベカラズ然レドモ大抵ノ場合ニ於テハ生産カ動モスレバ消
 糜力ニ過グルヲ常トス而シテ生産物ノ市價ハ其供給ト需要ト
 即チ其生産ト消費トノ割合ニ從テ昇降スルモノナレバ常ニ生
 産ノ度ヲシテ消費ノ度ニ適セシメザルヲ得ズ是レ余輩ガ嘗テ
 ヨリ投機ハ生産ノ母ニシテ而シテ需要ハ價格ノ因ナリト主張
 スル所以ナリ
 何レノ場合ヲ論ゼズ勞力ハ價格ノ原因タラズ亦々根本タラズ
 勞力若クハ生産入費ハ其分量ノ如何ニ拘ハラズ未ダ嘗テ價格

ヲ與ヘザルナリ亦々未ダ嘗テ價格ヲ起サザルナリ吾人が其物
 品ヲ生ズル爲ニ多額ノ勞力及ビ多額ノ資本ヲ費ヤスモノハ畢
 竟其物品ノ多額ノ價格ヲ有スルニ因ルノミ然ラバ則チ高價ノ
 産物ハ往々多額ノ勞力及ビ資本ト密着ノ關係ヲ有スルコトアル
 ニモ拘ハラズ凡テ産物ノ價格ハ之ヲ産出スル勞力資本ノ大小
 ニ因テ高低ヲナサザルコト判然タリ故ニ吾人ハ自ラ能ク注意
 シテ價格ヲ與フルモノハ勞力ナリト思惟スルコトヲ禁ゼザル
 ベカラズ試ニ看ユ優才卓智ノ人ハ少許ノ勞力ヲ以テ能ク高價
 ノ物品ヲ作出スルモ庸才凡智ノ人ハ之ニ數倍スル勞力ヲ費ヤ
 シテ尙ホ之レト同價ノ物品ヲ作出スル能ハザルヲ何人ト雖ド
 モ其自ラ作出シタル物品ノ價格ヲ其之ヲ作出スルガ爲メニ費
 ヤシタル勞力ニ據テ算定スルヲ得ザルベシ是レ「物品ヲ製作ス
 ル者ハ其製作シタル物品ノ價格ヲ判定スルニ最モ不適當ナリ」

ト云ヘル諺ノ由テ世ニ起リシ所以ナリ大教長ホウエトリー氏ガ
 論理學史ノ記者タラント欲スル者ヲ誠ムルノ言ニ曰ク諸新説
 ノ價格ハ其實際ノ効用如何ニ據テ算定スベク其探究ノ勞力如
 何ニ據テ算定スベカラズト此言以テ万物ノ價格ヲ算定スル法
 則トナスニ足ル
 ロック氏一タビ農田ノ價格ニ差違アルヲ以テ之ヲ勞力ニ歸シ世
 ノ經濟學士タルモノ亦タ多ク氏ノ説ヲ信ズルノ時ニ當リ獨リ
 ベーコン氏ハ斷然此説ヲ排斥シテ曰ク何人ト雖モ單ニ一物ニ
 就テ其物ノ性質ヲ觀察スルトキハ決シテ正眞ノ結果ヲ得ル能
 ハズ若シ正眞ノ結果ヲ得ント欲セバ其觀察ヲ一轉シ各種ノ經
 驗ニ訴ヘザルベカラズト卓論ト謂フベシロック氏及ビ氏ノ末流
 ナ汲ム所ノ學者等ハ夫ノ笑フガ如ク喜ブガ如キ田圃ヲ指ザシ
 土地ノ價格ヲ同フセザル原因ハ勞力ニアリト主張スルノ時ニ

於テ農地ノ價格ヲ同フセザル原因ハ即チ亦タ万物ノ價格ヲ同
 フセザル原因ナルコトヲ記憶セザルベカラズ余輩ハ試ニ彼等
 ニ問ハン倫敦府内ノ各地其價格ヲ同フセザルハ之ニ施シタル
 勞力ノ同シカラザルガ故ヘ乎ト彼レ如何ニ其説ヲ信ズルノ厚
 キト雖モ決シテ然リト答フルヲ得ザルベシ彼等若シ時辰儀、家
 具、衣服、食品等ヲ指ザシ此等物品ノ價格ハ皆チ勞力ニ歸スト言
 ハ、余輩ハ茲ニ千八百七十二年十月四日ニ於ケル「英倫銀行」ノ
 計算報告ヲ彼等ニ示シ以テ彼等ノ迷夢ヲ覺破スベシ即チ左ニ

負債義務

發行紙幣	二七、五八九、三六〇
政府預金	八、八四二、三八二
人民預金	一九、〇〇四、〇三六
合計	五五、四三五、七七八

資產權利

諸株式

金銀貨及地金銀

合計

三八、〇九一、四二四

二一、一五六、四五二

五九、二四七、八七六

余輩ハ上表ニ據リ負債義務ノ合計五千五百四十三万五千七百七十八磅ハ全ク信約ヨリ成立シ資產權利ノ合計五千九百二十四万七千八百七十六磅ハ二千百十五万六千四百五十二磅ノ貨幣ト三千八百九万一千四百二十四磅ノ信約トヨリ成立スルヲ見ルナリ而シテ此信約即チ負債ハ正ニ貨幣ト同様ニ價格ヲ有スルモノトシテ計算サル、ト斯ノ如シ是ニ於テ余輩ハ敢テロク氏等ニ問ハントス此信約ノ價格ヲ生ズル原因ハ何ニナル乎夫レ勞力ナル乎ト蓋シ彼等如何ニ其説ヲ信ズルノ厚キト雖モ決シテ然リト答フルヲ得ザルベシ余輩ハ勞力ノ結果ニシテ且

ツ巨大ノ價格ヲ有スル數多ノ有形物ヲ示シテ其説ヲ證明スル所ノ經濟學者等ニ向ヒ年々英國ニ於テ取組マレタル爲換手形ノ數額ヲ示シ而シテ後ニ更ニ彼等ニ問フ所アラシク爲換手形ノ數額左ノ如シ

千八百三十七年

四五五、〇八四、四四五

千八百三十八年

四六五、五〇四、〇四一

千八百三十九年

五二八、四九三、八四二

右ニ示ス所ノ信約即チ爲換手形ノ數額ハ大ハ即チ大ナリト雖モ之ヲ今日取組マル、信約ニ比スレバ其及バサルト遠シ而シテ此巨大ナル信約ノ價格ノ原因ハ何ナル乎夫レ果シテ勞力ナル乎三尺ノ童子ト雖モ尙ホ能ク其然ラザルヲ知ラン况ハンヤ自ラ學者ヲ以テ任ズルノ人ナヤ

讀者ハ上來陳述シタル余輩ノ長論ヲ以テ彼ノ理學ヲ講ゼザル

所ノ學者等ガ價格ノ原因ニ就テ主張スル誤說謬論ヲ排除スルニ於テ方己ムヲ得ザルモノナルヲ認ムルナラン實ニ斯ル長論ヲ費ヤスニアラザレバ信約ノ主旨ヲ明ニスル能ハザルナリ如何ントナレバ勞力若シ價格ノ唯一ノ原因ナラバ銀行紙幣及ビ爲替手形ハ決シテ價格ヲ有スル能ハザルベケレバナリ若シ世界ノ商賈及ビ銀行者ヲシテ銀行紙幣及ビ爲替手形ノ價格ハ勞力ヨリ生ズルモノナリトノ說ヲ聞カシメバ彼等必ズ失笑スルナラン而シテ彼等ハ斯ル說ヲ述ブル所ノ學者等ニ向ヒ徐ニ教ヘテ言ハントス曰ク銀行紙幣及ビ爲替手形ノ價格ヲ有スルハ其勞力ヲ以テ作りタルガ故ニアラズシテ其貨幣ニ交換シ得ルガ故ナリト且ツ又タ言ハントス曰ク貨幣其者ノ價格ヲ有スルハ貨幣ハ勞力ヲ以テ作りタルガ故ニアラズシテ之ヲ他ノ諸物ト交易スルヲ得ルガ故ナリト蓋シ如何ナル物品ト雖モ其

交易スル能ハザルモノハ毫モ價格ヲ有スルヲ得ザルナリミル氏曰ク何時ニ限ラズ「オンス」ノ金ヲ仕拂フベキ手形ハ苟クモ其仕拂人ノ信用ニ欠乏ヲ生ゼザル間ハ眞ニ其價格ヲ「オンス」ノ金ト均●スベシト彼ノ羅馬律ニ於テ權利ヲ富ト稱スルノ理由ハ實ニ此ニアルナリ而シテ余ガ本書ニ論ズル所ノ主物ハ即チ此ノ權利ト稱スル一商品ナリ

價格ノ通法ヲ論ズ

余輩ハ前二節ニ於テ既ニ價格ノ眞義ヲ釋明シ又々價格ノ實因ハ全ク人心ニ存ズルノ理由ヲ辨晰シタリ故ニ余輩ハ是レヨリ將ニ價格ノ通法ヲ論定セントス蓋シ價格ノ通法トハ凡百財貨ノ交易ニ於ル關係ノ變化ヲ支配スル所ノ單一ニシテ且ツ普通ノ定則ヲ云フナリ

百家ノ確認スル歸納理學ノ原則ニ據レバ價格ノ定則ハ單一ニ

シテ且ツ普通ノモノタラザルベカラズ余輩ハ前章ニ於テ財貨即チ富ニハ三大種類アルヲ示シ又タ科學的ノ原想ニ基ツキ此ノ三大種類ノ富ヲ概括シタリ而シテ此ノ三大種類ノ富ハ六様ノ方法ニ於テ交易スルヲ得ルモノナリ余輩ノ目下ノ目的ハ此ノ六様ノ交易ニ總テ適用スベキ通法ヲ探究スルニアリ蓋シ有形物ノ交易ニ於ケル關係ヲ支配スル所ノ法則ハ亦タ無形物即チ負債ノ交易ニ於ケル關係ヲ支配スル所ノ法則タラズンバアルベカラザルナリ

余輩ハ今マ^磅ナル文字ヲ以テ富ノ總稱トシ此總稱ニ由テ各種ノ富ヲ概括スルモノトセバ各國ニ於ル富ノ分量ハ左ニ列記スル所ノ孰レニカ屬スベシ

- 五四六、四九七、二〇八磅
- 三四九、七八四、六二七磅

八〇四、九三二、七一二磅

二四、九八七、四五九磅

以下略之

余輩ハ物理學ノ連絡ノ理ト代數學ノ同形互通ノ理トニ據リ凡ソ經濟學ニ於テ富ノ一種タルヲ證シ得ベキモノハ總テ之ヲ富ナリト視做スベシ何人ト雖モ右ニ列記スル所ヲ一見スルノミニテハ其中ニ富ノ如何ナル種類ノ存スルヤヲ知ル能ハザルナレン蓋シ其中ニハ穀物モアルベク鑛物モアルベク船舶モアルベク貨幣モアルベク負債モアルベク又タ勤勞、板權、株式等モアルベシ然レモ此等諸物品ノ價格ヲ支配スル原因ハ唯ダ一トス余輩ハ既ニ需要ハ凡テノ富ヲ生出スル所ノ單一旦ツ普通ノ原因ナルヲ證明シタリキ而シテ此證明ハ世ノ經濟學士ガ各種ノ富ニ就テ其價格ノ原因ヲ區別セシ謬見ヲ撲滅スルニ

足ルモノナリ
 余輩ハ此ニ至テ各種ノ富ノ獨立ヲ確定スルヲ得タレバ乃チ進
 シテ各種ノ富ノ交易ニ於ル關係ノ變化ヲ支配スル所ノ通法ヲ
 探究スベシ科學ノ連絡ノ理ニ據レバ價格ノ通法ヲ探究スルニ
 ハ一般ノ變動スベキ分量ノ通理ヲ探究スルト同一ノ方式ニ從
 ハザルベカラズ然ラズンバ數學及ビ物理學ハ全ク其基礎ヲ破
 壞スルニ至ラン
 今マ假リニ a ト b トヲ以テ二個ノ分量トセバ a ト b トノ交易
 ノ關係ハ左ノ限界ヲ出テザルヤ明ナリ

$$\begin{array}{l} \infty a = 0 \quad b \\ 0 \quad b = \infty \quad a \\ 2 \quad a = \frac{1}{2} \quad b \\ \quad \quad a = b \\ \frac{1}{2} \quad a = 2 \quad b \\ 2 \quad a = \frac{1}{2} \quad b \\ 0 \quad a = \infty \quad b \end{array}$$

右代數式ノ意義ヲ簡説スレバ a ト b トノ交易ノ關係ヲシテ

ノ最大量ト b ノ最小量トノ交易ヨリ a ノ最小量ト b ノ最大量
 トノ交易ニ至ルマデ漸チ逐テ變化セシメシモノタルニ過ギザ
 ルナリ
 今夫レ連絡ノ定則ニ從フトキハ凡ソ一某量ノ甲量ヨリ乙量ニ
 移ルニハ其中間ノ諸量ヲ經過スルニ非ザレバ能ハズトセリ
 故ニ余輩ハ連絡ノ定則ニ據リ左ノ二項ヲ確言スルコトヲ得ベ
 シ
 第一 或ル一ノ特殊ノ定則ニシテ物價ノ最高點ヨリ最低点ニ
 至ル間ノ某点ニ適用スベキモノハ亦タ凡テノ点ニ適用スベキ
 モノニアラザルハナシ
 第二 或ル二數ノ交易ノ關係ニ適用スベキ定則ハ凡テノ數ノ
 交易ノ關係ニ適用スベキ定則ニアラザルハナシ
 而シテ余輩ハ亦タ連絡ノ定則ニ據リ左ノ一項ヲ確言スルコト

ヲ得ベシ

一 或ルニ富ノ交易價ノ或ル点ニ適用シテ眞確タルヲ證スル定則ハ凡テノ富ノ交易價ノ凡テノ点ニ適用スルモ亦タ眞確タルヲ證スルノ定則ナリトス

而シテ余輩ハ前項ノ結果トシテ更ニ左ノ一項ヲ確言スルコトヲ得ベシ

一 或ルニ富ノ關係ニ適用シテ眞確タラザルコトヲ證スル所ノ定則ハ之ヲ以テ經濟學ノ通法トナスコトヲ得ズ

他ノ各科學ニ於テ一般ニ確實ナリト認定サル、所ノ哲學的推測ノ元理ヲ理會シ且ツベ！コン氏ガ甚ダ熱心シテ主張セシ所ノ連絡ノ定則ヲ維持セント欲スル者ハ余輩ガ以上ニ列述シタル諸項ノ眞確ナルコトヲ認メザルヲ得ザルナリ吾人若シ哲學的ノ一般ノ定則ヲ發見スルヲ得ルトセバ此ノ定則ハ凡テノ場

合ニ適用スベキモノナラザルベカラズ蓋シ特殊ノ場合ヲ分析シテ其中ヨリ一般ノ定則ヲ探出シ此定則ノ凡テ他ノ場合ニ適用スベキコトヲ示スハ是レ歸納理學ノ本色ナリ故ニ特殊ノ場合ヲ解説スルハ反對論ノ正否ヲ決定スル眞ノ繩墨ナリトス此繩墨ヲ外ニシテ復タ他ニ反對論ヲ檢査スルノ道ナキナリ故ニ今マ共ニ眞確ナルガ如ク見ユル所ノ二論アリテ此二論ノ眞偽ヲ試驗スルニ當リ其中ノ一論若シ某現象ヲ説明スル能ハザレバ此論ハ斷然之ヲ拒斥セザルヲ得ズ何ントナレバ一箇ノ眞論タルベキモノハ必ズ一箇ノ科學ノ凡テノ現象ヲ説明セザルベカラザレバナリ何ントナレバ一箇ノ眞論タルモノハ凡テノ場合ニ於テ其眞確タルコトヲ證セザルベカラザレバナリ故ニ一論アリテ其説明スル能ハザル一事實アリトセバ此一事實ハ以テ此論ノ眞確タルヲ否定スルニ足ルモノナリトス

各科學ノ沿革ヲ觀ルニ凡ソ許多ノ現象ヲ説明スルニ足ルベキ理論アレバ則チ之ヲ以テ眞確ノ理論トナシ世々信奉シテ疑ハズ然レモ星換リ歲遷ルニ隨ヒ此理論ニ符合セザル新現象ノ生ズルコトアルヲ免レズ是ニ於テカ所謂ル新現象ヲ包括シテ説明スルニ足ルベキ新理論ヲ發見スルコト必要トナルベシ而シテ此新理論ハ單ニ新現象ヲ説明スルノミナラス併セテ亦タ舊來ノ諸現象ヲ説明セザルベカラザルハ勿論ナリ而シテ此新理論果シテ能ク新舊ノ各現象ヲ説明スルニ至ラバ斷然舊理論ヲ廢却シ新理論ヲ採用スルニ常トセリ

右ノ如キ推究ノ順序ハ亦タ經濟學ニ於テモ行ハル、モノナリ夫レ同主旨ニ係ル所ノ凡テノ現象ヲ説明スルニ足ルベキ法則ノミナリテ唯ダ眞確ノ法則トナスハ天下ノ相共ニ公認スル實験學ノ元理ナリトス而シテ此元理ハ亦タ經濟學ニ於テモ元理

タルコト余輩ノ信シテ疑ハザル所ナレバ余輩ハ左ノ一項ヲ以テ經濟學ニ於ル確乎不動ノ眞理ナリトスベシ

一 二箇若クハ二箇以上ノ法則アリテ同シク物價又ハ物價ノ變化ニ關スル現象ヲ説明スルアリトセバ其中ニ於テ唯ダ一箇ノ現象ヲ説明スルニ足ルノミナラズ經濟學ニ關スル凡テノ現象ヲ説明スルニ足ルモノヲ眞確ノ法則トシテ採用スベシ

斯クテ余輩ハ物理學ニ於ケル連絡ノ定則ト他ノ科學ニ於ケル類例トニ據リ價格ノ現象ハ千殊万異交互錯雜シテ頗ル分明ナ欠クモノ、如シト雖モ其間ニ一大通法ノ存立スルアルヲ確認スルナリ彼ノ經濟學ノ現象ハ相互ニ撞着スル所ノ數理論ヲ基礎トスルヲ得ベシト推定スルハ經濟學ノ概括ヲ破却スルモノニ非ズシテ何ゾヤ

老德ローデル氏ハ其國富ク性質及原因ヲ論ズト題セル

書中ニ述ベテ曰ク共ニ變動スベキ二箇ノ富アリテ甲富ノ變動
 スル時ニ當リ乙富ノ靜止スルコトアリトセバ甲富ノ變動ヲ支配
 スル四因アルベシト而シテ所謂ル四因ハ左ノ如シ

甲富ノ價格ハ下記ニ因ヨリ増加スベシ

第一 分量ノ減少ヨリ

第二 需要ノ増加ヨリ

甲富ノ價格ハ下記ノ二因ヨリ減少スベシ

第一 分量ノ増加ヨリ

第二 需要ノ減少ヨリ

然リ而シテ乙富ノ價格ノ變動モ亦同シク四因ヲ有スベケレ
 ハ甲乙二富ノ價格ノ變動ハ共ニ獨立セル八箇ノ原因ニ依テ支
 配セラル、コト明ナリ而シテ此八箇ノ原因ヲ代數學ノ法式ニ
 從テ連接スルトキハ則チ經濟學ノ通法ヲ得ベシ

此通法ハ全ク經濟學ヲ包括スルモノタルヤ疑ヒテ容レズ然レ
 ドモ此通法ノ中ニハ八箇ノ變化ヲ含有スルガ故ニ經濟學ノ性
 質ヲシテ非常ニ複雜セシムルコト一見シテ知ルベキナリ

供給需要ノ定則ハ物價ノ甚ダ騰貴スル時ニモ適用スベク亦物
 價ノ甚ダ下落スル時ニモ適用スベキハ各經濟學士ノ共ニ可認
 スル所ナリ(供給需要ノ意義ハ上ニ引用セシロイデルデル氏
 ノ說ニ據テ明カナルベシ)實ニ物價ノ兩端ヲ支配スルモノハ供
 給需要ノ定則ヲ外ニシテ他ニ亦之ヲ發見スル能ハザルガ故ニ
 連絡ノ定則ニ據レバ極端ヨリ極端ニ至ル間ノ諸物價ヲ支配ス
 ルモノモ亦同シク供給需要ノ定則タルコト斷乎トシテ夫レ
 疑フベカラズ

以上ニ述ブル所ノモノハ經濟學ノ眞誠ノ方程式タルコト全ク
 判然タルヲ以テ經濟學ハ徹頭徹尾此ノ方程式ヲ基礎トシテ成

立スルコトモ亦タ判然ナリト謂フベシ
 余輩ハ物理學ニ於テ一般ニ用ヒラル、所ノ探究法ニ準據シテ
 斯ノ如キ概稱(即チ方程式)ヲ索出スルヲ得タリ余輩ハ亦タ獨立
 ノ變化ニ八箇アルコトヲ發見スルヲ得タリ然リ而シテ此ノ八
 箇ノ獨立變化ハ唯ダ一箇ノ通法(即チ供給需要ノ通法)ヲ以テ之
 ナ統括スルニ足ルモノナリ此事ヤ經濟學ニ確實ノ性質ヲ與フ
 ルモノトス然レドモ最後ニ至リ一大困難ノ生ズルモノアリ何
 ツヤ曰ク原因結果ノ關係ヲ精密ニ決定スル能ハザルヲ即チ是
 レナリ蓋シ供給需要ノ如何ナル數量上ノ變化ガ果シテ物價ノ
 如何ナル數量上ノ變化ヲ生スベキ乎ヲ精密ニ決定シ而シテ毫
 厘ノ差違ナキヲ望ムハ所謂能ハザルヲ望ムモノナルベシ二
 三ノ學士ハ穀物等ノ價格ニ就キ數量上ノ變化ヲ確定セント企
 テタレドモ遂ニ其目的ヲ達スル能ハザリキ

經濟學ニ於テ物價ノ數量上ノ變化ヲ確定スルコトノ最モ困難
 ナルヨリシテ數多ノ經濟學士ハ經濟學ハ到底精密ハ科學トナ
 ス能ハザルモノナリト思惟スルニ至レリ或ル學者ノ如キハ經
 濟學ヲシテ精密ハ科學タラシムルモノハ此學ノ定則ヲシテ精
 密ニ數量上ノ説明ヲナスニ足ラシメザルベカラズト云フモノ
 アリ然レモ是レ甚シキ誤謬ナリ此ノ誤謬ハコント氏夙ニ之ヲ
 看破シ天下ニ示スニ科學ニ於ケル確實ト精密トハ全ク相異ナ
 レルモノタルヲ以テセリ抑々某科學ニ於ケル定則ガ數量上ノ
 精密ヲ得ザルハ其科學ノ精密ノ科學トナスノ妨害トナルモノ
 ニアラズ唯ダ某科學ヲシテ精密ノ科學トナラシムルニハ其推
 究ヲシテ確實ナラシメザルベカラズコント氏ノ說ニ曰ク各科
 學ノ精密甚ダ不同ナルガ故ニ各科學ノ確實亦タ甚ダ不同ナリ
 ト云ヘル論斷ハ頗ル危險ナル僻見ヲ生ズルニ至レリト是レ此

ノ論斷ハ學者ヲ自棄ニ誘ヒ最モ困難ナル探究ノ道ヲ衰縮セシムルノ弊害アルヲ謂フナリ夫レ精密ト確實トハ決シテ混同スベキモノニアラス故ニ精密ナラザルガ故ニ亦タ確實ナラズト論定スルハ實ニ不當ノ甚キモノナリ例ヘバ其三角ノ総角ハ三箇ノ正三角ニ同シト云ヘル説ハ本ト曖昧ナレドモ而カモ甚ダ精密ナリ又タ人ハ死スベシト云ヘル説ハ本ト確實ナレドモ而カモ甚ダ不精密ナリ是レ各科學其精密ノ度ヲ異ニスル所以ナリ而シテレガ爲メ亦タ其確實ノ度ヲ異ニスルノ理ナキ所以ナリ而シテ此事ハ最モ能ク經濟學ニ適用シ得ベキモノナリ世人往々經濟學ヲ蔑視シ經濟學ハ數量上ノ結果ヲ精密ニ説明スル能ハザルガ故ニ精密ノ科學ニアラストセリ然レドモ是レ甚シキ誤見ナリ實ニ經濟學ニ於ケル現象ノ原因ハ最モ確實ヲ以テ之ヲ測知スルヲ得ベシ吾人若シ一ノ某結果ヲ生ゼント欲セバ之ヲ生ズ

ルニ適當ノ方法ヲ最モ確實ヲ以テ指示スルヲ得ルナリ經濟學ヲシテ精密ノ科學トナラシムルニハ之ヲ以テ十分ナリトストナレバ結果ヲ生ズルノ方法已ニ確實ナルトキハ其結果ノ生ズルニ至ルマデ此方法ヲ追行スルヲ得レバナリ
經濟學ノ方程式ヲ論ズルニ當リ余輩ハペーコン氏ノ格言ヲ引キ以テ此學ニ適用スベシ格言ニ曰ク理論ニ於テ原因トナルモノハ實際ニ於テ規矩トナルモノナリト余輩ハ經濟學方程式ノ全面ヲ通觀スルニ供給需要ヲ外ニシテ他ニ一ノ現立スルモノアルヲ發見スル能ハズ故ニ余輩ハ價格若クハ價格ノ變化ヲ左右スルモノハ唯ダ只ダ供給ノ廣狹ト需要ノ緩急トニアルヲ知リ又タ勞力及ビ生産入費等ハ決シテ直接ニ價格ヲ左右スル能ハザルヲ知ルナリ而シテ勞力及ビ生産入費ガ間接ニ價格ヲ左右スルニハ必ズ先ツ需要供給ニ變化ヲ起サザルベカラザルヲ知

ハ如何トノ御事ニ御座候是レハ中途ヨリ体裁ヲ變スル事ニハ御座候ヘヒ索引ニ便センガ
爲メニ斯ク致セシヨニ御座候

第三ノ御問合セハ第八章ヨリ新クニ節ヲ附セシハ如何トノ御事ニ御座候是レハ大抵ノ原
書ニハ「パラグラフ」ヲ附シ候ヘヒ我國從來ノ譯書ニハ多ク之ヲ附セザル習慣ナリシ故ニ
本書モ初メハ之ヲ附セザリシニ翻譯ノ際其不都合ナルヲ發見シテ之ヲ附スルヲ致セシ
義ニ御座候

又豫テ廣告致シ置候本會出版加盟ノ義ハ各書トモ概テ滿員ニ付愈々來ル十七年一月ヨリ着
手致シ候間外員諸君中未ダ御加盟之レナキ向キハ廣告ノ主旨ニ從ヒ至急御申込アラソナ
冀望致候

又來ル一月ヨリ出版ニ着手スベキ各書ノ冊數(從來講義録ニ登錄セシ後)ハ大畧左ノ如クニ
シテ完備致スベキ積リニ有之候

社會學之原理

凡ソ七冊(一冊二百ページ)

銀行論

凡ソ十冊(全上)

經濟要義

凡ソ三冊(全上)

富國論

凡ソ十三冊(全上)

又本卷ニ登錄セシ銀行論及ヒ社會學之原理ノ二書ヲ終ルニ段落ヲ以テセザルモノハ他日合
本トナスノ便宜ヲ計ルモノニ御座候間左様御承知有之度候也

東京々橋區彌左衛門町七番地

東京經濟學講習會

明治十六年十一月三十日

第二ノ御問合セハ既成第一冊ニハ各項ノ要領ヲ目頭ニ記セズシテ第八章ヨリ之ヲ記セシ
ハ如何トノ御事ニ御座候是レハ中途ヨリ体裁ヲ變スル事ニハ御座候ヘト索引ニ便センガ
爲メニ斯ク致セシヨニ御座候

第三ノ御問合セハ第八章ヨリ新タニ節ヲ附セシハ如何トノ御事ニ御座候是レハ大抵ノ原
書ニハ「パラグラフ」ヲ附シ候ヘト我國從來ノ譯書ニハ多ク之ヲ附セザル習慣ナリシ故ニ
本書モ初メハ之ヲ附セザリシニ翻譯ノ際其不都合ナルヲ發見シテ之ヲ附スルヲ致セシ
義ニ御座候

又豫テ廣告致シ置候本會出版加盟ノ義ハ各書トモ概テ滿員ニ付愈々來ル十七年一月ヨリ着
手致シ候間外員諸君中未ダ御加盟之レナキ向キハ廣告ノ主旨ニ從ヒ至急御申込アランヲ
冀望致候

又來ル一月ヨリ出版ニ着手スベキ各書ノ冊數(從來講義録ニ登錄セシ後)ハ大畧左ノ如クニ
シテ完備致スベキ積リニ有之候

社會學之原理

凡ソ七冊(一冊二百ページ)

銀行論

凡ソ十冊(全上)

經濟要義

凡ソ三冊(全上)

富國論

凡ソ十三冊(全上)

又本卷ニ登錄セシ銀行論及ヒ社會學之原理ノ二書ヲ終ルニ段落ヲ以テセザルモノハ他日合
本トナスノ便宜ヲ計ルモノニ御座候間左様御承知有之度候也

明治十六年十一月三十日

東京々橋區彌左衛門町七番地

東京經濟學講習會

明治十六年十一月三十日發行東京經濟學講習會講義錄第二十卷附錄

稟 白

本會講義錄諸卷中ニ分載セル銀行論諸篇ノ類別綴合ノ順序ニ付キ外員諸君中往々御問合セ相成候向キモ有之候ニ付左ニ其順序ヲ陳述致シ候

銀行論ハ後藤、藤田、二氏ノ譯述ニテ後藤氏ノ譯述ニ係ル分ハ原書ノ卷首ヨリ起リ藤田氏ノ譯述ニ係ル分ハ第五章爲換篇ヨリ起ル則チ後藤氏ノ分ハ「富ノ意義」ヨリ「財産ノ意義」「通貨ヲ論ス」「資本ノ釋義」等ニ至ル銀行論一丁ヨリ百廿六丁マデト銀行論價格篇一丁ヨリ九十八丁マデニシテ原書ノ卷首ヨリ順次ニ譯シ來リ又藤田氏ノ分ハ銀行論爲換篇一丁ヨリ百四十丁マデト銀行論第八章「銀行事務ノ起源云々」ヨリ同第八章續(八章トセンハ共ニ六章ノ誤植ニ付讀者幸ニ之ヲ諒セラレヨ)「蘇格蘭銀行云々」同第六章續(第二十卷)ニ至ル一丁ヨリ百二十四丁マデニシテ原書第五章ヨリ順次ニ譯シ來ルモノニ有之候問右ノ順序ニ從ヒ類別綴合相成度候

又社會學之原理體裁變更ノ事ニ付桂虎助君ヨリ御問合セノ義アリ早速返書ヲ呈セシ御轉宅ニ相成リシニヤ郵書達セシテ返却ニ相成リ因テ茲ニ御問合セノ件ニ付御答ヘ申候
第一ノ御問合セハ第一冊既成トアルニ講義錄第十九卷ニ第八章トアリ其前ニ第二篇トナキハ如何トノ御事ニ御座候是レハ原書ノ第一篇ハ四百六十二「ペーシ」アルモ其第二篇ハ百五十六「ペーシ」ニ過キザル等ノ差アリテ原書ノ第一篇ヲ譯書ノ第一冊トシ原書ノ第二篇ヲ譯書ノ第二冊トナスコト能ハズ故ニ既譯ノ分數百枚ヲ合シテ譯書ノ第一冊第二冊ト致ス積リニ御座候通篇譯了ノ後諸君ノ御隨意ニ綴合セラレシガ爲メニ既成ノ分ハ假綴ニ致シ置申候

小引

爲換ノ商業ニ必要ナルハ夫レ猶機械ノ製造工業ニ於ケルカ如キ歟蓋製造工業ニシテ之ヲ補助シ之ヲ進歩セシムルノ機械無クンバ惡ク其隆盛ヲ望ムヲ得ンヤ商業ニシテ之ヲ獎勵シ之ヲ圓滑ナラシムルノ器具無クンバ亦何ヲ以テ其繁榮ヲ期スルヲ得ンヤ從來本邦ニ行ハル、爲換ナルモノハ一ニ唯送金ノ方法ナルノミ之ヲ歐米各國ニ行ハル、モノニ視レバ其相距ル殆ト天淵ノ差アリ彼ハ乃チ商業上ノ要具トナリ而テ我ハ乃チ否ラズ然ラバ則今ニ迫ンテ歐米ニ行ハル、ノ方法ヲ講シ其取ルヘキハ之ヲ取リ其捨ツヘキハ之ヲ捨テ之ヲレテ我商業上ノ要具ヲラシメント希望スルハ豈商業世界ノ一大急務ニアラズレテ何ツヤ爲換篇ヲ譯ス

明治十五年五月

藤田 靜誌

銀行論爲換篇

英國 ダンニンク、マクレオト氏 著
日本 藤田 靜 譯

爲換ノ要旨

第一 余ハ前篇ニ於テ既ニ商品ト商品ト相換ヘ貨幣ト貨幣ト相易フルカ如キ同一物品ノ交換アルモハ之ヲ指テ一箇ノ爲換ト稱セラレ、一ヲ論シタリ抑爲換ナルモノハ經濟學ノ一科ニシテ一國ノ貨幣ヲ他國ノ貨幣ト交換シ及ヒ証券ニ由テ一地方ヨリ他ノ地方ヘ負債ヲ轉送スルノ事ヲ論スルモノニシテ即チ前篇ニ詳論シタル貨幣及ヒ信約ノ理ノ實際ニ發現シタルモノナルノミ

第二 夫レ世界各國ニ於テ若シ悉ク同一ノ度量ヲ用ヒ同一ノ貨幣ヲ用ヒタラシムニハ其便其利ハ殆ト各國一様ノ言語ヲ用フ

ルノ便利ト相諷顔スルナルベシ蓋爲換ノ取扱方甚ク混淆錯雜
 ズル所以ノモノハ職トシテ各國ガ價格ノ準度トシテ種々ノ金
 属ヲ用ヒ様々ノ貨幣ヲ用フルニ之レ由ルナリ、サレバ各國若シ
 此點ニ於テ合同一致スルコトアラバ爲換論ヲ理會スルノ容易ナ
 ル恰モ英薩土ト蘇萬蘭土ノ間ニ於ケル爲換論ヲ理會スルト同
 一ナルベシ爲換ノ錯雜既ニ甚クレ是ニ於テカ許多ノ勞力ヲ要
 スル職業即チ爲換商賣ナル者ヲ發スルニ至レリ而テ此職業ヲ
 ルヤ廣ク之ヲ論スルキハ其社會ニ不利益ナル夫ノ法律ニ解釋
 難キ言語文字多キガ爲メニ徒ニ許多ノ法律事務ヲ世間ニ發
 セシメタルニ異ナラサルナリ夫ノ外國ニ旅行セシ人々ハ各國
 ナ歴遊スルノ間ニ於テ幾多ノ損害ヲ其貨幣ノ交換ヨリ受ケタ
 ルヲ知ルナルヘシ何人ニテモ若干ノ貨幣ヲ懷ロシテ外國ニ
 至リ例ヘハ日耳曼ノ如キ各州ヲ經過スルキハ其貨幣ヲ各地通

用ノ貨幣ニ交換スルカ爲メニ其所持ノ貨幣ハ忽チ耗滅シテ囊
 中又餘裕ヲ見ザルニ至ル左レバ兩替商ガ得ル所ノ利得ハ是自
 然ノ働キニ發セズシテ各國ガ異種ノ貨幣ヲ用フルニ出ツルカ
 故ニ廣ク社會ヨリ之ヲ觀レバ全ク不利益ナルヲ免レズ夫ノ世
 人カ一般ニ商業ノ眞面目ハ一方ヲ利シテ他ノ一方ノ多數者ヲ
 損スルモノナリトスルハ固ヨリ誤謬ノ思考ナリト雖特ニ兩替
 商ノ場合ニノミ能ク的中スト云フヘシ蓋彼此相益シ自他相利
 スルコト眞ノ商業ナルナリ之ニ由テ之ヲ觀レバ兩替商ノ利得
 ハ毫モ社會ノ富ニ補ヒ無キハ夫ノ金囊ヲ振搖レテ其金粉ヲ掠
 ムルノ所爲ト同ク其利得トスルモノハ實ハ各個貨幣ノ損失ニ
 對生スルモノト異ナラサルナリ
 銀行ノ事務ハ兩替商ノ事務ヨリ創マリタルモノニシテ當初兩
 替ノ事ハ一ニ彼輩ノ營ム所ナリシ然レモ銀行事務ト兩替事務